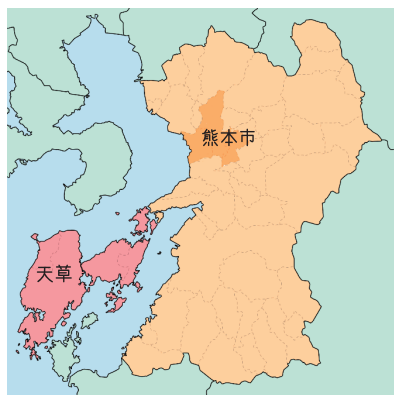


平成29年度 夏季地域医療特別実習
報告書

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
地域医療支援センター

もくじ

1. はじめに	1
2. 実習の概要	2
3. 講演会内容	11
4. グループワーク	13
5. 事後アンケートの結果	95
6. 外部講師・教員から一言	107
7. さいごに	112



天草

熊本県の南西部に位置し、大小120余の島々からなる諸島。
イルカウォッチング、キリシタン文化（天草・島原の乱）、肉食恐竜の化石が発見された島（御所浦）等が有名。

はじめに

本年度の、夏季学生地域医療特別実習の報告書が出来ました。ご覧いただければ幸いです。毎年行っている夏季実習ですが、これまでまとめの実習報告は、年度末に作成する当寄附講座および地域医療支援センター全体の報告書の中で行っていました。しかしながら本年度は、実習内容の充実に伴い、独立した報告書として作成することとしました。ご覧いただくと、いかに中身の濃い実習であったか、お解りいただけると思います。

昨年は熊本地震の直後ということもあり、被害の大きかった益城と南阿蘇での開催でした。本年は“地域を知る”ということをテーマに、天草で二泊三日のスケジュールで開催しました。広い天草の下島を中心に、グループ別にそれぞれの地域に向かい、病院等の医療機関のみならず、行政機関でのインタビュー、さらにはその地の名所も含めた探訪は、学生さんたちにとって、普段の授業や実習ではできない、かなり濃密な学びの経験であったことでしょう。今回の経験が、近い将来、彼、彼女たちが医師となって、天草はもとより熊本県内の地域医療に貢献されるきっかけになることを信じています。私自身、天草が自然に恵まれた長い歴史と文化を持つ土地であることを学び、この地が抱える医療の問題についても、実感をもって知ることが出来ました。

最後になりますが、実習に当たってご協力いただいた天草市の皆様方、天草都市医師会の先生方、また熊本県医療政策課の皆様方に、深く感謝申し上げます。皆様方のご支援なしに、この実習を行うことは出来ませんでした。今回の実習の成功は、地元と県の行政、地元医師会、そして大学の私たちが協力して、地域医療の課題に取り組む必要性を再確認する機会にもなったと思います。実習を通して、私たちの取り組みに対する皆様方の期待の大きさを感じるとともに、ご期待に沿えるよう、頑張っていきたいと思います。どうぞ今後とも、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座/地域医療支援センター

松井 邦彦

実習の概要

例年、夏季地域医療特別実習では、熊本県修学資金貸与学生や自治医科大学学生を対象に2泊3日をかけて熊本市外の病院や診療所などの医療機関で見学型実習を行っていました。しかし、平成30年度より熊本大学医学部カリキュラムにおいて、熊本市外の病院で実習を行う地域医療の臨床クラークシップ（3週間）が必修となるなど、学外の医療機関で実習をする機会が増えてきており、医学生の夏季実習に求める要望にも変化が生じてきていました。

一方、学外において臨床を学ぶ機会は比較的多くありますが、広く地域を俯瞰してみる視点やその地域を医療保健分野のみならず多方面からみる視点を養う機会は少ないのが現状です。将来県内各地で医療に従事することが定まっている学生にとって、地域診断の方法を学ぶことや勤務するかもしれない天草という地域を知ることは、地域医療に従事することへの抵抗を減らすことなどが期待できます。そういった観点で今回の実習を天草市・天草都市医師会、熊本県医療政策課の方々と共にデザインしました。



見学型から



より体験型へ

実習の目的

- 1) 医学生として、礼節をもって地域住民と交流する。
- 2) 天草地域の現状を様々な視点から知り、優先すべき健康問題についての課題を検討する。
- 3) それらの課題に対する解決・改善策について考察し発表する。
- 4) 将来熊本県の地域医療を支える、同世代の学生同士での交流を深める。
- 5) 実習を通して、地域において求められている医師像について考える。

参加学生

■ 熊本県医師修学資金貸与制度利用者	熊本大学・鹿児島大学	25名
■ 自治医科大学医学部医学科	熊本県出身者	12名
■ 天草市立本渡看護専門学校		4名

実習の流れ

◆ 事前課題を配布



- ✓ 主にインターネット上で取得できる情報をもとにステップ形式で地域診断を行う

7月20日
地域医療ゼミで
事前課題の提示と天草の
紹介がありました。



① グループワーク



- ✓ 各自が個別に調べてきた内容をもとに地域の問題についてディスカッションする



② フィールドワーク I・II



- ✓ 実際の現地でどのような問題と向き合っているか、医師以外の職種からも話を聞く
- ✓ 観光名所を訪ね、多角的な視点から天草地域を知る



③ 全体発表



- ✓ 事前学習・グループワーク・フィールドワークを通して地域の問題について考察
- ✓ それに対する対応策や解決策についてアイデアを発表（発表内容を教員・外部講師・関係者が評価票で評価）

グループ評価票

<グループ1>

グループ評価票

評価者	所属 氏名

本評価票でのフィードバックについて

*さらに内容が向上するよう、改善点やさらに具体的な改善方法について記述するなど建設的なフィードバックをよろしくお願いいたします。

この用紙の内容は、後日、書き出して学生へ共有致します。

記載者については匿名にします。

下記の項目についてフィードバックをよろしくお願い致します。

1. 資料（スライド）について

2. 発表について

3. 内容について

4. その他の点について

5. 総合評価

点 / 100点

資料（スライド）、発表（プレゼンテーション）、内容（コンテンツ）、熱意やモチベーションなどを反映して100点満点で点数をつけてください。

実習の日程

ALL
day

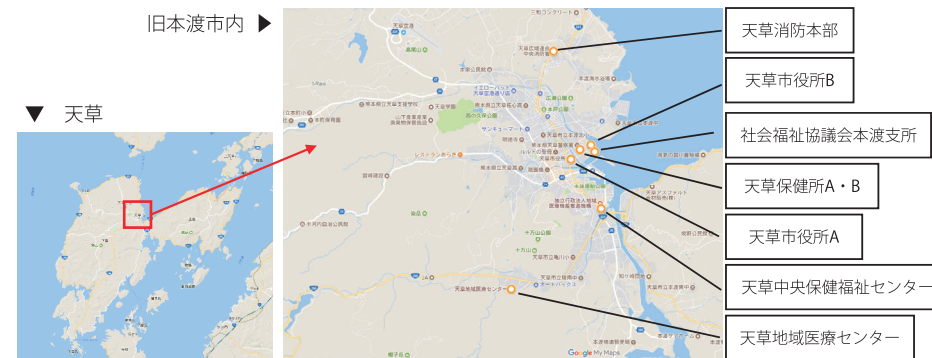
3日間の日程

	8/16(水)	8/17(木)	8/18(金)
AM	■ キリシタン館見学	■ フィールドワークⅡ	■ グループ発表 ■ 外部講師セッション②
PM	■ グループワーク ■ フィールドワークⅠ ■ 外部講師セッション①	■ フィールドワークⅡ ■ 講演会 ■ 懇親会	

1st
day

8/16 フィールドワークⅠの各グループの日程

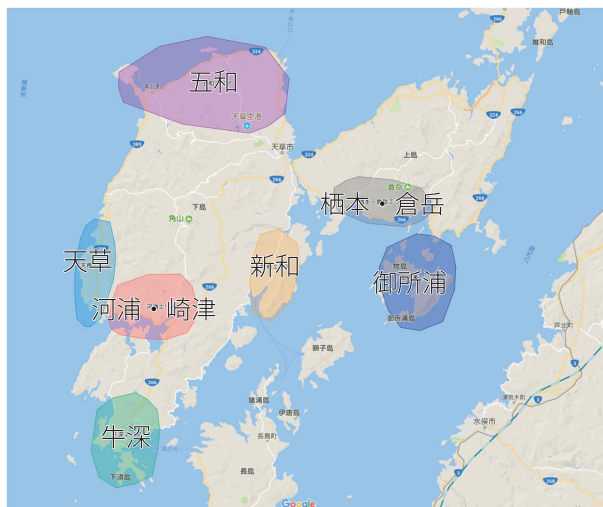
	Group 1	Group 2	Group 3	Group 4
P M	■ 市役所A (健康福祉政策課、 高齢者支援課、 国民年金課)	■ 市役所B (福祉障がい福祉係、 福祉課生活支援係)	■ 天草中央保健福祉 センター	■ 天草地域医療 センター
	Group 5	Group 6	Group 7	Group 8
P M	■ 天草保健所A (総務企画課)	■ 天草消防本部	■ 天草保健所B (保健予防課)	■ 社会福祉協議会 本渡支所



2nd day 8/17 フィールドワークIIの各グループの日程

Group 1	Group 2	Group 3	Group 4
栖本・倉岳エリア	五和エリア	天草エリア	牛深エリアA
■ 栖本支所 ■ 梅寿荘 ■ 栖本病院	■ 五和支所 ■ 中村こども・内科クリニック ■ デイサービスセンターもみじ ■ 紫明寮	■ 天草支所 ■ 森口内科医院 ■ 春光苑	■ 牛深支所 ■ 包括支援センターすいせん ■ 牛深市民病院
■ 倉岳の防風石垣群	■ 福岡城跡 ■ 天草空港	■ 大江天主堂 ■ ロザリオ館	■ 牛深の町中 ■ 明照園

Group 5	Group 6	Group 7	Group 8
新和エリア	牛深エリアB	河浦・崎津エリア	御所浦エリア
■ 親和支所 ■ 新和病院 ■ 竜洞山みどりの村	■ 牛深支所 ■ 包括支援センターすいせん ■ 牛深市民病院	■ 河浦病院 (病院事業部) ■ コレジオ館 ■ ケーナガーデン	■ 御所浦支所 ■ 御所浦苑 ■ 白亜紀資料館
■ 竜洞山みどりの村 ■ 新和苑	■ 牛深の町中 ■ 悠ほ一む	■ 崎津天主堂 ■ 崎津集落	■ 御所浦診療所 ■ 御所浦北診療所



◀ フィールドワークII
実習エリア

実習参加者一覧

実習参加学生			実習引率スタッフ	
熊本県医師修学資金貸与学生			地域医療・総合診療 実践学寄附講座	
5年 養田 美喜子	3年 今田 真亜子	2年 武元 勇人	特任教授	松井 邦彦
5年 森口 直哉	3年 詹 翔叡	2年 高橋 啓太	特任准教授	田宮 貞宏
5年 田中 祥平	3年 松田 崇秀	2年 持田 香織	特任助教	小山 耕太
5年 松尾 淳一	3年 丸目 高大	2年 五江渕 景明	特任助教	佐土原 道人
5年 山口 裕介	3年 高吉 晃輔	1年 藤川 あおい	特任助教	高柳 宏史
5年 奥村 祐生	2年 鶴田 恵理	1年 松岡 直樹	特任助教	前田 幸佑
5年 井村 昭彦	2年 白奥 光一	1年 天野 ゆり	医員	香田 将英
5年 中田 浩介	2年 佐藤 実紗	1年 野口 実奈	事務補佐員	久保 清美
		1年 渡邊 光紗	事務補佐員	山並 美緒
自治医科大学医学部学生 熊本県枠		天草市立本渡看護 専門学校生	地域医療支援センター	
5年 中原 大智	3年 林田 夏南子	1年 丸林 美和子	特任准教授	谷口 純一
5年 春木 沙良	2年 織田 ゆめ子	1年 田中 裕之	特任助教	後藤 理英子
5年 宮野 遼太朗	1年 安川 賢治	1年 吉田 栞	客員研究員 御所浦診療所所長	古賀 義規
4年 櫻田 悠美	1年 阿久根 章矢	1年 池田 真奈	コーディネーター	柚原 敬三
3年 浦川 朋也	1年 倉重 陽一郎		コーディネーター	坂田 正充
3年 千田 麻由子	1年 寺田 尚平		コーディネーター	高塚 貴子
			事務補佐員	中川 実咲
講師			熊本県健康福祉部 医療政策課	
外部講師			課長	松岡 正之
三重大学院医学系研究科家庭医療分野 助教	北村 大		審議員	中本 弘作
三重県立一志病院 医師	鶴田 真三		主幹	村上 友彦
長洲クリニック 院長	松村 伸		参事	善本 幸弘
森の里病院 医師	大林 拓真		参事	高岡 圭介
京都協立病院 京都家庭医療学センター 専攻医	横山 加奈子		主任技師	今村 元紀
頼田病院 医師	松本 朋樹		主事	坂口 拳人
頼田病院 医師	中邑 咲			

ご協力いただいた皆様

天 草 市		天 草 郡 市 医 師 会	
天草市 市長	中村 五木	天草郡市医師会 会長	酒井 一守
天草市健康福祉部 部長	伊勢崎 裕樹	中村こども・内科クリニック 院長	中村 英一
天草市病院事業部 部長	立川 尚己	森口内科医院 院長	森口 英興
天草市病院事業部 課長	中元 博文	熊 本 県 天 草 保 健 所	
天草市健康福祉政策課 課長	赤崎 むつみ	熊本県天草保健所 所長	稲田 知久
天草市健康福祉政策課 課長補佐	大西 学	天 草 地 域 医 療 セ ン タ ー	
天草市健康福祉政策課	櫻田 伸也	天草地域医療センター 総院長	植村 正三郎
天草市健康福祉政策課	谷川 美咲	天草地域医療センター 院長	原田 和則
天草市病院事業部病院事業管理者	永吉 正和	天草地域医療センター 事務部長	野嶋 豊幸
天草市立牛深市民病院 院長	松崎 法成	天草地域医療センター 庶務課	泉 良喜
天草市立新和病院 院長	濱崎 豊	熊 本 県 へ き 地 医 療 医 師 の 会	
天草市立栖本病院 院長	水流添 覚	球磨郡公立多良木病院 医師	脇田 富雄
天草市立御所浦診療所 所長	古賀 義規	小国公立病院 医師	片岡 恵一郎
天草市立本渡看護専門学校 事務長	上窪 直志	天草市立新和病院 医師	遠竹 弘久
		天草市立新和病院 医師	佐藤 智英
		上天草市立天草総合病院 医師	古川 祥太郎
		上天草市立湯島へき地診療所 医師	國友 耕太郎



ハイヤ踊りの練習から、懇親会での本番において、天草市病院事業部の立川部長をはじめとする天草市役所本渡ハイヤチームの皆様にもご協力いただきました。

グループ一覧表

グループ	氏 名	フィールドワークⅠ	フィールドワークⅡ	指導教員	随行者
1	山口 裕介	市役所A (健康福祉政策課、 高齢者支援課、 国民年金課)	栖本・倉岳エリア	佐土原	山並 天草市職員
	松田 崇秀				
	高橋 啓太				
	野口 実奈				
	林田 夏南子				
2	森口 直哉	市役所B (福祉課障がい福祉係、 福祉課生活支援係)	五和エリア	谷口 松村	天草市職員
	詹 翔叡				
	武元 勇人				
	渡邊 光紗				
	織田 ゆめ子				
3	田中 祥平	天草中央保健 福祉センター	天草エリア	中本 北村	天草市職員
	今田 真亜子				
	佐藤 実紗				
	中原 大智				
	安川 賢治				
4	高田 春和	天草地域 医療センター	牛深エリアA	前田	天草市職員
	松尾 淳一				
	持田 香織				
	春木 沙良				
	阿久根 章矢				
5	池田 真奈	天草保健所A (総務企画課)	新和エリア	香田 小山	天草市職員
	養田 美喜子				
	高古 晃輔				
	藤川 あおい				
	宮野 遼太郎				
6	倉重 陽一郎	天草消防本部	牛深エリアB	後藤 横山	天草市職員
	奥村 祐生				
	五江渕 景明				
	鶴田 恵理				
	千田 麻由子				
7	田中 裕之	天草保健所B (保健予防課)	河浦・崎津エリア	高柳 大林	天草市職員
	井村 昭彦				
	丸目 高大				
	榎田 悠美				
	寺田 尚平				
8	吉田 栞	社会福祉協議会 本渡支所	御所浦エリア	鶴田	坂田 善本 天草市職員
	中田 浩介				
	白奥 光一				
	天野 ゆり				
	浦川 朋也				
	丸林 美和子				

実習協力施設

ALL day

天草市立 本渡看護専門学校
天草地域医療センター

1st day

天草市役所 健康福祉政策課
天草市役所 高齢者支援課
天草市役所 国保年金課
天草市役所 福祉課
天草保健所
天草消防本部 警防課
天草市社会福祉協議会 本渡支部
天草キリシタン館
天草中央福祉センター 健康増進課
天草中央福祉センター 子育て支援課
天草地域医療センター

2nd day

1班 栖本・倉岳エリア

天草市役所 栖本支所
特別養護老人ホーム 梅寿荘
栖本病院

2班 五和エリア

天草市役所 五和支所
中村こども・内科クリニック
デイサービスセンター もみじ
特別養護老人ホーム 紫明寮
熊本県富岡ビジターセンター
富岡城
天草空港

3班 天草エリア

天草市役所 天草支所
森口内科医院
特別養護老人ホーム 春光苑
大江天主堂
天草ロザリオ館

4班 6班 牛深エリア

天草市役所 牛深支所
牛深地域包括支援センター すいせん
牛深市民病院
特別養護老人ホーム 明照園
地域密着型特別養護老人ホーム 悠ほーむ

5班 新和エリア

天草市役所 新和支所
新和病院
特別養護老人ホーム 新和苑

7班 河浦・崎津エリア

河浦病院
天草市病院事業部 経営管理課
天草市役所 河浦支所
天草コレジヨ館
介護老人保健施設 ケーナガーデン
カトリック 崎津協会

8班 御所浦エリア

天草市役所 御所浦支所
当別養護老人ホーム 御所浦苑
天草市立御所浦白亜紀資料館
しおさい館
御所浦診療所
御所浦北診療所

講演会の内容

講演会

安らぎのある快適なまちを目指して

天草市 健康福祉部
伊勢崎 裕樹 部長

天草市は人口約8万3千人、うち高齢者の割合は37.4%を占めています。年々減っていく人口の中、高齢者の割合は今後大きく増加することはありませんが、生産年齢の人口は大きく減少していくことが予想されています。

また、天草の医師数は全国平均の8割ほどに対し、病床は全国平均の2倍を上回り、医師の負担軽減が早急に求められています。

天草市では、「健康に暮らしていると感じる市民の割合」を8割以上にすることを目標に、医療・福祉の分野で様々な活動に取り組んでいます。

その活動の一環である天草市地域医療対策協議会では、地域医療政策の推進や医師確保の政策、保健・医療・介護・福祉の連携を高めるための取り組みを行っています。天草市民の医療に対する評価の調査を行い、市民が必要と感じていることや在宅医療・介護に対する意向や医療機関が求めていることなどを調べ、その結果をもとにして、救急医療対策の政策や医師・看護師等の確保を目的とした制度の整備、『IT化連携システム「あまくさメディカルネット」』の支援をすすめています。



天草医療圏の医療と介護
-天草地域医療センターの役割を中心に-

天草郡市医師会立 天草地域医療センター
原田 和則 病院長

天草地域医療センターでは「救急車で天草の一号橋を渡らせない」を目標に、天草地域全体で医療連携を高めた地域完結型の医療に取り組んでいます。

医療の質を高めるためには、多職種、患者・患者の家族も含めた①コミュニケーション②情報の共有化③チームマネジメントの視点が重要であり、さらに効率的な医療サービスを提供するためには①情報の共有②業務の標準化が必要だと考えられます。そのため、診療所への訪問や多職種での研修会を開いて連携を強めたり、院内での入退院支援のフローチャートを作ったりすることで業務が円滑に進むようにしています。

天草の地域医療の要として『IT化連携システム「あまくさメディカルネット」』を稼働しており、施設間の診断画像・診療情報の共有をすることで天草の医療機関での連携を強め、さらに、医療と介護の連携を高める『天草他職種ICTネットワーク事業「ひかりワンチームSP」』も稼働を始めました。これにより、天草の医療は地域完結型へと着実に近づいています。



外部講師セッション

外部講師セッション①

地域で診よう！地域を診よう！

長洲クリニック
松村 伸 院長

神奈川県鎌倉市の診療所で診療をされている松村先生を講師としてこのセッションを行いました。認知症の高齢者二人暮らしの症例を通して、参加者は地域包括ケアが必要であることを考え、地域志向性アプローチの重要性を知ります。松村先生からは、地域志向性アプローチとして、COPC（Community Oriented Primary Care）があることを紹介され、地域診断を実際に行い地域医療について参加者に考えてもらい発表をしてもらいました。

事例や、松村先生からの問いかけに対して適宜グループワークを取り入れたにぎやかなセッションとなりました。



外部講師セッション②

今回の実習の振り返り

三重県立一志病院
鶴田 真三 先生

このセッションは、今回の実習を通して地域医療について学んだことを振り返るセッションでした。三重県立一志病院の鶴田先生を講師として行いました。

参加者は、鶴田先生からの「地域医療」ってなんだろう？という問いかけについてグループで協議を行い、発表し全体共有しました。また、県外の地域医療に従事する先輩医師からのメッセージということで、飯塚頼田病院の松本朋樹先生、森の里病院の大林拓真先生より言葉をいただきました。



グループワーク

講師：地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 高柳宏史

この日初めて会った人同士もいるため、まずは「マトリックス自己紹介」というアイスブレイクから始めました。その後、事前課題で調べてきたことを持ち寄りグループで意見をまとめ、全体発表を行いました。また各グループがフィールドワークで向かう先もわかっているため、そのフィールドワーク先で担当の方から聞くことなどもまとめてもらいました。

グループワーク

熊本大学医学部附属病院
地域医療・総合診療実践学寄附講座
高柳 宏史



事前課題の内容

<基本編>

- ①天草市の基本統計データを確認しましょう（統計でみる市区町村のすがた）
- ②天草市と他の熊本県内の市区町村と比較してみましょう
 - 1）少子高齢化は比較してどうですか？
 - 2）高齢者単身世帯は比較してどうですか？
- ③フィールドワークする地区の情報を探してみよう（天草市統計書）
- ④天草の歴史を調べてみましょう。

どのような歴史的な出来事があった地域でしょうか？

<保健医療と社会福祉編>

- ①天草の地域における保健医療の供給体制はどうでしょうか？
 - 1）病院と診療所数はどうですか？
 - 2）診療科の偏りはありますか？
- ②保健医療の供給体制は、天草市内の各地区の間では差がありますか？
- ③天草市内では、介護に関するサービス供給体制はどうでしょうか？
- ④天草の地域における疾病の特徴はありますか？
- ⑤天草の地域における優先度の高い健康問題とは何だと思いますか？

<その他の視点>

- ①天草市と②フィールドワークを行う地区について
- 以下の7つの側面のうち2つを選択してインターネットや書籍などで調べておきましょう

- 1）物理的環境---気候、自然環境など
- 2）経済---産業、観光など
- 3）政治と行政---政治に関する歴史など
- 4）教育---学校、その他の教育資源などについて
- 5）安全と交通---消防署、警察、治安、道路、交通手段など
- 6）コミュニケーション・情報---インターネット普及率、新聞など
- 7）レクリエーション---娯楽施設など



グループワーク発表内容

Group 1 少子高齢化が一番問題だと思う。その理由を調査したい。経済活動があまり活発でないことや、交通の問題があるのではないかと。交通の便が影響しているのではないかと予想している。人口が減っているのに、高齢者が増えると病気や介護のニーズが増えるが、供給体制が乏しいのではないかとと思われる。

Group 2 五和町は天草市の中でも人口が3番目に少ないが、空港やイルカウォッチングなど観光できるところもある。病院もあるが、海側に偏在している。山側に住んでいる人たちへの医療体制が整っていないのではないかと考えたので、フィールドワークで聞いてみたい。

Group 3 天草エリアは高齢化が進んでおり、天草市の中でも特に65歳以上の人口の増加率が高い。高齢化が進む地域特有の医療ニーズとはどんなものなのか、健康面や生活面を含めて、どんな問題があるのかということをフィールドワークの施設で話を聞いてみたいと思う。

Group 4 調べてきたデータと、住んでいる人の意見での乖離がある。人口減少・少子高齢化があるが、実際では、天草市のなかでも地区ごとに差がある。保健医療と社会福祉でもデータと実際でも乖離があるのではないかと考えた。フィールドワークで地域の実情を聞いてみたい。

Group 5 新和エリアでは、高血圧・高血糖などの生活習慣病が多い。食生活、もしくはその他の要因があるのではないかと。それらを調べ、対応策について考えていけたらと思う。事前調べでは、介護福祉のデータはなかったが、実際の施設数は足りているのではないかと。でも職員数等は不足しているのではないかと。

Group 6 人の動きに視点を当て考えると、天草と八代での交通の比較（熊本市との距離は同じ）では、天草の方が時間がかかり人の動きも悪い。牛深はさらに遠いため、人口減少など問題があるのではないかと。人の動きの差の理由をフィールドワークの聞き取りを通して調べてみたい。

Group 7 河浦・崎津エリアは少子高齢化が進んでいる。医療施設に関しては地域平均に近い数はある。しかし、医師数を面積当たりで計算すると少ないということが事前の調べで分かった。医師の偏在があるのではないかと。その偏在の理由と対策についてフィールドワークを通して考えていきたい。

Group 8 天草は、御所浦も含めて全体的に高齢者の増加や生産人口減少が進んでいる。人口の減少を食い止めるためには、天草に残ってもらえるような政策や対応をすればよいのではないかと。事前の調べでは、御所浦の医療供給は恵まれている。しかし、介護の資源に関しては足りていないのではないだろうか？

グループワークスライド

1

グループワークの流れ

- ・導入とアイスブレイク（約10分）
- ・事前課題の共有 各10分（計30分）
 - <基本編>
 - <保健医療・社会福祉>
 - <その他 2つの領域>
- ・フィールドワーク1・2の担当地区における保健医療・社会福祉の課題は何か？（10分）
- ・全体発表 各グループ 2分 計20分（口頭で）
 - 発表内容：優先すべき健康問題とその理由
- ・最終日の発表に関して（10分）
 - 地域や健康問題について
 - 対応策・改善策に関してアドバイス

2

アイスブレイク：マトリックス自己紹介

流れ

- ①A4用紙の中心に大きく自分の名前を記載する
- ②自分と関連する具体的なキーワードを記載する
例：「映画」 → 「シン・ゴジラ」
「子供」 → 「長女7月12日出生」 /3分
- ③その用紙を見ながら雑談
ルール：
用紙を使って自分から自己紹介しない
質問OK その回答もOK
共通点や意外な点を探そう！！ /5分

3

事前課題の共有とグループディスカッション

- ・配布資料をもとにグループ内で意見をまとめていってください

グランドルール

- ①発言は質より量
- ②低学年から発言
- ③いろいろな意見を尊重してください

司会進行・発表
熊本大学 第5学年
今後は適宜割り振ってください

4

事前課題の共有とグループディスカッション

では、始めてください！

- ・事前課題の共有 各10分（計30分）
 - <基本編>
 - <保健医療・社会福祉>
 - <その他 2つの領域>
- ・フィールドワーク1・2の担当地区における保健医療・社会福祉の課題は何か？（10分）

5

配布資料参照

- ・地域の範囲や対象者についてしっかり特定する
- ・フレームについては参考までに
- ・最終日の発表は6分・質疑2分
健康問題は1つに絞り、より具体的に現実的なものに表彰があります
（最優秀グループへは景品（粗品）あり）

6

グループワーク： 質疑応答

- ・導入とアイスブレイク（約10分）
- ・事前課題の共有 各10分（計30分）
 - <基本編>
 - <保健医療・社会福祉>
 - <その他 2つの領域>
- ・フィールドワーク1・2の担当地区における保健医療・社会福祉の課題は何か？（10分）
- ・全体発表 各グループ 2分 計20分（口頭で）
 - 発表内容：優先すべき健康問題とその理由
- ・最終日の発表に関して（10分）
 - 地域や健康問題について
 - 対応策・改善策に関してアドバイス

各グループ実習内容

Group 1	…………	P.16	～	P.24
Group 2	…………	P.25	～	P.34
Group 3	…………	P.35	～	P.44
Group 4	…………	P.45	～	P.53
Group 5	…………	P.54	～	P.63
Group 6	…………	P.64	～	P.72
Group 7	…………	P.73	～	P.82
Group 8	…………	P.83	～	P.91
写真など	…………	P.92	～	P.94



Group
1

グループメンバー

山口 裕介	熊本大学医学部医学科生	5年生
松田 崇秀	熊本大学医学部医学科生	3年生
高橋 啓太	熊本大学医学部医学科生	2年生
野口 実奈	熊本大学医学部医学科生	1年生
林田 夏南子	自治医科大学医学部医学科生	3年生

1日目 フィールドワークⅠ

天草市役所 (健康福祉政策課、高齢者支援課、国民年金課)

2日目 フィールドワークⅡ

栖本支所 梅寿荘 栖本病院 倉岳の石垣群

1st
day

グループワーク

少子高齢化が一番問題だと思う。その理由を調査したい。経済活動があまり活発でないことや、交通の問題があるのではないかと予想している。人口が減っているのに、高齢者が増えると病気や介護のニーズが増えるが、供給体制が乏しいのではないかとと思われる。

2nd
day

フィールドワークⅡ

9:00	9:10-9:40
9:30	栖本支所にて説明
10:00	9:50-10:50
10:30	梅寿荘(特養)見学
11:00	11:00-12:00
11:30	栖本病院見学
12:00	12:05-13:00
12:30	栖本温泉河童ロマン館にて昼食
13:00	
13:30	13:20-14:10 倉岳の防風石垣群
14:00	見学
14:30	

3rd
day

発表

栖本は人口2891人のうち65歳以上が44%、倉岳は人口2235人のうち65歳以上が40%である。この地域は漁業よりも農業が盛んであることが天草の他の地域との大きな差である。特産品はシモン芋であり、河童伝説にちなんだ行事も多く、えびす像や石垣群といった観光資源もある。健康面での特徴としては特定健診の受診率が高いことである。(熊本市が36.4%に対し、栖本は48.4%)

栖本支所では、栖本の紹介プロモーションビデオを見せてもらった。住民の結束の強さが分かり、そのことが特定健診の受診率の高さにも繋がっていると感じた。

梅寿荘では、「うれしかった辞典」という独特の取り組みをしていた。職員の感じた嬉しかったことをまとめており、職員のやる気に繋がっているようで普通よりも離職が少ないようだ。しかし、離職は少ないと言っても人材自体は不足しているようだ。

次に訪れた栖本病院での話では、元々天草の結核患者を受け入れる施設としてできたことや、今も結核患者の入院を受け入れていることを聞いた。また、地域にある病院がここだけということもあり、内科中心の専門医師が多いが外科的な症例も受け入れていて、実質総合診療を行っている。

その後、河童ロマン館で昼食をとり、えびす像や棚底地区の石垣群の見学などをした。

フィールドワークを通して見えてきた問題は、少子高齢化と医療従事者も高齢化していること。その解決策として、①高校生の病院・介護施設の職場体験を行い若者が地域の医療に触れる機会を増やすこと、②看護師や介護士の制服を若者が魅力的に感じるようなもの(ワンポイントの刺繍を入れるなど)に変えること、③医師が歩み寄り、医療と介護の連携をさらに強めることなどを考えた。

1班：栖本・倉岳

熊本大学5年 山口裕介
3年 松田崇秀
2年 高橋啓太
1年 野口実奈
自治医科大学3年 林田夏南子

概要(栖本)

- ▶人口
- ▶年齢構成割合
- ▶農業
- ▶川(河童)
- ▶特定健診の受診率が高い

概要(倉岳)

- ▶人口
- ▶年齢構成割合
- ▶えびす像
- ▶シモン芋

天草市役所栖本支所

- ▶行事が豊富
- ▶住民の結束が強い

梅寿荘

- ▶離職は少なくはない
- ▶人材の確保

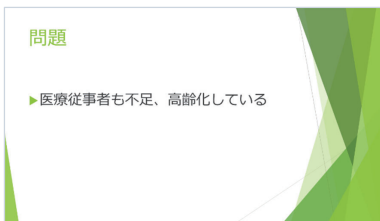
栖本病院

- ▶栖本の人とはとらず栖本病院に来るので、ほぼ総合診療
- ▶救急は内科専門
- ▶訪問看護は休止中

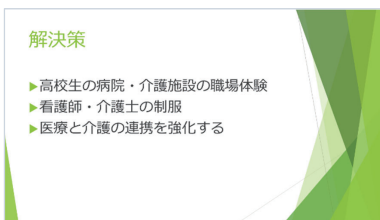
7



8



9



Evaluation

スライド発表評価

1.資料（スライド）について

- 色彩、文字数ともにシンプルですっきりして見やすかった。
- 見やすくまとめた。
- ポイントを抽出して見やすいスライドだった。
- シンプルで見やすかったが、数字は読み上げるよりスライドに記載した方がよかった。
- 人口や年齢構成割合についてグラフ等の視覚に訴えると分かりやすかった。
- 具体的データをスライドに使った方がわかりやすいと思いました。
- もう少し情報を記載すると、口頭も減っていいと思う。
- 梅寿荘 離職は「少なくはない」？発表では「少ない」？
- 全体としてスライドの情報が少ないです。必要な資料はスキャンや写真としてスライドに入れるとよかったかもしれません。
- もう少しスライド作成に時間をかけてほしかった。（文字が少なすぎる）
- 余った部分に写真や図があっても良いかな？と思いました。（シモン芋とか）

2.発表について

- 少し声が小さかった。堂々とした発表を。
- 大きな声で自信を持って！
- 非常にわかりやすく、理解しやすかった。
- 全員が話をしたのは良かったと思います。
- スライドを強化すると視覚情報も増えてよかったのではないかと思います。
- 質問に対して、班員が積極的に答えようという態度が感じられ良かったです。
- 声のトーン、スピードはとてもGoodはっきりとした口調で発表していた。
- 時間長い…
- スライドを読むのではなく、語っていたのがよかった。人によっては、前を向いて話ができると、なおいいと思います。
- トップバッターで少し緊張感が伝わりましたが分かりやすかったです。
- 時間オーバー
- グループ構成員が皆で分担していて、グループとしてのまとまりを感じた。
- メンバー全員に発表の機会があり良かった。各人、落ち着いていた。
- 原稿を読んでない点がよかった。

3.内容について

- 短い実習期間の中で、有意義な取り組みがなされていた。
- 少子高齢化の現状提示が具体的に示せたほうが説得力があると思いました。
- 制服に力を入れるというのは面白いですね。
- 限られた時間の中で地域の特徴などよくとらえてあった。
- 当地区（栖本）は結束力の強さ（地域性）から、特定健診率の高さにつながっている
- “健康受診率高い→何故？→町民全員参加の祭りがあ”等理由まで言及できているのが良い
- 職場体験等について自分の体験をふまえて話している点や、制服について若い世代ならではの意見で新しい視点の提示ができていたのがすばらしい。
- 対応策として、高校生を巻き込んだ発想は地域にとって具体的な案としてよかった。よく地域について調べられていて、捉えられていたのは良かった。
- 緩和ケアのように“地域のおわり方”についての考えに、私も“はっ”とさせられました。
- 短時間でありながら、よくまとまっていた。
- しっかり栖本倉岳の地域を見てこられたのだな、と思いました。
- 解決策について、高校生の職場体験など具体的に提示していて良かった。
- 制服に着目した点が独特ですばらしい。おもしろい。
- 地域の強み、特徴からの方策をもう少し考えてみてよかったと思います。
- 離職率が低いのは何故だろう、という視点はとても大事ですね。地域で人が離れにくい仕組みでしょうか…
- 様々な角度から考察していると感じた。地域のことをしっかりと見た上で問題点を抽出し考察している。
- 問題点についても着眼点がよく、グループでのDiscussionの後も感じられた。
- グループ内の意見の相違をうまくまとめて、解決策にたどりつけていた。
- 制服の視点が新しい。ユニークな解決案で好感が持てた。
- せっかくなら、どんな制服が流行りなのか呈示して欲しかった。

4.その他の点について

- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にさせていただきます。
- よく話を聞いて住民の視点に立つことができていると思う。
- 住民意識が高い
- 短い時間でよくまとめられたと思います。
- もう一步踏み込んで「いや、きっと何か理由があるだろう！」と自分達なりの考えを出せると更に良かったですね。
- 質疑にも、しっかり答えられていた。

総合評価
1222点

(評価者16名、1人につき100点にて評価)

※評価には以下の点を反映しています。

- 資料（スライド）
- 発表（プレゼンテーション）
- 内容（コンテンツ）
- 熱意やモチベーションなど。

Report 学生レポート

熊本大学医学部医学科 5年 山口 裕介

□ 当初の実習目標

- ・ 最上級生としてグループをまとめる
- ・ 天草について知る
- ・ 旧交を温める

□ この実習でできたこと

地域医療実習もいつの間にか 5 回目の参加となり、毎年会ってきた自治医科大学の同級生たちと会うのも最後の年になった。毎度のことながら、あまり自由時間のない日程で、十分に交流できたかという正直物足りなかったが、楽しく過ごすことができた。将来一緒に働くことになっても楽しくやれると思う。

夏季実習では 4 年前にも天草に来たが、そのときは病院での実習がメインで今回のようにそれぞれの地域の歴史や特色について学ぶことはなく、単に「医者が足りないんだなぁ」くらいの感想しか持たなかった。今回は天草キリシタン館や天草市役所栖本支所などで歴史や地域の成り立ちを学ぶことができた。それらが地域の人たちのまとまりや気質などに関係していて、特定健診の受診率や生活指導を真面目に受け入れる素地につながっているであろうことが興味深かった。

□ この実習でできなかったこと

今回の実習は参加した中で一番上の学年ということで、グループ内でもまとめ役にならなくてはならぬ面倒そうだなと思っていた。うまく意見を引き出しつつまとめていくことが理想だったが、結局は班員の意見を聞きつつ半端に自分の意見も出しつつでまもらず、夜遅くまで話し合った挙

句に非常に中途半端な発表内容になってしまった。他の班より時間をかけたにも関わらず一番半端な仕上がりになり申し訳なかった。

同じ医学部生の 5 人班でさえ意見をまとめるのが難しいのに、今のままでは地域の調整役になてなれそうにないと感じた。

□ 実習の全体的な感想

今回は地域の行政の人の話を聞いたのが印象深かった。地域の課題に対していろいろと対策を講じていて、それでもなかなかうまくいかないという現実があることがわかった。健康増進のための啓発活動など思ったよりもずっと多くのことが行われていて、これ以上効果的な何かをするのは難しいんだろうなと思った。

1 年の時から天草、阿蘇・小国・山都、玉名・荒尾・山鹿と地域医療実習でお世話になり、各地域で医師が必要とされていることは感じたが、天草は特にウェルカムな雰囲気を感じた。懇親会が盛り上がるからだろうか。しかし、どこの地域でもそれぞれ良し悪しがあるだろうし、ここで働きたい！という程のものではなく、将来どこで働くのだろうと考えてしまった。懇親会でも話が出ていたが、結婚相手がいないのかもしない。市長さんをお願いしておくべきだっただろう。

栖本病院で新聞の取材を受けたときに年齢を訊かれて素直に答えてしまい、紙面で「熊本大学医学部 5 年の山口裕介さん (31)」としっかり書かれて熊本県中に年齢がばれてしまったので、少し年齢をごまかせばよかったかなと思った。

□ これらをもとに、地域医療において求められる医療人としての理想像について

これから日本全体で人口が減少していき、地域では更なる人口減が避けられない。医療や介護に従事する人も確保しづらくなっていくだろう。その中で医療の質を維持していくには地域包括ケアを効率的に運用することが重要になると思う。そのためには各関係者同士がうまく意思疎通でき、連携できる環境を作ることが必要になる。

周りの意見をよく聴き、うまく調整できるような医師になりたい。



熊本大学医学部医学科 3年 松田 崇秀

□ 実習の自己目標

- ① 天草の特色について知る
- ② 求められているものが何かを感じる
- ③ 地域医療について考えを深める

□ 自己目標についての振り返り

今回の実習では事前学習が与えられており、天草についての知識をある程度先に得ることとなったが、実際に地域に行ってみないと分からないことも多かった。例えば、

- ・ 一括りに天草といっても地域ごとに住民や町の特性が違う
- ・ 本渡は他の地域よりお店や施設、学校などが多く、高齢化もそこまですすんでおらず、一極集中に近い状態になっている

などがあげられる。

次に求められるものだが、私が訪ねた様々な施設先では、現状や困っていることなどいろいろなことを話してくださったり、私たちが来るのを切望してくださったりと、「私たちは必要とされている」ということを強く感じた。人物像としては若い人や、やりがいをもって働いてくれる人が求められていた。また、栖本町の施設の方は、施設と病院の医師との連携があまりうまくいっていないと感じている様子だったため、院内だけでなく地域の様々な施設、職種とうまく連携ができるような医師が重要であるということも感じた。

最後に地域医療についての考えについて。

これまでも「地域医療とは何か」という議題は何度出ていろいろ考えてきた。今回もその議題があったが、地域医療とは地域のニーズに応える医療を提供することではないだろうか。私が訪れた栖本町では、よく比較対象として牛深町があげられていた。栖本町は稲作中心の暮らしであり牛深町は漁が中心の暮らしである。また、話によると両町の住民の性格や考え方も大きく違うようだ。このように地域によって大きく特性が違う以上、住民の来院の理由や求められる医療もきっと違うだろう。

また、私はこれまで地域医療にたいしてやって来る患者をすべて医師がなんとかしなければならぬようなイメージを抱いていた。しかし今回できないことはできないと割り切る大切さを学んだ。問題はできないことに対し、どう対処するかである。何か手はないか、頼れる人はいないか。個人でなく地域全体で解決していくことが地域医療であると思う。そのようなことができる医師が地域医療にとっての私の理想である。

□ 感想と今後について

今回の実習では、事前学習を行い、フィールドワークをするなど聞いたとき、初めは正直面倒くさそ

うだと思った。しかし実際にやってみると自分でもいろいろなことに気づくことができ、これまでの実習より多くのことを学ぶことができたように感じる。これは今まで受け身でやってきた夏季実習に積極的に取り組めたからだと思う。だが、今回の事前学習もよくよく考えれば「与えられた」ものであった。この経験を活かし、今後何かに取り組むときは自分で何かをプラスワンすることから始めてみようと思う。

また、3年生になって分からないこと、頭から抜けていたことも多かった。実習をより有意義にするためにも基礎知識をしっかり定着させたい。

最後に、この実習を行うにあたって支援をしてくださった全ての方、一緒に学んだ学生の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



熊本大学医学部医学科 3年 高橋 啓太

□ 当初の実習目標

- ・ 天草地域医療に携わるさまざまな職種の方々から実情について聞く
- ・ 天草地域医療における課題を探り、具体的な解決策を見いだす

□ この実習でできたこと、できなかったこと

市役所、病院、介護施設などを訪問し、そこに勤める人の生の声を聞くことができました。疑問点などを積極的に質問することもできました。

天草地域医療における課題は分かりましたが、有効な解決策を見いだせませんでした。

□ この実習の全体的な感想

私は栖本・倉岳エリアで2日目の実習を行いました。最初に訪れた栖本支所においては、栖本の住民間での助け合いの精神を知りました。事前学習の時点で、栖本町の特定健診受診率が天草市の中で5年連続1位というデータに注目していたので、その要因が実際に訪れてみてわかりました。

栖本地区唯一の老人施設である梅寿荘、唯一の病院である栖本病院の双方を訪れてみて、医療と福祉の連携の重要性を学びました。また栖本病院と地域住民との信頼関係が十分に確立されているなという印象を持ちました。栖本に住む方々は、なにかあったら栖本病院に行く。それを受け入れるための病院側の柔軟性。専門外でもやれることはあります。地域医療で活躍する医師の姿をみることができました。

□ これらをもとに、地域医療において求められる医療人としての理想像について

コミュニケーション能力は重要だと改めて思いました。正確な知識、技術を持つことはもちろんですが、会話から患者さんの変化に気づける力。これはその地域になじまなければわからないものもあるのではないかと思います。その地域ならではの疾患を頭に入れ、今の時期は農家をしている人はこれをしているから、漁師の方はこうだからとか、地域住民の1人として日常から考える力も必要だと思いました。



熊本大学医学部医学科 1年 野口 実奈

□ 当初の実習目標

- ・ 訪れる地域（栖本・倉岳）において、どのような医師が求められているのかを知る
- ・ 色々な人の話を聞き、自分に足りないものを見つける
- ・ 上級生との意見交換を通し自分との考え方の違いを知り、これからどのように物事を考えていけばよいのかの参考にする

□ この実習でできたこと、できなかったこと

➢ できたこと

- ・ 話を聞き自分なりに考え質問することができた
- ・ 問題点や解決策などを話し合いを通してしっかりと考えることができた

➢ できなかったこと

- ・ 上級生のように深いところまでは見るができなかった
- ・ 話を聞いていても所々わからない部分などがあり、すぐには理解できなかった

□ この実習の全体的な感想

初めは不安もあったが、上級生の方や自治医大の方と一つの班で行動していくことによって、自分だけでは見えてこなかった問題点も見つけることができた。私も玉名で過ごしていた時期があり、こういうこじんまりとした人と人とのつながりの深い地域で医療活動を行いたいと思ってきたので今回実際の医療現場の方々のお話を聞くことができて、どのようにして患者さんやお年寄りの方と接していくべきかを考えることができたと思う。また、医師だけでなくほかの職種の方のお話も聞

くことによって、医師に対してどのようなイメージを持っているのかを知り、自分が医師になったときにナースや介護士の方との話し方、コミュニケーションの取り方など考えさせられるところが多々あった。

2泊3日の研修を通して、普段では体験できないことも体験でき考えることによって、成長することができたと思う。多くの方々に協力いただきこのような機会を作っていただいたことを感謝するとともに、あと4回の実習を通して地域に求められている医師になれるようにしたい。

□ これらをもとに、地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

講義の中で習った地域診断や実際に地域を訪れたことによって、地域や患者さんのことをよく知ったうえでニーズを把握して対応していくことが大切になっていく。自分の考えている医師がその地域に住んでいる患者さんに求められているとは限らないので、柔軟に対応していく力も必要である。田舎では専門医よりも家庭医のほうが医師不足のこともあるので必要であると思う。そこで家庭医は様々な症状を幅広く見なければならず、講義でもあったように難しく困難な状況にぶつかることがたくさんあると思うが、いかに諦めずに努力をしていくかが大切である。



自治医科大学医学部 3年 林田 夏南子

□ 当初の実習目標

今回の実習に参加するにあたり、2つの目標を立てた。1つ目は、天草地域の医療の現状について現地を訪問し、様々な職種の方のお話を伺うことによって理解を深めること、2つ目は、求められている医師像について考えることである。

□ この実習で、できたこと、できなかったこと
事前学習とその共有により、統計からみる天草市と担当エリアであった栖本・倉岳エリアについて概要をつかむことができた。しかし、統計だけではわからないことが多くあるということをフィールドワークで実際にその地域に住んでいる方・働いている方にお話を伺うことで学んだ。栖本地域の方々が地域の結びつきが強いことや、穏やかな気性の方が多いことなどはデータではなかなかわからないことであり、実際に現地を訪れ、地域の方からお話を伺うことの重要性を感じることができ、担当エリアについての理解が深まったように思う。

しかし、医療従事者・行政の方以外の住民の方からお話を伺う機会がなかったことは残念に感じた。

今回は特に栖本地域に注目して学習を進めていったが、地域の結びつきが強く、医療の面でも病院・介護施設が町の中にあるという、ある意味完成された地域だという栖本地区に対するアプローチの難しさを感じた。住民同士の助け合いができてい所に新しい住人を多く呼び込むことは、今の助け合いの状態を破壊してしまうのではないかとといった意見もあり、班で意見がまとまらず、最終日の発表で具体的な案を出せなかったことは残念だった。しかし、栖本地区について班で理解深め、意

見を出し合い議論できたことはとてもよかったと思う。

□ この実習の全体的な感想

今回の実習の中で特に印象に残ったことは、天草市職員の方や栖本・倉岳の役場の方、医療・介護従事者の方が実習に協力してくださり、私達の質問にも熱心に答えてくださったことである。天草市の医療をより良くしていきたいという熱意を感じた。医療だけでなく観光資源・教育機関などにも理解を深めておくことも医療問題について考えていく上で助けになるということを知ることができたことは、今後、地域医療に携わる上で役に立つことであると感じた。

□ 地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

各訪問先で求められる医師像について伺うことができた。医療と福祉の連携がもっと必要だという意見があり、また、上から目線の医師ではなく親身になってくれる医師がいいという意見もあった。これらの意見から、様々な立場の人とうまい対人関係を形成できるような能力が求められていると感じた。より良い関係の形成が多職種間の連携へと繋がると私は考える。また、様々な疾患に対応できる幅広い知識を持つことが求められていることを、診療科の偏りがあるということや、実際の医療の現場で働いている方からの意見から知ることができた。



Group 2

グループメンバー

森口 直哉	熊本大学医学部医学科生	5年生
詹 翔毅	熊本大学医学部医学科生	3年生
武元 勇人	熊本大学医学部医学科生	2年生
渡邊 光紗	熊本大学医学部医学科生	1年生
織田 ゆめ子	自治医科大学医学部医学科生	2年生

1日目 フィールドワーク I

天草市役所 (福祉課障がい福祉係、福祉課生活支援係)

2日目 フィールドワーク II

五和支所 中村こども・内科クリニック
デイサービスセンターもみじ 紫明寮 富岡城跡



1st day

グループワーク

五和町は天草市の中でも人口が3番目に少ないが、空港やイルカウォッチングなど観光できるところもある。

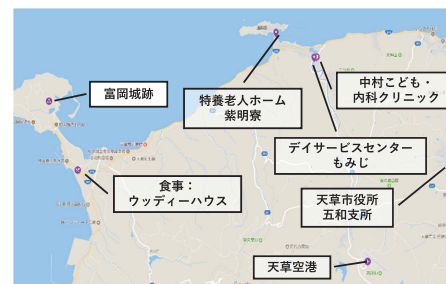
病院もあるが、海側に偏在している。山側に住んでいる人々への医療体制が整っていないのではないかと考えたので、フィールドワークで聞いてみたい。



2nd day

フィールドワーク II

9:00	9:00-9:30	五和支所にて説明
9:30		
10:00	9:40-10:40	中村こども・内科クリニック、
10:30		デイサービスセンターもみじ見学
11:00	11:00-11:50	紫明寮 (特養) 見学
11:30		
12:00	12:10-13:00	ウッディーハウスにて昼食
12:30		
13:00	13:10-13:40	富岡城跡見学
13:30		
14:00		
14:30	14:15-14:30	天草空港見学



3rd day 発表

五和の地域の地図を見てみると、海側にある国道沿いに点在していて山側にはないため、山側の住民の医療の現状がどうなっているのかを中心にフィールドワークで話を聞くことにした。

五和支所での話では、病院に至るまでの道が狭くてアクセスが悪いこと、道の整備が悪い場所がまだあること、家同士の間隔が広く近所の様子を把握しづらくて閉鎖的であることが分かった。アクセスの悪さに関しては、実際の事例で7月に蜂に刺された人が病院までの移動に時間がかかったこともあって、アナフィラキシーで亡くなってしまったということもあり、道の整備や改善が急がれる。

閉鎖的で医療に頼ろうとしない住民が多く、医療の情報も少ないためか、健康への意識も低いようである。

改善のために、実際に高齢単身世帯への在宅医療や道路の整備、緊急通報システムの普及などに取り組んでいるが、道路の整備もあまり進まず、他の2つもあり活用されていないことが現状である。

これらの問題の対策として、①医師が中心となって健康の生涯教育を行うこと、②参加しやすい小さなコミュニティを作り廃校になった小学校などでイベントを開催して交流を図ること、③健康についての広報活動を直接の呼びかけには消極的になると考えられるため、広報誌の発行などで健康への意識を高めるなどの対策を考えた。ただ、医師が地域の中心となり健康面で引っ張っていくのが理想だが、実際にはそうもいかないため、学生たちがこういった活動に関わっていくのが良いと思う。

天草地域における優先すべき健康問題 in 五和町

2班
森口 直哉、詹 翔毅
武元 勇人、渡邊 光紗、織田 ゆめ子

五和町について



海岸沿いに病院が偏在
病院が遠い地域の救急は？

診療所が遠い地域

- 緊急な場合にすぐ病院にアクセスすることが難しい
- 道の整備ができていない箇所が多い
- 住民同士の家の距離も離れている

地域住民の特徴

- 高齢者単身世帯が多く孤独死が多い
- 人との関わりを持ちたがらない→閉鎖的
- 医師や病院をすぐに頼ろうとしない

健康に対する意識・危機感が薄い!!

今行われている問題への取り組み

- 高齢者単身世帯に対する在宅医療
- 道路整備中
- 緊急通報システム

我々の考える対応策

1. 医師が住民に健康に対する生涯学習を行える場を設ける
2. 小さいコミュニティをつくることで住民間のつながりを強化する
3. 健康意識を高める広報活動を行う

学生にも関われる部分があるのでは？

謝辞

本実習に参加するにあたりお世話になりました
すべての方々に感謝申し上げます

評価
1262点

(評価者16名、1人につき100点にて評価)

※評価には以下の点を反映しています。

- ・ 資料 (スライド)
- ・ 発表 (プレゼンテーション)
- ・ 内容 (コンテンツ)
- ・ 熱意やモチベーションなど。

2.発表について

- 声の大きさも適度で堂々とした発表であった。
- 質疑もOKでした。
- 声が大きく、聞き取りやすかった。
- 時間が長かったので、もう少しまとめられたらと思った。
- 全体の流れが違和感なく続いており、わかりやすかったです。
- 質問に対して受け答えできて良かったです。
- 前を向いて話せるとよりよいと思います。
- 落ち着いた口調で聞きやすかったです。
- 話すスピードやトーンGood
- その地区の特徴を端的にまとめてあり、わかりやすかった。
- 声が大きくてわかりやすかった。
- 説明の際、わかりやすい例示が多く良かった。

Evaluation スライド発表評価

1.資料 (スライド) について

- 文字を大きく。ポインターの使用をしてもらえれば。
- 地図を示したのは分かりやすくていいですね。
- 単調であった。データやグラフなど用いるとよかった。
- 見やすく、分かりやすくできていた。
- シンプルですが、情報はわかりやすく記載があり、よかったです。
- ポイントを抽出して見やすいスライドでした。
- 箇条書きで見やすい。写真があるとさらに良かった。
- 強調したい事が分かりやすいスライドでした。
- シンプルで見やすいですね。数字で項目を作ってるのもGood
- シンプルで見やすかった。よくまとまっていると思われる。
- カラーで見やすかった。
- 字のフォントや、色を変え、強調したい点が明確で良かった。

3.内容について

- (五和町について) 生涯学習の場、小さいコミュニティ、広報活動等、医師の意欲的な活動が必要という対応策は、なるほどな、とうなずける発表であった。
- 難しいかもしれませんが、住民ネットワークを強化するというのはいいですね。
- 地域の特徴を理解できている。しっかりとらえていた。
- 課題に対する行政の取り組みをもう少し聞き出してみては。
- 事前に問題点を予測して話を聞けていた。
- 健康観については“その人”との対話など通じてしっかり向き合えば、本当のところは分らないと思います。
- そこまで深くつきあえる方があまりいないのでしょうか? 「患者中心の医療」のコンポーネントを思い出しました。
- しっかり対策について考えられていると思いました。自分たちにできる事を考えるのも素晴らしいです。
- 具体的な数値を示してもらえると、もっと説得力が増して良いと思います。
- 地域の問題点を的確に把握できていて、とてもよかった。
- 地域と学生もかかわれる、役立てることがあると気付いた点が素晴らしい。ぜひ実践してみてください!!
- 近接性を高めるための方策を考慮するよい経験になってよかったと思います。
- 地域の歴史やその奥にある人の思いに触れられると更に面白くなりそう。
- 地域の特性をよく理解し考察していた。
- 地域医療の視点から、医師の役割をよく考えた内容であった。
- 地域の特色を把握し解決策を導きだしていた。
- 立地に注目した点はよかった。
- 医師と地域のかかわり方に関して、閉鎖的なところの改善方法は、なぜ閉鎖的なのか原因を考えてみるのも重要と思った。

4.その他の点について

- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にさせていただきます。
- 具体的な対策と実現可能性を考えて発案している点が良い。
- 地域の特徴をしっかり捉えていて良かった。
- 対応策も具体的でよかった。
- 短い時間でよくまとめられたと思います。お疲れさまでした。
- 時間長い!もう少し熱意がほしかった!
- 課題の抽出から対策まで整理されていた。

Report

学生レポート

熊本大学医学部医学科 5年 森口 直哉

自分が夏の地域医療実習に参加するのは、今回で4度目であった。過去3回の実習と比べると今回の実習は内容がかなり異なっていて驚かされた。今までは地域の1つの病院へ行き、1日かけて病院の設備や診療の様子を見学させていただくということが多かったが、今回は病院の医療というだけでなく、人口や地理等のデータを踏まえ、地域そのものの、地域全体の医療の現状を勉強するという実習であり、まさに地域医療を学ぶ実習であると感じた。もちろん地域の病院で行われている医療をしっかりと見るということも必要なことなので、そういう意味では今までの実習と今回の実習を両方経験したことで、地域全体と地域の拠点病院という広さと深さを兼ねそろえた2つの大きな要素にきちんと触れることができたと思う。

また今回は自分が上級生ということで、班員をまとめ実習の進行を任されていた。結構下級生に助けられた部分が多く、あまり上級生としての役割を果たせていなかったことが反省点として残った。同時に、自分の意見をしっかりと持ち実習に参加していた下級生達には頼もしさを感じた。

4度の地域医療実習を通して天草で2回、阿蘇と玉名で1回ずつ実習を行うことができたが、地域に求められている医師像、地域が抱えている医療問題をたくさん学ぶことができた。これからもこの地域医療実習が続いていき、たくさんの学生に参加をしてほしいと思う。



熊本大学医学部医学科 3年 詹 翔毅

□ 実習の目標

- ・ 天草地域について知る
- ・ 天草地域の健康問題と対策案を考える
- ・ 将来地域に求められる医師像を考える

□ この実習でできたこと・できなかったこと

天草地域について知るについては、天草市役所や五和支所でのフィールドワークによって天草地域、特に五和町について知ることができたと思う。ただ時間の関係や自分の準備不足であまり質問ができなかったことは残念だった。

天草地域の健康問題については五和町の健康問題がいくつか考えられ、1つに絞るのが難しかった。対策案についてもなかなか現実的な案が浮かばず苦労した。

将来地域に求められる医師像については事前学習とフィールドワークによって自分の中で答えを出すことができた。

□ この実習の全体的な感想・学んだこと

今回の実習では初めて事前課題が出された。事前課題によって天草市について統計的に知ること

ができた。そして事前課題をグループ内で共有してフィールドワークを行ったことで天草市についてより深く、内側から知ることができたと思う。この事前課題は今後もあるといいと思うし、なくても今回の事前課題を参考にして自分なりにやってみようと思った。

1 日目の天草市役所でのフィールドワークでは、「天草市はいくつもの町が合併してできているので町ごとに地域性が異なる」と聞いた。私は合併しても天草市は天草市と一緒に考えていたのでこのことは盲点であった。

2 日目のフィールドワークでは五和支所を訪問し、五和町について説明していただいた。五和町は少子高齢化が進んでおり、さらに何のコミュニティにも属していない高齢者が増え、孤立する恐れがあるとのことだった。また、核家族化が進み助け合いの精神が低下しているも聞いた。私は、五和町は閉鎖的な傾向があるのだらうと思った。

□ 地域に求められる医師像とは

今回の実習の到達目標は「天草市における優先すべき健康問題とその対応策・改善策について考察し発表する」というものであったが、「地域診断についてその方法を知り実践する」という裏目標のようなものがあったように感じた。よって、地域に求められる医師像とは、どの地域に行ってもその地域の地域診断を適切に行い、それに対する対応策を考え、実行できる医師であると私は考えた。

天草市でも熊本市でも、それぞれに地域性があり、それぞれに健康問題をかかえているので、統計的に調べたり実際に歩いてみたり住民の声を聴いたりして地域診断をできるような医師になりたい。



熊本大学医学部医学科 2 年 武元 勇人

私は今回の実習に取り組むに当たって、実習先の天草とフィールドワークの際に、行く地域の特性を知り、疑問に思ったことを担当の人に質問を積極的に行うことを目標にしました。

今回の実習で、私たちの班は 1 日目に天草市役所の福祉課にいきました。ここでは、事前学習の共有で出ている疑問点に関することを聞き出し、2 日目の行く予定である五和地区やその他の地区の特徴なども聞き出すことができ、地区ごとに様々な違いがある理由を班で話し合って考えることができました。しかし、2 日目の天草市役所五和支所では、前日に上がった疑問点について質問をすることができませんでした。

今回の実習では、天草という地域の中でも、栖本地区や牛深地区のように一つ一つの地区に着目すると全く異なった特徴を持っていることがあるということを学ぶことができました。また、今回私たちの班に指導員として付き添ってくださった松村先生がおっしゃった「地域医療に携わる前に自分が赴く地域の特性や傾向を調べ外側からその地域について知ること、実際に地域に赴いて医療に取り組みながら、その地域の特徴を感じ取り内側からその地域について知る、という二つのことを

心がけることが大切だ。」という言葉、実際に事前学習やフィールドワークをしていくうちに強く感じ取ることができました。

私は今回の実習を通して、地域医療に携わる場合ただ漠然と地域医療に携わるのではなく、自分が医療を行う地域の様々な特性や傾向を把握し、それらを医療において役立てられるように、自ら考えることができる必要があると思いました。

そのような人材になるためにも、今後も夏季実習に真摯に取り組み、地域の特性について掘り下げて考えていけるようにしたいと思います。



熊本大学医学部医学科 1 年 渡邊 光紗

□ 当初の実習目標

- 実際に地域の医療機関や行政機関で働く方々にお話を聞き、どのようにして天草での医療活動がなされているのかを学ぶ。
- 天草における医療体制について深く知り、今後自分が目指すべき医師像を定める。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

➤ できたこと

- 医療機関だけでなく行政機関の方からも詳しいお話を聞けたことで、多方面から天草の地域医療を視察することができた。
- 初めて地方で働くお医者さんに直接会ってお

話をし、その信念や覚悟、経験について知ることができてとても参考になった。

- 自治医科大学などの他大学や看護学校の生徒の方と交流でき、良い刺激になった。

➤ できなかったこと

- どちらかという各施設で働く方に集中してお話を聞いていたので、患者さんや介護施設にいらっしゃった方々とお話することができなかった。
- あともう一つ質問したいと思ったとき、積極的に行動できなかった。

□ この実習の全体的な感想

今回の実習は、全体的に見てとても実りの多い実習であったと思います。事前学習として調べものをするところから始まり、各班で様々な医療機関・行政機関でヒアリング・施設見学をし、最終的にはそれらで得た情報を共有して学ぶことができました。

私は、地元が天草でしたが、自分の住んでいない地域のことにに関しては全く知識を持っておらず、フィールドワークで訪れた五和町についても知らないことばかりでした。また、実際に医師の方やスタッフの方、行政機関の方々のお話を聞いて初めて分かったこと、予想とは違ったことなどもあり、そういった現場の声を聞けたことも大きかったなと思います。

個人的には五和地区にある特別養護老人ホーム紫明寮の猪口先生のお話が、発想が新しいと感じ、耳に残っています。理事長として経営をされるにあたり、地域のニーズや多職種連携のまさに見本のような手法をとっていらっしゃるな、と感心

してお話をお聞きしていました。比較的規模の大きい経営をされていて、そうすることでメリットも多いのだという話を聞きました。まずは「スタッフが充実すること」。そうすることで、無理のないシフトが組めて、遠慮をせずに有給などもとれるし、誰かの穴をすぐに別の人が埋められる。そして担当する業務も洗濯などはシルバー人材センターの方に任せることで施設のスタッフは介護に重点を置くことができるという、良い循環ができていたと感じました。他にも、部屋割りに関しても、大部屋の料金を下げていると聞きました。五和町の高齢者年金所得は平均すると約4～5万円で、大部屋にすることで入居者さんも寂しくないし、一人で動けない方にとってはむしろ大部屋にした方が危険も少なくて良いだろうというお考えだそうです。施設を見学して回ったときも、個室以外に一人でいらっしゃる方は見かけませんでした。何人かで広いお部屋でリラックスしていらっしゃったり、移動のときにはスタッフの方が必ず付き添っていたりしました。とても穏やかで、雰囲気の良い施設だなという印象を受けました。

実習が後半に近づくにつれ、地域で医療を行うにはどうするのがベストなのか、色々と考えるようになっていました。同じ天草でもそれぞれの町によって抱えている問題も違えば、地域住民の方の性格の特徴なども違ったり、またその町の中でも地区によって医療供給の条件が違ったりと、詳しく知ろうとしなければ分からない情報がたくさんありました。

地域で医療行為を行うならば、まずその地域診断をしなければならない。どこであっても言え

ることだとは思いますが、第一にこれを考えるべきなのだと分かりました。その上で、自分なりに対策を考えて、最終的な結論をその地域全体で検討し、隔々まで共有していくことが重要だと思いました。

今回の実習を通して、ぼんやりと描いていた医師としての未来が少しずつはっきりしてきた気がします。この実習で得たことを糧に、これからの学生生活でより一層思考を深めていきたいと思います。

□ これらをもとに、地域において求められる医療人として理想像について考えたこと

天草の色々な施設を見学してみて、人間関係が穏やかだな～という印象を受けました。患者さんと医師だったり市の職員さん同士だったり医療従事者同士だったり、人と人との距離が近く、密な繋がりができているように感じました。私は高校から熊本市内に出てきていたのですが、たくさん人がいると一人一人を気にしていられないというか、人間関係が疎遠になってくるものなのかなと思って生活していました。そういう風潮が天草ではあまり見られないような気がして、良いなと思っています。天草地域医療センターの原田先生がおっしゃっていた「垣根を低く」というお考えを、私もマイポリシーにしていきたいと思いました。理想ではなく、どうして現実そうではないのかと考えてしまいます。地域において求められるというより、地域にいと当たり前になってくるのが「心の距離が近くなること」だと私は思います。それによって信頼し合う関係ができて、ひいては医療連携などの円滑化・地域医療システムの向上に繋がってくるのではないかと考えます。

地域に限ることでもないと思うのですが、地域社会の中に組み込まれた一人の社会人として、医療人は病院の中だけでなく地域全体のことを考えていかなければならないのだな、と感じています。



自治医科大学医学部 2年 織田 ゆめ子

□ 当初の目標

私は、この実習に参加するに当たって、3つの目標を立てた。1つ目は、実習に積極的に取り組むことだ。低学年だからといって受け身にならずに、この実習を通してより多くのことを経験し学びたいと考えた。次に、実際に見聞きし学んだことを、グループでの話し合いに活かすことだ。去年は初めての实習ということで緊張していたため、特にグループ発表の準備などであまり発言が出来なかった。今年は、気づいたことや思ったことをしっかりと発言し、グループ発表に貢献したいと思った。3つ目は、たくさんの人と話をすることだ。フィールドワークをするにあたり、とても重要なことだということもあるが、自分自身がこの実習を楽しみ、実りあるものにしたいと考えてこの目標を立てた。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

全体的に、当初の目標をしっかりと達成できた実習になったと思う。実習に取り組むにあたり、事前課題があったため、最後まで積極的に取り組めた。

特に、2日目の地域別のフィールドワークは、祖母の実家のある地域で訪れたこともあったため、より積極的に取り組むことができたのではないかとと思う。また、班行動の時間が多かったため、気付きや意見をしっかりと交換できた。自分の気付きを話して、より具体的な質問をしてもらったりして、更に考えを深めることができた。

何より今回の実習で達成できたことは、たくさん話すことだ。フィールドワークで話を伺う時も多くの質問をすることができ、タクシー移動の時などにも、地元運転手の方に質問をしたり、先生方からも助言をいただいたりすることができた。また、懇親会などでも、先輩、先生方や地域の方々とお話させていただいたので、とても良かった。

できなかったことは、気づいたことや学んだことを発表などに活かしきれなかったことだ。今回、特に2日目の実習では多くの施設やクリニックに回らせていただいた。現状や課題、工夫をたくさん話してくださったのにも関わらず、それらを結びつけて一つの発表へと繋げることができなかったように思う。個人的にも、見聞きしたことを全て理解して、一つの地域診断のような形にするとところまでには至らなかった。この課題を今後の実習に活かすとともに、時間を取って今回学んだことを自分なりにまとめていきたいと思った。

□ この実習の全体的な感想

正直に言えば、この実習の内容を見たときには、フィールドワークをすることで医療実習になるのかと疑問を抱いていた。しかし、この実習で地域を絞って、実際にその土地に赴いて見て聞くことで、様々な地域的特色に気付くことができ、それが一

つの健康問題につながるが見えてきて、初めてこの実習の意味に気付くことができた。単に、「地域医療をするにあたって地域診断が大切だ」と座学で学んでやるより、実際に疑問を抱きつつもフィールドワークを通して気付くことができたことに、とても意味を感じたし、有意義な実習ができたと思う。

□ これらをもとに地域に求められる医療人の理想像について考えたこと

この実習を通して、地域に求められる医療人の理想像について感じたことは、その地域をよく知ろうとすることだ。今回の実習では、フィールドワークを通して、天草市の健康問題やその対策、地域性について深く知ることができた。

今回の実習で様々なことを学び、考えることができたため、この地域に対する関心が増して、将来機会があれば是非勤務してみたいと思った。単純かもしれないが、このことから私は、医療人としてその地域に関わるにおいて大切なことは、地域に愛着を持つことなのかもしれないと考えた。そのためにも、その地域を知ろうとすることは、地域に求められる医療人になるための大切な心得なのではないかと考えた。



Group 3

グループメンバー

田中 祥平	熊本大学医学部医学科生	5年生
今田 真亜子	熊本大学医学部医学科生	3年生
佐藤 実紗	熊本大学医学部医学科生	2年生
中原 大智	自治医科大学医学部医学科生	5年生
安川 賢治	自治医科大学医学部医学科生	1年生
高田 春和	天草市立本渡看護専門学校	1年生

1日目 フィールドワークⅠ

天草中央保健福祉センター

2日目 フィールドワークⅡ

天草支所 森口内科医院 春光苑 大江天主堂 天草ロザリオ館



1st day

グループワーク

天草エリアは高齢化が進んでおり、天草市の中でも特に65歳以上の人口の増加率が高い。高齢化が進む地域特有の医療ニーズとはどんなものなのか、健康面や生活面を含めて、どんな問題があるのかということをフィールドワークの施設で話を聞いてみたいと思う。



2nd day

フィールドワークⅡ

9:00

9:30

10:00 9:50-10:20 天草支所にて説明

10:30 10:30-11:30 森口内科医院、春光苑（特養）見学

11:00

11:30 11:40-12:40 辨にて昼食

12:00

12:30

13:00 12:50-13:50 大江天主堂、ロザリオ館見学

13:30

14:00

14:30

3rd day 発表

グループワークやフィールドワークを通して天草市全体の健康について考えた。

天草市でも生活習慣病を原因とした死亡が多く、天草市第1期健康増進計画の評価(天草市第2期健康増進計画 第3章第1期計画の評価)より『運動習慣者の増加が見られなかった』という問題点に着目した。

フィールドワークで訪れた天草町は人口3200人で高齢化率は47.8% (天草市全体では37.2%)で、医療機関は診療所が1か所だけである。そのため、町外の医療機関にかかる人が多いが、公的なサポートを受けることが難しく、移動は近所や家族を頼ることが多くなってしまっている。運動習慣を身に付け、住民の健康寿命を延ばすことで、現状の改善ができるのではないだろうか。

現在の天草市が行っている健康の取り組みは、健康運動教室や運動健康教育、天草市健康ポイント事業などがある。特に天草市健康ポイント事業は、初めて耳にしたことと、年々参加者が増えていることから、今後の運動習慣者の増加に期待ができる。

天草市健康ポイント事業は、個人の健康・運動の取り組みにポイントを付与することで動機づけを行うものである。ポイントは自己設定した目標を達成し、それを自己申告することによって1日に5ポイント付与される。参加登録をし、年間で1000ポイントを達成すると5000円分の商品券と交換することができる。

この天草市健康ポイント事業の参加度と認知度を上げるため、以下の改善策を考えた。
牛深ハイヤなど大きなイベントとタイアップする、ネット・アプリからの登録を可能にしてもっと参加しやすくする、各地区レベルで教室など活動グループを作る、お友達紹介でポイントを付与して参加者の輪を広げる、各年代の推奨運動計画を提示して自己目標を立てやすくする、グループ参加や公的イベント参加者はポイントを高くするなど格差をつけるなどを考えた。

夏期地域医療実習
3班：天草エリア

3班 田中祥平 中原大智 今田真亜子
佐藤美紗 安川賢治 高田春和

1

今回私達が注目した問題点

天草でも生活習慣病を原因とした死亡が多く、
天草市第1期健康増進計画の評価より

「運動習慣者の増加
が見られなかった」

という点に着目しました

2

フィールドワークⅡで担当した
天草町では・・・

- 天草市全体では高齢化率37.2%
- 天草地区では高齢化率47.8%
かつ天草地区の医療機関は診療所1件だけ。
- 公的助成金はバスはあるが本数が少なく、
タクシー券などのサポートはあるが
70歳以上、かつ、バス停から1km以上など条件
が厳しい
- これらの問題も運動機能の向上によって改善が見
込めるのではないかと

3

現在天草市が行っている取り組み

- 健康運動教室
- 運動健康教育
- 天草市健康ポイント事業

4

天草市健康ポイント事業とは

- 健康づくりを目的として個人の取り組みにポイント
を付与することで動機付けを行う。
- ポイントは目標（自己設定）を達成（自己申告）す
ると5ポイント/日
- 参加費をとして、年間1000ポイントを達成すると
5000円分の商品券と交換できる。
- 平成27年度参加者 2,238人
- 平成28年度参加者 2,435人
- 平成29年度参加者 3,700人

5

ポイント対象イベント

開催日	イベント名	開催場所	参加費	備考
7/1	牛深ハイヤ	牛深	無料	天草市健康ポイント事業とタイアップ
7/2	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/3	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/4	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/5	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/6	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/7	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/8	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/9	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/10	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/11	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/12	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/13	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/14	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/15	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/16	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/17	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/18	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/19	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/20	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/21	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/22	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/23	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/24	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/25	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/26	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/27	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/28	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/29	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業
7/30	天草市健康ポイント事業	天草市健康ポイント事業	無料	天草市健康ポイント事業

6

ポイント事業改善案 参加数・認知度

- 牛深ハイヤなど大きなイベントとタイアップ
する
- ネット・アプリから登録できるようにする
- 各地区レベルで教室など他の活動グループを
お友達紹介でポイントを付与

7

ポイント事業改善案 実際の改善効果

- ネットで各年代ごとの推奨運動動画を載せる
- 自己申告の人では〇〇円分の商品券、
健康運動教室など公的イベントに参加した人は
××円分の商品券など格差を付ける
- グループ参加でのポイントを高くする。

8

最後に。。。.

- 今回この実習を行うにあたり、
尽力して下さった
地域医療実践学寄附講座の諸先生方、
天草市職員の方々、天草市医師会の先生
方、外部講師の方々、熊本県庁の方々、
特に同じグループで行動を共にして下
さった中本先生、北村先生、
その他実習に携わって下さった方々
三日間有り難うございました。

9

ご清聴ありがとうご
ざいました

10

Evaluation

スライド発表評価

1.資料（スライド）について

- スライドに余白があるので、文字をもう少し大きくできるのでは。
- 分かりやすく、きれいにまとめた。
- 図を用いた、分かりやすいスライドだった。
- 見やすく分かりやすかった。
- 文字の拡大（協調）など工夫されている点は素晴らしいです。写真資料がある点もGood。
- 色づかいが良く、見やすいスライド。
- スライドの文字がやや多い。少なくした方が見やすいです。
- フォント、サイズは見やすかったです。字数が多いスライドでは、もう少し工夫があるととても良くなると思います。
- 文字数が多い所もあったが、全体的に見やすい。
- 文字は少し多めであったが、見やすかった。
- 見やすい。課題→解決策まで記入してあった。
- 例示の出し方がわかりやすく良かった。
- 少し字が多い印象だった。

2.発表について

- 自分たちの八表なので、もっと自信をもって発表してもらえれば、さらに良かったと思う。
- 少し声が小さかった、大きな声で！
- 最初に問題点の設定→市の解決策について
- 聞きやすく、わかりやすく、簡潔で良かった。
- 全員発表型でよかったと思います。
- よどみなく話ができていて〇
- 聞きやすいトーンで話していて良かった。
- リラックスして良かったと思います。

- 健康増進に興味を持った理由が知れたかった。
- “健康”にしばって掘り下げてあった。更なる掘り下げを期待します。
- 上級生が司会役を引き受けていたので、円滑な発表になったと思う。
- 焦点を一つに絞って発表。

3.内容について

- （天草市役所 健康増進課～天草町）天草市健康ポイント事業に注目し、独自の改善案も発表しておりとても前向きなものであった。
- 天草市健康ポイント事業、参考になりました。
- ポイント事業に焦点をあてて、改善策を提案してとてもいいですね。
- 問題意識の持ち方がすばらしい。
- 天草市独自の事業に関わることで、健康問題改善を具体案として非常によかった。
- 具体的に今ある制度の改善案を考えられている点がよかったと思います。インターネット、SNSなどあげられていましたが、高齢者の多い天草のインターネット普及率も考えられていると、さらによかったのではないかと思います。
- 天草市健康ポイント事業というものに着目し、より深く考察していたのは良かった
- テーマがしぼれてわかりやすい。
- また、全体的に具体的な数値を入れていて、より説得力があったと思います。
- 制度に対して自分たちの考察、意見を言えているのはすばらしい。
- 地域で見たり聞いたりした内容をもう少し盛り込めると、さらによくなると思います。
- 進行中のユニークなプロジェクトの改善案として新鮮な視点で良かったと思います。
- 健康ポイント事業！おもしろい！自分たちの案を出している。
- 天草町のことについても、もう少し触れてほしかったです。
- 市健康ポイント事業の改善策を提案していただき、ありがとうございます。
- 天草市の事業について注目した点がよかった。具体的な改善策が見えやすい。
- 具体的でOK。

4.その他の点について

- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にさせていただきます。
- 具体案として、面白そうな案が出ていて良い
- 友達紹介制度はPeer Pressureを使った良い案だと思った。
- 案が実現するといいですね。
- 時間長い！良かった！
- エリアの特徴をとり入れた分析があると良かった。
- 今後のプロジェクトの推移を追ってみるといいですね。

総合評価
1312点

（評価者16名、1人につき100点にて評価）
※評価には以下の点を反映しています。
・ 資料（スライド）
・ 発表（プレゼンテーション）
・ 内容（コンテンツ）
・ 熱意やモチベーションなど。

Report

学生レポート

熊本大学医学部医学科 5年 田中 祥平

5年生になり、今回で最後の参加となる夏季地域医療実習。奇しくも、1年生の時と同じ天草の地での実習ということで、「今までの集大成を見せてやるぞ」くらいの気持ちでいました。が、しかし。今回から実習内容が一転、地域診断に主眼をおいたものにガラリと変わり心機一新したな気持ちで臨む羽目になりました。そこで、私の主な目標は「地域診断を実践してみる」としました。ついでに最後の実習をみんなと楽しむことも個人的な目標としていました。

地域診断に取り組んだ結果を僕なりに一言でまとめると「やることはやったが、モヤモヤする。」という感じです。『流れに則り、地域の各種統計データを眺め、現地で市役所や医療・介護・福祉施設の方からのお話を伺い、問題点が何かを抽出し、改善策を挙げる』。できるだけ具体性をとのお達しだったので、私たちの班では、天草市が既に行っている事業に+αする形で案をだしました。地域医療実習では初めての試みであり、学生主体で進めるのに苦労もありましたが、ある程度うまくやれたと思います。その点において私の目標は達成されました。実際はこの後に、細かく定めて実行に移しそれを評価しなくては、いけないのですが、今回は割愛だったのでほっとしました。

しかし、私にとっては今回地域診断を行って得たものとして、達成感より疑問の方が多かったです。「モヤモヤする」の部分はこれが原因です。

何を問題点としてどこまで細分化するかなどの思考方法上の疑問であったり、誰を巻き込んで話し合いを行うべきかなどの連携上の疑問であったり、そもそも医師が手を伸ばすべき領域はどこまでかという職業意識上の疑問であったりします。枚挙に暇がありません。

私は今までこういう地域の問題に関して、生命倫理などの医療問題といっしょくたにして、「正解のない大きな問題」カテゴリにいていました。そしてこのカテゴリの問題は正解がなくても時々考える時間をとることが大事なんだという姿勢でいました。

ですが、今回の地域診断では実現可能性を追求して考えましたし、実習中の講演で、問題を考えるにとどまらず実際に介入まで行っている家庭医の先生のお話を聞き、地域医療としては行動に移すところまで医師の役割なのか悩むようになりました。

医師像がブレるようになった実習になりましたが、こうやって悩んだ時の私の対処はだいたい決まっていて、周りの人を見て参考にできる人を探し、もしくは周りの人に助けてもらいます。情けない話ですが1人で考えて結論を出せる頭がないので、優秀な先生方や、友人に助けて欲しいです。働き出したら、医師以外の職種の方にも助けて欲しいです。

そこで、私の医師の理想像は「助けて貰えるような人」です。何卒、宜しく願い申し上げます。



熊本大学医学部医学科 3年 今田 真亜子

□ 当初の実習目標

今回の実習を行うにあたって、私は二つの目標を立てました。

- ① 天草での地域医療について学び、考える。
- ② 天草の歴史や特産品など、地域について学ぶ。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

まず、この実習では、天草地域について学ぶことができました。今まで天草には、観光で何回か行ったことはありましたが、地域の現状など、詳しいことはわかりませんでした。今回の実習では、診療所のほかにも、フィールドワークとして天草中央保健福祉センターや特養老人ホームなどにも行かせていただきました。そこで、天草市の現状について知ることができたと思います。

できなかったことは、地域の方とのコミュニケーションがあまりとれなかったことです。森口内科医院で森口先生は患者さんとフレンドリーに話してらっしゃいました。そうすることで、患者さんなんでも医師に相談しやすい雰囲気を作れるのではないかと思います。私は自分から話をするのが得意ではないのですが、医師としていろんな方とコミュニケーションをとることは大事なことだと思うので、今後積極的にしていこうと思います。

□ この実習の全体的な感想

今回の実習では診療所だけではなく、フィールドワークとして様々なところに行かせていただきました。病院や診療所だけでは分からない、地域の現状を学ぶことができてよかったと思います。天草市では、健康ポイント事業というものをやっているそうです。これは、自分で運動目標を設定して、達成できれば商品券がもらえるというものでした。初めて聞いたもので、興味を持ちました。もっと改善すればもっと良くなるのではないかと考え、最終日にはそれを主に発表しました。また、他の班の発表を聞いて、天草市の中でも地域により特色があり違うということもわかりました。

そして、天草市の歴史や特産品などについても学べました。天草の海はとても美しく、また魚介類はもちろん、肉もおいしかったです。

地域枠として入学しましたが、地域医療というものか具体的に分からず、不安に感じることもありました。しかし、今回の実習で実際の地域医療の現場を見て、地域をより身近に感じることができたので良かったです。

□ 地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

まず、医療を行っていくうえで、医師はリーダーとして人々をまとめていかなければいけないと思います。今回の実習で5年生の先輩方がグループをまとめていただきました。私も今後学年が上がっていき、下級生を引っ張っていかねばならない立場になるので、先輩方を見習っていききたいと思います。また、話しかけやすい雰囲気も大切だと思いました。

そして、医師として確かな知識と判断力も大切だと改めて感じました。9月から臨床の講義も始まるので、より一層勉強を頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、今回の実習でお世話になったすべての方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。



熊本大学医学部医学科 2年 佐藤 実紗

今回の天草における地域医療実習における自分の目標は、天草地域特有の医療問題を理解する、地域医療とはなにかについて理解を深める、将来ともに県内の地域医療に従事する先輩、同級生、後輩との仲を深めるということであった。

今回、熊本県本土から離れており、なおかつ面積の広い天草を調査するということで、複数のグループに分かれて2日間フィールドワークをしたのはとても効果的だったと思う。多くのグループの発表を聞いて、自分たちのグループでは気づかなかった問題点、天草の魅力を知ることができた。逆にできなかったことは、多くの施設で聞いた問題点について考えられなかったことだ。自分たちのグループは生活習慣病を解決するためのポイント制度をピックアップして発表し、具体的な改善策

を提示して、周りからの高評価を得られたが、そのほかのトピックについても発表してもよかったかなと感じた。

今回の実習では、去年あまり話せなかった自治医科大学の学生の方とたくさん話すことができ、その中で自分は地域医療とは何かということについてまだぼんやりとしかわかっていなかったことがわかった。同じグループの自治医科大学の先輩は、地域医療とは何かについて多角的に考えて私たちに教えてくださり、普段からしっかり考えていらっしやるんだと感じた。自分も普段からどんな医師になりたいかということも含めて地域で働く自分を想像していきたい。

地域では、医師は病院にいらした患者さんを診療するだけではなく、そこに住む人の健康状態を含めた生活を把握し、行政の面からも気を配るという姿が求められ、そのような医師が患者さんに頼りにされると思う。



自治医科大学医学部 5年 中原 大智

□ 実習目標

まず今回私はこの実習の位置づけを「医療以外の側面を重視した地域診断の予習」として3日間取り組み組んだ。というのも、大学病院内といった医療に

従事するものとしての実習、及び座学でしか学んでこなかった地域というものに対し実感をもって体験できるのはこの夏期実習以外に機会は少なく、また高学年生として将来をより見据えた姿勢が必要であると感じたからである。

□ できたこと・できなかったこと

実際の実習であるが、私はグループ3として天草中央保険福祉センター、天草エリアを担当することになった。福祉センターにおいて実際の行政に携わっている方々との議論や、地域唯一の診療所に勤務する医師の話など非常に興味深い経験とさせて頂いた。その中でもグループとしては天草市が行っているポイント事業についてグループ内で討論を重ねた。行政の方々との議論及びグループ内での討論パワーポイント作成など高学年として主導して取り組めたのではないと思う。

□ 全体的な感想

前述した目標であるが、達成できたと自負している。行政の方や介護施設職員の方、更には実際に地域に従事する医師の方のお話を聞いたことは有意義であった。ただし、もっと介護制度や行政の取り組みなどの予習を行っていれば積極的な意見交換をもっと交わせたのではないかと、受け身になっていた場面も想起された。また、他にもグループワークやフィールドワークを通して、初対面のことも多い他大学の学生と親睦を深め、互いに将来地域で医療従事することに対するビジョンを交わし合うことができるのは医学生として刺激になる。今後も是非とも続けて頂きたい事業である。

□ 医療人としての理想

多職種連携の実際を見ることのできた貴重な機

会をいただけたことに感謝したい。医師が地域医療において重要なファクターであることは間違いないが、関わる職種全てが互いにリスペクトを持ち、対話することこそ何より肝要であることは間違いない。今回で最後の夏期実習となったが、1年生の頃と比べ実習中にも新たな視点が芽生えている自分に気づく度に成長を実感している。まだまだ、知識も経験も技術も不足の至りであり、大口を叩いて語れるほどではないが、地域を見て、そして看取れるような医師になれたらと思う所存である。



自治医科大学医学部 1年 安川 賢治

□ 今回の実習目標

天草市の医療体制や健康のための体制について知り、天草市全体や特定の地域において何が求められているのかを調べ、それについて考えていくことを目標として行動しました。

□ この実習でできたこととできなかったこと

➤ できたこと

予習の段階で、天草市と今回僕たちが担当する天草町の人口における変化を具体的に調べることができました。また、中心地である熊本市と比較ができるようにデータを調べ上げることができました。

➤ できなかったこと

どの地域にどのような病院があるかといったデータをまとめることが予習の段階でできていなかったことと、調べ上げた人口のデータを発表に生かせなかったことです。

また、現地に住んでいる人からどういったものを望んでいるのか直接聞けなかったことです。

□ この実習の全体的な感想や学んだこと

天草市全体で人口減少や少子高齢化に悩んでいる、医療体制や健康への体制に取り組んでいることを改めて知りました。具体的には家庭医は大病院から無圧縮の膨大なCTなどのデータ(約20~25GByte)を、ネットを通じて受け取れるという医療体制や、ウォーキングを主とした健康ポイントをためることで商品券をもらうことができるという健康への体制です。

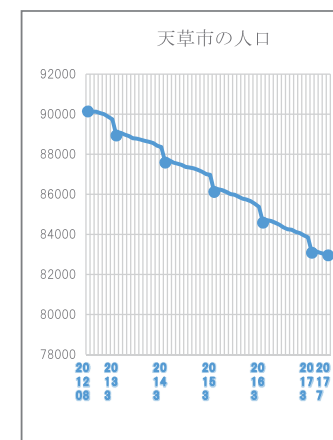
このような長所は天草に来て初めて知りました。また、このような制度が天草の住民にあまり認知されていないことを知り、天草の住民にだけでなく熊本県の住民にも、もっと知らせるべきだと思いました。班の意見では、牛深ハイヤなどのお祭りと一緒に宣伝することを考えていました。

僕個人の意見では、天草の少子高齢化対策として天草自体の認知度を上げるために、新幹線開通時にくまモンが人気になった時と同様に、熊本天草間の新しい移動手段(具体的には新天門橋)が確立されるときに人の多い熊本市内で、人の目にとどまってさらに参加者が楽しめるものを行い、そこで天草の長所や医療体制、若者にとっての利点をできるだけ短い時間で簡単に説明を言葉や図面を使って説明するのいいと思います。

僕のまとめたデータにおいて熊本市も天草市も3・4月に極端に人口が減る時期があるのですが、熊本市は人口を元に戻しているのに対し、天草は元に戻せていませんでした。僕はこの違いが大学の存在にあると思う、大学が天草にもあると4、5月の人口上昇率を上げることができるのではないかと考えました。

□ 地域における医療人としての理想像

これからの少子高齢化のことを思うと、どのようにして地域の人が医師たちにより医療などの社会福祉を受けられるかを考えるのではなく、体操を行いそれに参加してもらうというように、「社会福祉を行うのは地域の人自身である」と考えて行動する医師が地域における理想の医師であると考えています。



天草市立本渡看護専門学校 1年 高田 春和

今回、夏季学生地域医療特別実習に参加させてもらい天草についてよく知ることができた。

1日目は天草健康福祉センターに伺った。健康増進課では天草に住む人の健康について計画が立てられていた。健康は個人の問題ではなく地域での取り組みが大切だと思った。

2日目は天草町に伺った。私は天草町にあまり行ったことがなかったので新鮮だった。森口内科医院は個人の病院だった。そのような病院も行ったことがなかった。また、考え方も独特だった。春光苑は森口内科医院の近くにあった。特養や要介護度等、初めて聞く言葉がたくさんあった。

今回の実習で言葉だけでなく、天草について学べた。また、多くの方とお話、交流することができた。しかし、大学生が予習している中、予習もなく内容もわからないまま参加したので会話についていけなかった。その部分を除くと楽しく参加できた。

今回のように大学生の皆さんと一緒に学ぶことがないので参加して良かった。いい体験だった。



Group 4

グループメンバー

松尾 淳一	熊本大学医学部医学科生	5年生
持田 香織	熊本大学医学部医学科生	2年生
春木 沙良	自治医科大学医学部医学科生	5年生
阿久根 章矢	自治医科大学医学部医学科生	1年生
池田 真奈	天草市立本渡看護専門学校	1年生

1日目 フィールドワークⅠ

天草地域医療センター

2日目 フィールドワークⅡ

牛深支所 包括支援センターすいせん 牛深市民病院 明照園



1st
day

グループワーク

調べてきたデータと、住んでいる人の意見での乖離がある。人口減少・少子高齢化があるが、実際では、天草市のなかでも地区ごとに差がある。保健医療と社会福祉でもデータと実際でも乖離があるのではないかと思った。フィールドワークで地域の実情を聞いてみたい。



2nd
day

フィールドワークⅡ

9:00	
9:30	
10:00	9:50-10:40
10:30	牛深支所、包括支援センター すいせんにて説明
11:00	
11:30	10:50-11:30
12:00	牛深市民病院見学
12:30	11:40-13:00
13:00	牛深海彩館にて昼食、 牛深の町中散策
13:30	
14:00	13:10-13:50
14:30	明照園（特養）見学

3rd day 発表

事前の調べでは、天草市の人口10万人に対する医師数は県内でも4番目と意外と多く、医療施設数に関しても病院数は14件、一般診療所は58件であり、全国平均よりも高いことが分かった。牛深でのフィールドワークを通して、データと実際のどんな違いがあるのか調べてみた。

牛深地域包括支援センターでの話によると、牛深は高齢化率が非常に高く、独居高齢者も多くて、訪問介護のサービスが不足しているのが現状であるとのことだった。医療・介護のニーズに対してサービスの量が圧倒的に足りていない。

牛深市民病院では、医師が年々減っており、今年からは内科の常勤医が退職したため非常勤の医師2〜3人でなんとか対応している状況である。若手の少なさだけでなく、医師も高齢化が進んでいるため、医院を閉じてしまい医療施設が減るなど、深刻な医師不足に陥っていることがうかがえる。

牛深の実際を見てみて、①少子高齢化の対策、②交通の便の改善、③常勤医の確保といった課題が挙げられた。少子高齢化に関しては、高齢者の割合が大きく増加することはないが、生産年齢の減少が予想され、若者への負担の増加が懸念される。交通の便に関しては、牛深は天草の最南端にあり、熊本市内から車で3時間もかかることから人を呼び込むことが難しいことが問題である。

若手医師、常勤医の確保のための改善策としては、彼らの望むキャリア形成が可能な環境づくりをすることや、へき地への常勤医師派遣のシステムの構築、現在普及を進めているICTネットワークをさらに有効活用すること、ドクターヘリの台数を増やすことなどが挙げられた。少子高齢化の対策と交通の便の改善のため、高速道路やJRを開設する必要もあると考えられる。

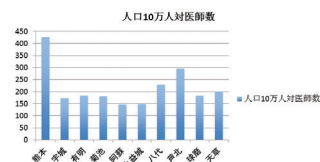
今後を改善していくために、特に大事なものはコミュニケーションとパッションであるということも忘れてはならない。

牛深がみえる！
～医療編～

松尾淳一、持田香織、春木紗良、
阿久根章矢、池田真奈、前田先生

1

天草の医師は意外と多い??



2

医療施設数も意外と多い??

- ・病院数 14件
- ・一般診療所 58件

これらは全国平均より高い!!!

3

本当にそうだろうか??

4

牛深地域包括支援センター

- ・高齢化率が非常に高い
- ・独居高齢者が多い
- ・訪問介護サービスの不足

ニーズに対してのサービス量が足りていない!

5

牛深市民病院

- ・常勤の医師が4人
- ・非常勤の医師が常時2〜3人
- ・内科の常勤医が不在

深刻な医師不足

6

課題

- ・高齢者人口は不変!これに対し、生産年齢人口は減少!
- ・交通の便が悪い
- ・常勤医の不足

7

今のままではダメ!!

8

改善策

- ・キャリア形成が可能な環境づくり
- ・交通の便
 - 高速道路・JRを作ってほしい!
- ・ICTネットワークをさらに有効活用
- ・ヘリの台数を増やす
- ・へき地派遣のシステム構築

9

一番大事なものは

パッション



10

ご静聴ありがとうございました

このような実習の機会を与えてくださった熊本県地域医療実践学寄附講座のスタッフの皆様、そして天草市の職員の皆様、この実習のすべての関係者の皆様に感謝申し上げます

11

総合評価
1270点

(評価者16名、1人につき100点にて評価)

※評価には以下の点を反映しています。

- ・資料 (スライド)
- ・発表 (プレゼンテーション)
- ・内容 (コンテンツ)
- ・熱意やモチベーションなど。

Evaluation

スライド発表評価

1.資料 (スライド) について

- 適度にまとまった 資料となっていた。
- DuTuを提示していたのはよかったしまとまっていた。
- 見やすくまとめてありわかりやすかった。
- 印象に残るようにキーワードを使っている点が良い。
- 文字の拡大や色のども考えられており、伝えたい内容がわかりやすく作られていると感じました。
- オリジナルあふれるスライドでインパクトがありよかったです。
- タイトルがキャッチーですばらしい。シンプルな文字数、見やすい文字の大きさや色づかいがとても上手。
- フォント、サイズ、カラーの使い方がよかったと思います。
- 文字はシンプル
- 写真も載せてあり、工夫が感じられた。
- ユニークなタイトル! 高評価。

2.発表について

- 声の大きさ等、よかったと思う。
- 議論の流れ、最初「本当にそうなのですか？」と問かけられるようにしていたので引き込まれました。
- 統計から推測される問題点→本当にそうなのかをフィールドワークで確認→真の問題点のあぶり出しという構成が良く考えられている。
- 簡潔的でよかった。伝えたいことを伝えるような熱意を感じた。
- 全員話をされてよかったと思います。
- 滑舌もよく、スムーズな進行。
- 質問に対してちゃんと答えられていて良かった。
- 前を向いて語りかける話し方をしている方がいて、とても聞きやすかった。
- 気持ちが伝わる良い発表でした。
- 伝えたいことが非常にわかりやすく、目のつけ所も面白かったです。
- 問題を抽出し、改善策をしっかりと考え自分たちなりの答えを出していた。
- ハキハキしていて、聞きやすかった。

3.内容について

- ニーズに対してサービス量が足りていない。深刻な医師不足課題の抽出から改善策まで考えをめぐらしたものだと感じた。
- 交通の便の改善はたしかにそうであるが、それによって流出することも、ICTを有効活用というのは具体的には？
- 地域の課題を的確に捉え、改善策も広い視野からまとめた。
- 地域を良くしようとの意識から出てくる問題点と解決策の提案が良い
- 市の事業優先での解決策は具体的でよかったが、医療による介入案がなかった。
- 事前課題を絡めての内容である点がよかった。
- キャリアやシステムについては、具体的に考えてほしいと思いました。また提案がいずれもお金のかかるもので、経済面も考えた案があればよかったと感じました。
- よく考察されている。
- 具体的な数値とかをあげるともっと良い。
- 改善策をハード面だけでなく自分達にもできそうな点を考えられるとよりよいと思う。
- 問題の抽出と解決策を考える流れがよかった
- 指摘はその通りだと思うので、もっとその考えを深めてほしいと思いました。
- キャリア形成とはどのようなキャリアか？
- 現状を正しく理解している
- 少し実現可能性が難しい提案もあったが、今後、計画的に進めなければならぬものもあり、示唆に富む提案もあった。
- “課題の推測→現場で確認、現状の把握→解決策”構成、流れ
- 詳しい調査が基盤にあるため、納得できる内容であった。
- 橋を架ける等の解決案はお金がかかりすぎる。

4.その他の点について

- 地域でもキャリア形成というのもそのとおりと思いました。
- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にさせていただきます。
- チームワークの良さが反映されていた。
- システム、インフラ、整備前にやることをもう少し考えてみては。
- 住民の暮らしの中から課題や解決策があるのもっと良かった。

Report

学生レポート

熊本大学医学部医学科 5年 松尾 淳一

□ 当初の実習目標

今回の実習は、自分にとってこれまでとは大きく異なるものであった。というのは今までは先輩方の後ろをついていくことが多かったのに対して、今回は最上級学年として自分らが後輩を引っ張っていかなければいけないということである。恐らく最後となるだろう今回の実習において、天草の医療の現状と課題を考えるという大きな目標とは別に、リーダーシップやコミュニケーション力、プレゼン力について考えるという個人的な目標を立てた。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

まず、天草の医療の現状と課題について考えるという点についてはおおむね達成できたと感じる。今回の実習では事前課題として天草のことについてインターネットで調べ、そして実習中に現地でフィールドワークとして聞き取り調査を行うという2つの観点から天草をみるというものであった。インターネットであらかじめ調べて考えた天草像と実際に現地の方に話をうかがって見えてきた天草には違いがあることに驚いた。この違いから天草の現状と課題について考えられたのはよかったと思う。

リーダーシップに関しては課題が残ったように思う。今まで先輩方がされてきたことを自分がいざやろうとしてもなかなか思うようにできず、グループメンバーやスタッフの方々に迷惑をかけた点もあると思う。そこは申し訳ないと思うとともに、これからの自分自身の課題でもあったと感じた。

□ この実習の全体的な感想

最初にも書いたように前回までと今回の実習では自分の置かれている立場が異なるということ。今までにはない緊張感のある3日間であった。だが、それによって今までには見えなかったことも見えてきたように感じる。この実習は多くの方の協力によって成り立っているということである。実習の企画の段階で、地域医療・総合診療実践学寄附講座のスタッフの方や、地域の行政や病院、施設の方がどれだけ連絡を取り合い、行程を練って準備をしてくださっているのかを知った。

今まで当たり前のようにこの実習に参加してきたが、今回最上級学年として少しだけ企画に関わったことで、多くの見えない努力に気づくことができてよかったと思う。

□ これらをもとに地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

企画も含めて今回の実習全体を通しては思ったのは、連携の重要性である。これは地域医療においても当然必要なことである。そのために必要なコミュニケーション力やリーダーシップというのは実際にそれが必要とされる状況に置かれて育つものであるように感じる。負担に感じることもあるが、将来必要となるそれらの力を学生のうちに付けておくことは必要だと感じる。

最後になりましたが、地域医療・総合診療実践学寄附講座のスタッフの方々をはじめ、天草の関係者の方々など実習に協力してくださったすべての皆様に御礼申し上げます。



熊本大学医学部医学科 2年 持田 香織

私はこれまで、海水浴などで天草を訪れたぐらいで、天草の町や住んでいる人たち、医療施設のことなど、ほとんど知らなかった。そのため、今回の実習で天草の基本的な事について知ること、そして医療の現状を知ることが今年度の夏季実習の自己目標とすることに決めた。

今回の実習では事前課題があり、その事前課題の中で調べたことから天草は熊本の他のへき地に比べると医師や病院の数が多いのではないかと考えていた。しかし、初日のグループワークで話し合う中で、天草の中でも地域ごとの偏りがあり、実際は不足しているのではないかとすることに気づくことができた。実際に2日目に訪問した牛深市民病院では、常勤医の少なさや非常勤医の確保の厳しさといった現状を目の当たりにした。フィールドワークで牛深に行き、市民病院の現状を実際に見て知る事ができたことは大きな学びとなった。また、天草や牛深の基本知識や医療機関・福祉施設の基本的な事等を市や地区の職員の方々から伺うことができ、加えてグループの看護学校の子から住んでいる人が感じる天草の話を聞くこともできたので「天草の基本的な事について知る」という目標は達成できたよう

に思う。2日目の夜の懇親会で、天草で研修されている先生方や天草では働いている先生方、家庭医研修のプログラムを受けている先生方のお話を伺うことができたのも貴重な経験だった。

今回の実習を通して地域で医療に従事するために、まずは「その地域の事を知る」ことがいかに重要かということを知った。天草といっても、各地区により人柄も習慣も医療の現状や問題も多く、その事を知っていることを最終日の発表を通して知り、地域について知りその地域に合わせた形で問題の改善にむかうことの重要性について考えさせられた。

学生の間に、熊本の地域を知る努力をし、その地域で働く医師の方々がどのように地域に関わっているかを学んでいきたいと思う。そして卒業後、地域で医療に従事する際には地域の事を知り、その地域に柔軟に対応できる医師になりたいと思う。



自治医科大学医学部 5年 春木 紗良

早いもので夏季研修も今年で最後となってしまったが、今回は今まで5回の研修のなかで1番、「地域を知る」ということができた実習だったように思う。今回は事前課題が課され、実習内容も例年のように病院実習ではなく市役所や老人ホームの訪問など地域診断が主体であり、どのような実

習になるのかと正直不安が大きかった。しかし、実習を通していかに自分が天草について何も知らなかったことに気づかされ、ネット上の知識だけでなく、実際にその地域に足を運ぶことが大切なのだということが分かった。

私たちの班は事前課題を通して、統計上は天草市の病院数、医師数ともに県内の市町村と比較して多い方であり、医療体制は一見充実しているようにみえるが、実際のところはどうなのかという疑問を持ち、データと現実との乖離があるのかについて着目してフィールドワークを行った。

フィールドワークでは牛深地域へ行き、地域包括支援センター、牛深市民病院、特別養護老人ホーム明照園を訪問させていただいた。各関係者にお話を伺い、病院や介護施設など施設数は足りているが、医師や看護師、介護士など、それら施設で働く人が足りていないということ、天草市の中でも本渡に人が集中していることが分かった。牛深市民病院に至っては今年から内科の常勤医が不在で、大学やドクターバンク等で常時求人を行いつつ非常勤医でなんとかつないでいる状態であり、非常に深刻な状態だと衝撃的だった。診療所の医師については高齢化が進み、昨年も1ヶ所診療所が診療を終了したそうで、心細く、不安に感じている住民も多いだろうと思った。

人手が集まらない理由として、熊本市から非常に遠いという交通面の問題や少子高齢化の進行による若年者の負担の増大など様々な要因が考えられるが、それらはすぐに解決できるような問題ではなく、人

が集中している大学病院等で短期間の地方への人材派遣制度などを整えることがまず必要ではないかと思った。また実習時間が限られており、各施設の一部の関係者にしかお話を聞けず、訪問した施設の医師、看護師や、施設を利用している住民にお話を伺えなかったことが少し心残りだった。

天草地域で働いた経験のある医師の方の話では、天草は「お医者様」と医師を敬う傾向が強く、医師と住民との心の距離が遠い印象があるそうである。天草に限らず、僻地においては地元の人同士での結束が固く、よそから来た人に対してあまり寛容ではないイメージが少しある。しかし、仮にそうであったとしても、患者さんとの良好な信頼関係なくしては、よりよい医療提供はできない。したがって、医師側が患者に歩み寄って、その地域の人々の信頼を得られるよう、粘り強く地道に努力していくしかないと思う。同じ熊本県内でも、地域が違えば歴史や文化、産業などは勿論、方言や物事に対する考え方、習慣なども微妙に違ったりするかもしれない。赴任するのは数年きりかもしれないが、その間にその地域についてよく知り、理解しようとする姿勢が地域住民との心の距離を縮めることにつながるのではないだろうか。

また、その地域の良いところを見つけ、好きになることで、自然と愛着もわき、その地域の医療に貢献したいという気持ちになるのではないだろうか。

今ほどの僻地においても少子高齢化や若年者の不足が深刻であり、いざ地域医療をやるとなったら大変なことや苦労の方が多いだろう。しかし、

日々の忙しさで一番大切なことを忘れないように、例えば地域住民とのコミュニケーションや信頼関係の構築のための努力を怠らず、厭わず、些細なことでも地道に取り組んでいきたいと思う。

また、医師ひとりで医療は成り立たず、様々な医療関係者や地域住民の方々に支えられて成り立っているということ、周囲の人々への感謝の気持ちを忘れないでいたい。



自治医科大学医学部 1年 阿久根 章也

□ 当初の学習目標

私は今回の実習にあたり二つの目標を掲げました。一つ目は、天草や牛深の地域へ実際に赴き、住民の方や病院長、先生方の話を聞いて医療の現状を知ることです。二つ目は、現状を知った上で今後どのような医師が求められているのか、住民の方々のニーズは何なのかを知ることです。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

➤ できたこと

初日は、天草地域医療センターの院長のお話を伺い、病院がどのような体制を行っているのかわることができました。また、円滑に病院内が機能するために建築の構造が工夫されており、最新の医療設備を所持しているなど、病院の特徴や現状を

知ることができました。また、初めて会う他大学の医学生や現地の看護学生と交流して、すぐに打ち解けることも出来ました。

二日目は、牛深の市民病院や介護施設に赴き、牛深地域での医療の現状を知ることができました。介護施設で高齢者の方が充実した生活を送ることができるための工夫などを知ることができました。

最終日は、グループでお互いに感じたことなど意見交換を交わして、訪問した地域での医療の改善策等を考案することができました。実習で学んだことを短い時間内にうまくまとめ上げるプレゼンテーション能力も養えることができました。また、他のグループの発表を聞き、今回訪れなかった地域の医療の現状や改善策等を聞き参考になりました。

➤ できなかったこと

実習全体を通して、患者の方と多く話す機会を持つことができず、住民の方々が現在の医療にどのような不安や悩み、あるいは満足していることなどを詳細に聞くことができませんでした。

また、医師の話を伺う際、自ら積極的に話に介入していくことができませんでした。その場で医療についての自分の意見や疑問を持ち、深く追及していくことができませんでした。

□ この実習の全体的な感想

実習が始まる前に事前課題として、私の訪れる地域の医療状況をインターネット等で調べておいたが、実際に訪れてみるとデータとの差異がかなりあることが分かりました。データ上では一見潤って見えるような医療だが、機能しているかどうかは別問題であることが分かりました。施設はあっても常勤医が少なければ、結局は処理しきれない患者を大きな病

院へ搬送しなければならず、施設数と医療の質は比例関係ではないことを実感しました。

医療についての学習を深めるだけでなく、他大学の医学生や現地の看護学生と共に活動することで、コミュニケーション能力や関わりを深め合う力を養うことも出来ました。お互いの価値観を共有する時間はとても有意義な時間でした。

精通していない土地でその日初めて顔を合わせた方々と楽しむ力は、将来私が実際に僻地勤務する際に重要な役割を果たすと思います。

□ これらをもとに、今後の学習計画、目標

今回実際に病院や介護施設を訪れて、データからは計れない医療の現状を知ることができました。病院で勤務している医師の話を聞き、先生方が抱えている不安や悩みを知ることができ、今後の医療に何が必要なのかを身をもって感じました。これからの授業で専門的な内容も学んでいく中で、今回の実習の経験を生かしながら、授業と絡み合わせて学んでいきたいです。医学生となって初期の段階でこのような経験を得たので、これからの学生生活がより充実した、有意義なものになると思います。

時代の流れとともに住民や医療施設のニーズは変化していくので、そのニーズを敏感に感じ取り、行動を起こせるような医師になりたいと思います。



天草市立本渡看護専門学校 1年 池田 真奈

私は、最初是天草市の医療については以前、調べたことがあったので知っているつもりでした。しかし、この研修に参加して天草市の医療について全然わかっていないことに気づかされました。私は、牛深地区にフィールドワークに行きましたが、思っていたよりも高齢化が進んでおり、特に医師不足が深刻でした。牛深市民病院には、高校生のときに1日看護体験で実習をしたことがありますが、その時には気づきませんでした。このことは、この研修に参加したからこそ気づくことができたことです。また、熊本大学の医学部の方々や自治医科大の方々ともふれ合うことで違う観点から医療について考えることができました。私は将来、天草とは違う場所で就職したいと思っています。一度天草を出ることで天草を客観的にみることができると考えているからです。スキルと知識を身につけて天草に貢献したいと思います。

この研修でたくさんの刺激を受けることができました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。



Group
5

グループメンバー

蓼田 美喜子	熊本大学医学部医学科生	5年生
藤川 あおい	熊本大学医学部医学科生	1年生
高吉 晃輔	鹿児島大学医学部医学科生	3年生
宮野 遼太郎	自治医科大学医学部医学科生	5年生
倉重 陽一郎	自治医科大学医学部医学科生	1年生

1日目 フィールドワークⅠ

天草保健所（総務企画課）

2日目 フィールドワークⅡ

新和支所 新和病院 新和苑 竜洞山みどりの村



1st day グループワーク

新和エリアでは、高血圧・高血糖などの生活習慣病が多い。食生活、もしくはその他の要因があるのではないかと。それらを調べ、対応策について考えていけたらと思う。

事前調べでは、介護福祉のデータはなかったが、実際の施設数は足りているのではないかと。でも職員数等は不足しているのではないかと。



2nd day フィールドワークⅡ

9:00	
9:10-9:40	新和支所にて説明
9:30	
9:50-10:40	新和病院見学
10:00	
10:30	
11:00	11:00-13:00 竜洞山みどりの村にて昼食、見学
11:30	
12:00	
12:30	
13:00	
13:20-14:20	新和苑（特養）見学
13:30	
14:00	
14:30	

新和町



1

新和町

・天草諸島の下島の東部



2

3rd day 発表

新和町は天草諸島の下島東部に位置し、人口3018人で天草市の4%を占めている。10年前と比較して、人口は731人減少、高齢化率は36.3%から44.17%へと上昇し、人口の半分近くが65歳以上の高齢者が占めるようになった。

新和町には、生活福祉ゾーンの「ひだまりの里」という地域包括ケアの拠点ともいえる地区があり、医療・介護施設から居住区やスーパーまで揃っている。「ひだまりの里」はふるさと創生事業（平成元年）の資金の使い道について住民にアンケートをとった際、社会福祉の充実を望む声が多かったことから設立された。現状では医療や介護の連携もとれ、人材も充足しているという話を聞くことができた。

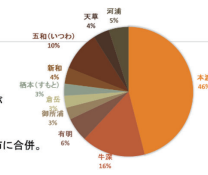
今後の課題として、少子高齢化の影響で人材の確保が難しくなることと、医師と他職種の壁を取り払うことが挙げられた。人材確保が難しくなることの対策として、コミュニケーションをより良くすることで働きやすい環境にすることや、要介護度が低い人はボランティアに手伝ってもらおうことが挙げられた。医師と他職種の壁については、「医師は特別で敬うもの」というような意識の壁があるようなので、医師から歩み寄っていくことでお互いの関係性を良くしていくという対策を考えた。

新和町

・人口 3018人

・播磨の伝説が残されている。

・2006年に天草市に合併。



3

現状

医療（新和病院）：「ひだまりの里」（後述）の一部。医療資源にはめぐまれている。

介護福祉（新和苑）：「ひだまりの里」の一部。スタッフは十分な状態。

行政（市役所新和支所）：地域包括ケアの一環として全国に先駆けて生活福祉ゾーン「ひだまりの里」を設立。

4

「ひだまりの里」

ふるさと創生事業（平成元年）1億円

住人アンケートの結果社会福祉の充実及び健康づくりを望む声が多数を占め設立。

5.5haの中に保育所・特養（お互い訪問して交流）、病院、高齢者福祉センター（地域福祉活動の拠点）、小規模多機能施設、スーパー、住宅などが入っている。

5

課題

これから生産者人口が少なくなっていくので、スタッフの確保が困難になる

医師と他職種の間に壁がある
在宅ケアマネージャーの負担が大きい
新和病院ではスタッフのやるが多い

6

解決策

特に介護職の場合、給料が安い、きついというのが大きい

医者側の側ももっと歩み寄る姿勢を見せて、少なくとも月1回くらいは話し合う場を設けて、要望や不満を聞いたりする。医師や看護師、介護士、ケアマネジャー、行政、などで話し合うことで、お互いが働きやすい環境を作る。

7

解決策

要介護度3以上の人しか老人ホームに入れないような制度になってしまったので、要介護度1や2の軽い人の買い物や洗濯、食事の世話など、医療関係者以外の人にボランティアを募ったりする。

ボランティア活動にポイント制度を導入したりして、できるだけ多くの人が参加するよう工夫する。

8

まとめ

新和地区は医療資源に恵まれた地域で、「ひだまりの里」など医療と福祉の連携の先駆的な存在だった。

これから、さらに人口減少が予測される中で、スタッフの確保が課題となっている。

話し合いの場を設けたり、ボランティアなど地域全体で支えていく環境づくりが大切だと思った。

9

謝辞

実習にご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

この実習で学んだことを活かして地域に貢献できる医師になりたいと思います。

10

ご静聴ありがとうございました。

11

Evaluation

スライド発表評価

1.資料（スライド）について

- 文字が小さい。
- カラーのスライドが見やすい。
- もっと内容を具体的にできるといい。
- 写真や図で視覚に訴える点が良い。
- 各スライド3文節程度に押さえており、見やすいスライドだった。
- わかりやすく説明もあったので良かった。
- グラフなども入っている点は素晴らしいですが、文字が小さく見えません。残念です。
- 写真なども入っていて良かったです。
- よくまとまったスライドで良かったです。もっと字を大きく、短い文章にすると良いと思います。
- グラフの字など、全体的にフォントを大きくするともっとみやすいと思います。
- 見やすいスライドでした。もう少し強弱をつけてみるとさらに良かったと思います。
- レアウトに工夫がみられ見やすかった。
- シンプルでわかりやすかった。
- 前半は写真や図が多く、見やすいスライドだった。
- 少し後半は字が多いスライドだった。

2.発表について

- 全体的によくまとまった発表だと感じた。
- 理解しやすくよかった
- フィールドワークベースの内容で、実習の内容がわかり良かったです。
- 質問に対して、しっかり答えられていたので良かったです。
- 聞き取りやすい発表でした。

- 聞きやすいトーンで話している人がいた点がよかった。
- トーンやスピード等Goodでした。
- どの説明もわかりやすく、聞きやすかった。
- 発表していない人もいたので、もう少し皆で分担しても良かったのではないかな？
- もう少し元気があればもっと良かったです。

3.内容について

- 課題、解決策（ポイント制のボランティア等）も行政で参考になる意見だと思われた。
- 陽だまりの里の設立経緯などまで紹介していいですね。
- 働きやすい環境にする→今、そのような点がボランティア-ポイント制度というのは具体的でいいですね。
- よく調べてあった。解決策としてポイント制導入など参考としていきたい。
- 地域の特徴と介護施設をつなげてのボランティアを増力する発想はよかった。ひだまりの里という施設内で完結してしまうのはもったいないと思った。
- 「ひだまりの里」で色々とお話をうかがってきた事を生かした発表だったのかな、と思いました。
- 願わくば、一方からの視点意見のみでなく、他方からの視点意見も考えられるようになってほしいと思います。
- よくまとまっていた。
- 医師と他職種との連携について、今後もさらに深めてもらいたいと思います。
- 問題点をしっかり挙げられていた。
- 解決策を、もっと具体的なところまで落とし込めるとなお良いと思います。
- 医療スタッフの連携、コミュニケーションを問題点としてあげ、住民参加のアイデアも含めての考察がよかったと思います。
- 壁を作らない、本当に難しい内容だと思います。介護からの意見と医師からの意見、両方あるとよりよかったですね。
- とても現実的で大きな課題が抽出されていた。
- 自分たちの将来の医師増や医師としての在り方にも考察が及んでおり好ましく感じた。
- 既に市や社協さんで取り組んでいることが解決策にあった。もっと掘り下げてほしかった。
- 介護職の生の声が強く出ていた内容で勉強になった。

4.その他の点について

- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にさせていただきます。
- 他職種間の連携の難しさがある点を見つけれられて良い。
- 時間もOK
- 医師と他職種との連携について、医師としての課題があると良かった。
- 話の連動性がどうか？
- 宮野君の回答がすばらしかった。

総合評価

1248

点

（評価者16名、1人につき100点にて評価）

※評価には以下の点を反映しています。

- 資料（スライド）
- 発表（プレゼンテーション）
- 内容（コンテンツ）
- 熱意やモチベーションなど。

熊本大学医学部医学科 5年 養田 美喜子

□ 当初の実習目標

私は今回の実習に参加するにあたり、二つの目標を立てました。一つ目は、天草では医療や福祉に関してどのような問題があるのかを知ること、二つ目は、地域においてどのような医師が求められているのかを知ることです。今回は、この二つのことを常に考えながら実習に臨みました。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

今回の実習は、例年の実習とは内容が大きく変わりました。これまでの実習では主に地域の病院を訪れ、地域医療に携わる医師の様子を見学させていたことが中心でした。しかし今回の実習は、フィールドワークを行い、医師だけでなく行政や福祉に携わる方々からお話を伺うことができました。

これまででは、病院の中からの視点で地域をみるが多かったのですが、今回の実習では、病院の外からの視点で地域の問題を考えることができ、医療というものは多くの人々の支えで成り立っているのだと感じました。

ひとつ心残りに感じたのは、自分たちが行った地域に住む一般の住民の方の声を聞けなかったことです。住民の方々の意見も聞くことができればまた別の視点で地域における課題を見つけられたかなと思います。

□ この実習の全体的な感想

今年は自分も五年生ということで、グループを引っ張っていくという立場になり、これまでの実習と比べてより積極的に実習に参加することがで

きたため、得られたものがたくさんあったと感じます。今回の実習で一番勉強になったのは、国が進めようとしている政策が、実際の地域の現場での実情に合っていないということです。大学の講義などでは、国はこれから全国の病院のベッド数を削減し、在宅医療の普及を促進しようとしていると学び、私もそれは良い政策だと思っていました。しかし今回の実習で、地域の病院や福祉施設の方々からお話を伺ったところ、高齢者のみの世帯が多い地域では、在宅医療を行うのに必要なマンパワーが不足しているため、在宅医療の普及は難しいとのことで、行政と現場との間には大きなギャップがあると感じました。地域医療を考える上ではやはり、今回の実習でやったような地域診断を行い、それぞれの地域にあったやり方を考えていかなければならないなど実感しました。

□ 地域で求められる医療人としての理想像

今回の実習を通して、地域医療に携わる医療人に最も大切なことは、その地域に対する愛だと感じました。私も将来、自分のいる地域を愛し、自分も地域の住民の一人として、医療を通してその地域を盛り上げていける医師になりたいと思います。



熊本大学医学部医学科 1年 藤川 あおい

□ 当初の実習目標

天草、中でも新和地区における健康問題や医療問題を知り、その解決策を探る。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

天草における健康問題としては、事前学習で悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、肺炎が多いことが分かったが、原因の特定はできなかった。また、実習中のフィールドワークで分かった新和地区における医療問題としては、以下の3つがあげられた。

1. 過剰な病床数
2. 1人のスタッフが担う仕事が多い
3. 医師とコメディカルコミュニケーション不足

これらに対する解決策については、下記の意見があげられた。

〈1〉については具体的にはわからなかった。

〈2〉1人当たりの負担が減るように、スタッフの数を増やす。介護において、必ずしも資格を必要としないこと（買い物の補助など）をする人を民間から募集する。

〈3〉医師とコメディカルの方が集まり、意見を交換する場を作る。

□ この実習の全体的な感想

最近、これからの医療として在宅医療が主になるという意見をよく聞いており、行政の方の意見も同じであったので、新和地区においても在宅医療が進められていると思っていたが、実際はほとんど進められておらず、現状には問題ないということや行政の意見が、全ての現場に適應されるわけではないということを学ぶ機会となった。

また、新和地区には「ひだまりの里」という生活福祉ゾーンが存在する。これは、ふるさと創生事業（平成元年）をきっかけに10年かけて整備されたものであり、住居、スーパーマーケット、病院、老人ホーム、保育園などが1つの地区に密集している。新和地区における福祉、保健、医療の拠点ができていた。また、施設間の交流もあり、それぞれが連携しスムーズに運営を行っている。29年も前に考えられたものであるが、現在も新和地区の医療や福祉を支えており、ひとつの成功例としてとても参考になった。

□ これらをもとに、地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

今回の実習で、世間一般に言われていることだけを鵜呑みにするのではなく、その地域の特性を知り、その地域に合わせた医療を行うことが大切だと思った。また、今回のフィールドワークで各施設の職員の方々に、どんな医師が天草に来てほしいか聞いてみたところ、「天草に通うのではなく、天草に定住してくれる医師が良い」という答えが返ってきた。医師が不足している地域においては、その地域に定住する医師が必要とされていると分かったので、将来地域医療に携わるときは、その地域に定住することが理想だと思った。



鹿児島大学医学部医学科 3年 高吉 晃輔

□ 実習の当初目標

私は鹿児島県出身であり熊本についてまだまだ知らないことが多いため、今回の実習では独自に次のような目標を設定して臨んだ。それは、今回の実習先の天草地域に関して、他の参加者以上に積極的に、理解を深めるよう努めることである。県外出身で天草を訪れたこともなかった私は地名すらほとんど知らないほどだったが、少しでも熊本の人間になりたい、ならなければいけない、との思いからそのような目標を設定し、あらゆるものを可能な限り見たり、聞いたり、調べたりすることとした。

□ できたこと、できなかったこと

医療、福祉、行政の実際の現場を見学させていただいたり、直接お話を伺うことができたという点で特に、この実習は非常に有意義なものであった。普段は教室で講義を受けるばかりで実際の現場での経験がまだない私にとって、このような体験は単に見聞が広がるというだけでなく、今後自分たちが携わっていく場面へのイメージを具体的にし、将来の医療者としての自覚をより深めてくれるものであった。

しかしそのような充実感の一方で悔いも残った。今回の実習は事前の調べ学習も行って臨んだが、医療に関することはとにかく福祉や保健に関する予備知識が足りず、すべてを学び切ることはできなかったと感じたためだ。医療に携わるには、医療そのものだけにとどまらない視野や知識も求められるのだと痛感した次第である。

□ 実習の全体的な感想

今回の実習は、フィールドワークやディスカッションなど、能動的に学び、考え、行動することがあらゆる場面において求められたことが、全体を通して印象的だった。教室で講義を受けるばかりの日頃は受け身の姿勢に陥りがちであったため、アイデアを練って出し合ったり、自分の意見を発信したりという今回の経験は、学生として非常に充実したトレーニングになったと感じた。

また、天草四朗について学んだり牛深ハイヤ踊りを体験したりと歴史や文化に触れる機会もあり、それらを積極的に吸収できたことに関しては当初の個人的な目標を達成できたと満足している。しかし、前項でも述べたように、今回の実習では見聞を広げることができたがそれでもまだまだ足りない部分も多いと感じさせられた。これを期に、一層の努力を重ねたいと気持ちを新たにすることができた。

□ 地域において求められる医療人としての理想像について

フィールドワークや各グループの発表を通して、医療にまつわる状況やニーズは、天草地区という大きな枠組みにとどまらずその中の各地域によっても異なっているのだと気付いた。そこで「地域において」必要とされる人材となるには、その地域を的確に理解し柔軟に対応できるようにならなければならないのだと感じた。

またそれを「医療人として」実践するには、医療の枠組みの中だけで考え行動しては不十分で、行政、福祉なども含めた地域のあらゆる住民の方と協力できるようになるべきであると考えた。そ

のためには、医療に限らず福祉制度などに対する視野や知識を広げる努力を常に怠らないことと、そこに関係するあらゆる職種や立場の方と協力できるよう理解を深め合う姿勢を忘れないことが重要だろうととらえている。



自治医科大学医学部 5年 宮野 遼太郎

□ 当初の実習目標

- ・事前課題で調べた内容を元に、新和地区の医療問題を考える
- ・地域包括ケアシステムの現状及び課題、解決策について考える
- ・各班の発表などを通して、天草医療圏の医療問題について理解を深める

□ この実習でできたこと、できなかったこと

➤ できたこと

学校の授業などで地域包括ケアシステムなど学んできたが、実際に市役所や病院、福祉施設を見学し話を伺うことで、連携などを含めて現状を知ることができた。現状から新和地区の課題を見つけ、解決策などを考えることができた。

➤ できなかったこと

課題についての解決策が難しく、なかなか思うような結論を出すことができなかった。

□ この実習の全体的な感想

今回の実習を通して、天草の歴史や地理、医療問題などが勉強になったことはもちろんですが、地域はそれぞれ歴史背景や医療資源も異なるという、当たり前のことに改めて気づかされました。

新和地区は、住居間の距離が離れているため、在宅医療に切り替えて往診すると経営的に厳しく、また、独居高齢者が多いため、疾患に罹患した際には在宅での生活が難しいこと、さらに、新和地区では、病気に罹ったら病院に預けておけばいいという風潮が少なからず残っていることもあり、在宅医療はなかなか難しい地域でした。しかし、旧本渡地区ということもあり医療資源には恵まれており、病院、介護施設、行政を伺うと、「うちは恵まれている」「介護福祉の先駆けだと思っている」と肯定的な意見が多く、新和には新和に向けた医療があるのだなと感じました。他班の発表を聞くと、例えば栖本地区は、農業などの一次産業が盛んで、地産地消が行われてきたこともあり閉鎖的な地域ですが、結束力は強く、検診受診率は他の地区に比べかなり高いということで、課題はあるでしょうが、その地域の特性を活かして医療が行われているのだらうなと思いました。将来、地域で働くときに、今回気づいたことを活かしていきたいと思います。

□ 地域において求められる医療人の理想像

知識と技能で全国水準を保つことは最低限、地域で働く若手医師に求められることだと思います。しかし今回の実習を通して、地域ごとに歴史や資源も違うので、その地域をよく知り、他職種や住民と協力して、柔軟に対応していく医師が地域では求められていると思いました。

また、医者は他職種から忙しいと思われる上、天草地域では特に医者は敬われてきた歴史があると聞きました。介護士や看護師、行政から医者に、話し合いの場を作るよう申し出ることはなかなか難しいと思うので、医者が他職種の方に、話し合いの場を作らないかと歩み出る姿勢が大事なのではないかと思います。食事会や飲み会でもいいと思いますが、コメディカルの方が普段抱える不満等を聞き出し、相談に乗ることができることも必要なかなと思いました。



自治医科大学医学部 1年 倉重 陽一郎

□ 当初の実習目標

私の今回の実習の目標は、①熊本県の地域医療の実情について知ること、②実習に積極的に参加すること、③自分が将来になりたい医師像について考えることの三つだ。

まず①については、自治医科大学に入ったばかりである私は地域医療についての知識はあっても、実際どのような状況なのか全く分かっていないため、自分の目で見て、自分の耳で聞いて、本当のことを知りたいと考えたからだ。

②については、初めての参加だからと言って先輩方、先生方に頼りすぎるのではなく、自ら質問をしたり、意見をしたりなど今回の実習が少しでもよりよく、有意義になるようにと考えたからだ。

③については、医師になるためのスタートラインに立ったばかりである私が、今後どのような医師になりたいか、また手本になるような現場で働く方々を見て、今後の勉強のモチベーションに繋がればと思ったからだ。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

今回の実習では、自分で立てた目標は達成できた。天草市、特に私がフィールドワークで訪れた新和地区では地域包括ケアシステムが二十年以上前から発達しており現状としては満足 of いく医療・福祉ができているといった声も聞くことができたが、過疎地域で少子高齢化が進み、働き手が足りないことや行政と現場の連携がとれておらず、これからの方針がすれ違っていることや理想と現実ギャップがあることなどの実情が分かった。また、考察・発表などでは、班員と協力して考えることができた。三つ目の目標に関しても、現場で働く尊敬できる先輩方と多くのコミュニケーションをとり、このような医師になりたいと感ずることができた。しかし、与えられた実習目標である優先すべき健康問題についての課題を検討し、それらの課題に対する解決・改善策について考察し、発表することはもう少し深く考えることができたかもしれないと反省している。ほかの班の発表を見ていると、一つの課題に対して、いくつもの具体的かつすぐにも有用可能な解決策を考えており、素晴らしいと思った。また、将来熊本県の地域医療を支える同世代の人たちと交流を深めることができたことはとても良かったと感じている。

□ この実習の全体的感想

この実習では初めて意識できたことがいくつかある。まずは、自分の地元である熊本県の僻地がど

のようなものであるかということ。また、その地域に求められる医師はどのようなものであるかということ。つまり、一年生である私にとってまだ若いうちからこの二つを意識できることで自分の勉強に対する心構えも変わってくると思う。

次に、地域医療は一人で行うのではなく仲間がいるということだ。今回、自治医大の先輩方や熊大の方々など多くの人と関わりを持つことができた。これはこれから先々で助け合う仲間となるだろうし、今後も良い関係を続けていければ良いと思った。

□ 地域において求められる医療人としての理想像について

私の考える地域に必要とされる医師として重要なことは三つあると考えた。まず、豊富な知識と確かなスキルを持つことだ。少人数で多くの病気に対応しなくてはならないため、人一倍勉強してオールラウンドに働けるようにしなければならないと感じた。

次に、その地域に早く順応できるような柔軟性だ。その地域にすでにある連携の中に早く溶け込んで働けるような柔軟性が必要と感じた。

最後に、リーダーシップをとれることだ。医師には、医療行為だけでなく、その地域で行われる他の物事、お祭りなどにも積極的に参加して、地域住民の一人として、またその地域のリーダーとして、多くの人たちに必要とされる存在になるべきであると感じた。



Group 6

グループメンバー

奥村 祐生	熊本大学医学部医学科生	5年生
鶴田 恵理	熊本大学医学部医学科生	2年生
五江 景明	熊本大学医学部医学科生	2年生
千田 麻由子	自治医科大学医学部医学科生	3年生
田中 裕之	天草市立本渡看護専門学校	1年生

1日目 フィールドワークⅠ

天草保健所（保健予防課）

2日目 フィールドワークⅡ

牛深支所 包括支援センターすいせん 牛深市民病院 悠ほ一む



1st day

グループワーク

人の動きに視点を当て考えると、天草と八代での交通の比較（熊本市との距離は同じ）では、天草の方が時間がかかり人の動きも悪い。牛深はさらに遠いため、人口減少など問題があるのではないかな。

人の動きの差の理由をフィールドワークの聞き取りを通して調べてみたい。



2nd day

フィールドワークⅡ

9:00	
9:30	
10:00	9:50-10:40
10:30	牛深支所、包括支援センターすいせんにて説明
11:00	
11:30	10:50-11:30
12:00	牛深市民病院見学
12:30	11:40-13:00
	牛深海彩館にて昼食、牛深の町中散策
13:00	
13:30	13:10-13:50
14:00	悠ほ一む（地域密着型特養）見学
14:30	

3rd day

発表

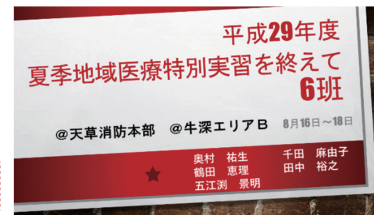
牛深の人口は13131人で43%が65歳以上の高齢者である。事前の調べではこの割合の高さに対して介護施設の数が少ないことから、訪問看護やホームヘルパーなどの在宅医療のサービスの需要は高いが供給が間に合っていないのではないかと予想を立てた。

初日に訪れた天草消防本部では、救急についてのお話を伺った。天草で救急搬送される人の71%は高齢者で、現場から医療機関に至るまでに全国平均よりやや時間がかかっている。昨年度の出発件数は5895件で、うち熊本市など管轄外への搬送は775件に上っていた。現場から医療機関までの時間の短縮のため、ドクターヘリの数を増やす、交通状況の改善をするなどの対策を行うべきと考えられた。

二日目に訪れたユニット型地域密着型特別養護老人ホームである悠ほ一むでは、介護サービスの需要の高さを垣間見た。入居者の要介護度の平均は3.8で、定員数は29人であるのに対して、待機者は35人もおり、需要が高だけでなくスタッフの負担の高さも窺える。また、リハビリをして回復したら退去しなければならないシステムへの不満や、ユニットケアの浸透率の低さが問題となっている。介護報酬の仕組みを整えたり、ユニットケアの認知度を高めたり、財政的支援をするなどの対策が必要だと考えられる。

牛深市民病院では、常勤医が少ないことが大きな問題となっている。ドクターバンクの活用なども進めてはいるが、【医師の負担が大きい→辞めてしまう→人手不足→患者を受け入れられない→経営の悪化】という悪循環に陥りかけている。その対策として、若手医師がキャリア形成できるようにしたり、パートタイム制を導入して期間限定の医師の雇用をしたり、病院機能の分担をして医師の負担を軽減したりといったことが望まれる。

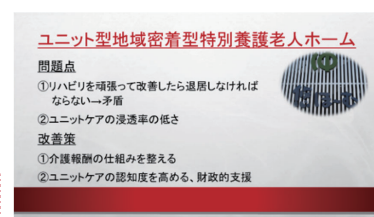
今回実際に訪れてみて、衣食住が整っており暮らしやすく、医療のレベルも高くて研修病院としての天草の病院も非常に魅力的だということが分かった。しかし、遠くで移動に時間がかかることが大きな障害になっている。移動時間が短縮すれば人の動きも良くなり、人材の確保等もしやすくなると考えられるため、この問題を解決することが改善の糸口となるのではないだろうか。



天草消防本部

年	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
件数	32	39	39	38	27	53	29	29	39	24	41
ドクターヘリ	3				52	51	60	63	43		

・天草-熊本間は救急車では、通常1時間40分程度、遅延時は2時間30分程度かかる
・ヘリでは20分くらい
・ヘリを他ラジック：時間短縮と早期介入
対策
・ヘリを増やす
・交通状況の改善

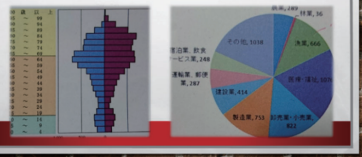
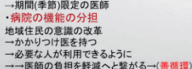


常勤医が少ない
→曜日ごとに派遣してもらう
(パートタイム制の導入)



医師の負担は大きい→辞めてしまう→人手不足
→患者を受け入れられない→経営の悪化→(悪循環)

・常勤医師の確保
キャリアや技術に遅れてしまう不安
一研修に参加しやすくする
・パートタイム制の導入



衣食住

- ・観光資源が豊富！
- ・海洋気候で住みやすい！

医療従事者として

- ・医療と行政の連携も密で理解がある。
- ・研修病院として大変魅力的。
- ・必要とされている！

◆でも遠い！！

日本天然林保護法	L ₀ 約70km	
1987.12月 計画開始年度		
熊本県道工	L ₀ 約30km	国庫工



SPECIAL THANKS

天草郡市医師会の諸先生方
天草市職員の皆様
地域医療実践学寄附講座の諸先生方
天草地域の医療従事者の皆様
天草市の住民の皆様

スライド発表評価

- とても見やすいスライドであった。
- 印象的なデザインですね。
- 写真やグラフ等をうまく使い、補足説明もあり視覚的に見やすいスライドだった。
- 情報が多く見やすかった。文字もちょうどいい大きさだった。
- いただいた資料（や包括でのお話）などが生かされていて良かったと思います。
- 視覚的に見やすく、わかりやすくてすばらしい
- スタイリッシュですね！
- まとまったスライドで良かったです。
- 表や写真が多く、とてもよかった。
- 字のサイズがもう少しいい大きいと、より見やすいと思います。
- グラフを使い分かりやすかったです。
- スライドは見やすかったです、枚数が多かったですね。
- 見やすい！こだわりあり！
- 図表を効果的に使用
- 図が多く、見やすいスライドだった。

- スムーズな発表で良かったと思う。
- 良くまとまっていた。わかりやすい！
- 内容が多くて簡潔ではなかった。
- フィールドワークの内容が多く、よく見てこられたのだなと思いました。
- フィールドワークで見聞した内容からさらに自分達で考えたり、調べたりした内容を盛り込まれており、すばらしいです。
- 聞き取りやすく良かったです。さらに、時間内に終わればもっと良いです。
- スライドを明確に説明できていた。
- 聞きやすいスピードとトーンで話をしていてよかった。時間配分を考慮できればよかった。

- 聞き取りやすかったが、時間超過が残念でした。
- スライド内容を全て伝えようとした為か、少し時間が超過した（仕方ないか？）
- 色々盛り込みすぎてボリュームオーバーでした。最初に話す内容をアウトラインとして出すと良いのでは。
- もう少しテンポが良いといい

- (天草消防本部) (牛深テリア・牛深支所) 医師の
問題や時間的な問題等、踏み込んだ発表であった。
- ある資源の活用という視点が実現可能性という点で
優れている。
- 地域の資源をもとにして、何かを改善しようという
気持ちはよかった。具体案として少し弱いかなと
思った。
- フィールドワークの内容が多く盛りこまれており、
よく見てこれたのだなと思いました。また、
フィールドワークで見聞した内容からさらに自分達
で考えたり、調べたりした内容を盛り込まれており、
すばらしいです。
- 具体的数値があって分かりやすい。さらに、解決策
として、もっとと具体できにしてみようとさらに良い
と思います。
- 改善策を、もっと自分達にもできそうなレベルに落と
し込んでかがえられたら、なおよかったと思います。
- 道路整備をよく調べていた。
- 今ある資源を生かそうという発想は、とても素晴ら
しいと思います。
- データを基にした問題点の抽出がわかりやすかった
です。
- 現場の様々なグレーゾーンにも踏み込んでいる部も
あり興味深かったです。
- 難しい内容ですが、アクセスという重要な点に目を
つけましたね。
- 内容としては一番よかった！！
- それぞれのパーツ課題と対策が述べられて良かった。
- 多くの問題点、それぞれに対して色々と調べた跡が
感じられた。
- 問題点、解決策が明確。地理的な面からも掘り下げ
があった。
- 牛深市民の現状にマッチした、解決策がよかった。
- 常勤医師が職場において求めるものは、キャリア、
技術以外にもあるような気がしました。ぜひご検討
ください。

- パートタイム制（かかりつけ医を持つ）という取り組みはいいですね。
- 意識改革はかかりつけ医を持つことで改善されるのだろうか？
- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にさせていただきます。
- 時間長い！

総合評価
1302
点

(評価者16名、1人につき100点にて評価)

※評価には以下の点を反映しています。

- ・ 資料（スライド）
- ・ 発表（プレゼンテーション）
- ・ 内容（コンテンツ）
- ・ 熱意やモチベーションなど

Report 学生レポート

熊本大学医学部医学科 5年 奥村 祐生

□ 当初の実習目標

住民の目線で地域医療を考える。

□ グループテーマ

人の動きに見る天草市

□ この実習で、できたこと、できなかったこと
グループリーダーとして、班員が、より自然体で楽しく実習に励めるような雰囲気作りと、それぞれが目的意識を持った活動ができるよう誘導することを心がけました。終始和やかな雰囲気を実習は進み、最終日の発表では各自が学んだことをしっかり伝えることができ、グループ発表の順位で見事2位に選ばれました。

反省点としては、グループテーマであった「人の動きに見る天草市」を、実習を通じて皆に意識付けを行い、テーマに沿った考察や発表ができればよかったと思います。

□ 実習の全体的な感想・求められる理想像

今回、医学部5年生となり将来の進路を考えている最中に地域医療実習に参加することで、今までの実習とは異なった観点で地域医療について考えることができました。

これまではその地域の抱える問題を、半ば政治家のような感覚で捉えていました。それゆえ、根本的な制度を変えることや、インフラ整備に重点を置くことなどが諸問題の解決策と考えていました。しかし、近い将来にこの実際にこの地域で働くと考え、そういった非現実的な解決策より、いかにその条件に自ら順応していくか、そしていかに自らが役立っていくかを考えました。働く病院の

設備や規模、福利厚生等もありますが、それ以上に、地域住民の特性、要望、苦勞、楽しみ…等、生活のすべてが自らの生活へとつながります。その地域で働くということは、まずその地域の住民となることです。将来その地域で家族を持つことになったら…、その地域で老後を暮らすことになったら…。そう思うことで、必要だと思っていたことが実は最重要ではなく、気にも留めていなかったことが、逆に大変重要なことだと気づくことがたくさんありました。その一例としては、私たちは重症の救急搬送の手段や時間など考えることが多いのですが(もちろん大切ですが)、日常で必要なのは頻度の低い重症のケアより、高頻度で起こる小さな疾患や障害が生じたときにすぐにアクセスでき診てもらえることだということです。

これから医師となり大きな責任を担う立場となりますが、プレッシャーとなり苦痛を感じるのではなく、地域医療の恩恵や問題の両面を被る住民の目線でもとに考えていく姿勢でキャリアを積んでいきたいと思います。

最後になりますが、この実習に携わりご尽力くださった先生方、職員・スタッフの皆様、誠にありがとうございました。



熊本大学医学部医学科 2年 鶴田 恵理

□ 当初の実習目標

- 天草の医療の実態について学ぶ
- 牛深の医療の実態について学ぶ
- 天草と熊本市の医療の連携を学ぶ
- 病院数は充実している印象を受けるが実際はどうか

□ この実習で学んだこと

- 少子高齢化が進む現代において天草は特に問題が深刻化している地域の一つであり病院数とは関係なく医療従事者が不足していて十分な医療が行えているとはいえない。
- 1日目に伺った天草消防本部では天草は海に囲まれた場所なので水害が多いと思っていたが実際の被害数は少なかった。また高齢者が多いことをうけて、高齢者が非常時にすぐに連絡できるようにペンダントを身につけ、何か起こったときにはボタンを押せば消防に繋がるようになっていた。
- 2日目に伺った牛深は天草のなかでも特に少子高齢化が進んだ地域。牛深市民病院の常勤の先生は二名で熊大や久留米大学などから非常勤の先生を呼んだり、帰国してきた先生などに期間限定で勤務をしてもらう形。ドクターバンクなどで呼びかけるが、厳しいのが現状。特別養護老人ホーム悠ほ一むは3ユニットからなる。中邑病院から週1の回診が行われている。老人ホームには悠ほ一むのような特別養護老人ホーム(特養)と介護老人保健施設(老健)があり、前者が「最後のときまで心穏やかに過ごすこと」を目的とするのに対し、後者は「施設を出て、家で過ごせるようになるまで機能回復をすることを目的とする。

□ 三日間の実習を通じて

今回の実習ではフィールドワークで多くの場所にお伺いすることができ、多方面から天草の問題点を知ることができたし、実際に暮らす方々からの生の声を聞くことができた。その中でも私たちの班が重点を置いたのは天草の「人の流れ」というものである。天草と熊本市を繋ぐ高速道路はなく、朝の出勤の時間帯は道路も渋滞して市内から通るのは困難である。医療だけに限らず観光などにおいても天草までの交通の便が改善されると天草の発展になると思う。また最終日に、ヘリを患者を運ぶためのものではなくて医者を運ぶのにも使いたいといった意見をおっしゃっていて道路の整備だけではなく、違った視点で考えるといいアイデアが出そうだなと感じた。

また、悠ほ一むにお伺いしたときに自分が今まで見た行ったことのある老人ホームとは雰囲気が全く違ってとても印象的だった。1年の時の早期臨床体験実習でも老人ホームに行ったが、この悠ほ一むはアットホーム感があって一人一人の生活が尊重されているのが伝わってきた。しかしここで働く人たちは、入居者の人たちがリハビリを頑張って回復すると強制的に退所しないといけないのでとても矛盾を感じていらしかった。介護報酬などの仕組みも作られてきているようだが、不正の発生や基準を設定するのは施設ごとであることなどまだまだ改善が必要である。またこのような老人ホームの形は九州が発祥であり今全国に広まっている最中であるということだったので、このような暖かい老人ホームがもっともっと増えていくと少子高齢化が進む日本の老人の人たちもよりよい老後を過ごしていけるといった。

今回の天草での実習を来年の実習、そしてこれ

からの医療従事者としての生活に生かしていきたいと思う。



熊本大学医学部医学科 2年 五江 景明

□ 当初の実習目標

今回の実習にあたって、医療は勿論のこと医療以外のことも含めて天草という地域についてなるべく深く理解する、また地域医療に従事するにあたって必要な姿勢を考えるという2つの目標を立てた。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

今回の実習でできたこととしては、事前学習として天草の各種の統計を調べたり、フィールドワーク等で実際に地域医療に従事されている方のお話を伺ったりする中で、これまで漠然としていた地域医療に対するイメージを、天草をモデルケースとしたものではあるが、自分の中でより具体的なものにすることができたという事が挙げられる。高齢化率が40%近い深刻な少子高齢化や十分でない交通網の問題等、天草の地域医療に関するより細かな問題点を認識することもできた。

一方で、地域医療の問題点を挙げることはできても、それに対する有効な解決策を考えることはあまりできなかったように思う。また、事前学習の際に統計資料等についてはある程度必要なものを調べることができたが、そこに自分なりの考

察を加えたりすることが十分にはできていなかったように思う。事前学習の段階でこうしたことができていれば、実習中により踏み込んだ議論ができたり、あるいはフィールドワークのときにより積極的に質問したりすることができたのではないかなと思う。

□ この実習の全体的な感想

私はこれまで、地域医療とは基本的には住民の高齢化が進んでおり、医師や医療設備が十分でない地域で行われる医療である、という漠然としたイメージを持っていた。そして、どこの地域でも抱えている問題は程度の差こそあれ、大きな違いはあまりないのではないかと考えていた。しかし、今回の実習に参加して、同じ天草と言っても地区によって住民の性格や受診行動などが異なっており、抱える問題点にも様々な地域性があることが分かった。

実習中に「地域診断」という言葉が何度も出てきたが、地域医療に従事する際にはこうしたことを念頭に置きつつ、実際に現地に赴き、現場の方のお話を伺う等の取組みが重要であると感じた。

□ 地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

今回の実習に参加し、地域医療では少子高齢化をはじめとして医療以外にも行政等の様々な分野が関係する問題が多いと感じた。そういった環境では一人の医師としてできることには限界がある。今回、地域医療においては俯瞰的な視点を持ち、問題点を医療機関だけでなく多くの関係者で共有し、地域全体で解決していく姿勢が大切であると学ぶことができた。地域医療においては、その中心になれるような医療人が必要ではないかと今回の実習を通して感じた。

最後に、夏季実習にご協力頂いた全ての方に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



自治医科大学医学部 3年 千田 麻由子

□ 当初の実習目標

フィールドワークやグループワークを通して天草地域の医療の現状を理解する

□ この実習でできたこと、できなかったこと

天草消防署や牛深市民病院、特養に伺い、それぞれの施設の現状、抱えている課題を理解し、解決策を自分なりに考えることができたと思う。

グループワークでは天草地域の抱える医療問題の解決策を考えましたが、即効性のある方法は考えることができなかった。高速道路を作るなど中心部へのアクセスをよくするのが理想的ではあるが、お金もかかるし、道路ができることによって外に人が流れてしまうかもしれないという懸念もあり、難しいなと思った。

□ この実習の全体的な感想、学んだこと

天草消防本部では、救急搬送についてお話を聞いた。年間搬送件数のうち15%ほどが管外（熊本市内の日赤病院や熊大病院など）に搬送されていた。管外に運ぶかどうか、重症度を判断する基準は、消防法で定められている基準に加え、さらに細かく観察項目を独自に設定し、表にまとめられて

いて、素早く正確に判断できるのに役立っていた。天草は熊本市からは地理的に遠く、搬送に時間がかかるため、必要に応じてヘリを利用しつつ対応している。車で2時間ほどかかるのがヘリだと20分に短縮されると聞き、中心部から離れた地域におけるヘリの果たす役割はとても大きいと思った。またヘリには医者も乗ってくるので医療介入が早いという利点もあった。しかし、夜はヘリが飛べないという欠点もある。天草は大きな震災などで橋が落ちることがあれば完全に離島になってしまう。このように地理的なハンディが大きいため、交通網や道路の整備が必要になってくるということを実感した。

牛深市民病院では、現在の運営状況について伺った。常勤医は4名で内科は0名と厳しい状況だということが分かった。求人は出しているが、牛深は天草からさらに一時間くらいかかる最南端に位置し、なかなか人が集まらないと聞いた。今は外部の病院から医師を曜日ごとに派遣してもらっている。また、ドクターバンクを利用して、短期間での雇用も行っている。新幹線が開通して出水駅まで新幹線で行くことができるようになり、少しアクセスはよかったが、それでも熊本市から二時間弱はかかるため、なかなか通勤は難しいなと思った。医師が不足しているため入院患者もあまり受け入れられないそうで、厳しい状況におかれていることを強く感じた。

また、10年後の天草地域の予想人口統計によると、総人口は減少しているものの60歳以上の人口はほぼ変わらないため、同じ規模での経営が求められると聞いた。医師の確保は最優先すべき課題だと思った。

□ 最後の各班のプレゼンから学んだこと

天草の中でも地域によって特性があることを学んだ。人との関わりが多い地域では健康診断の受診率が高かったり、周りで協力してなんとかやっていこうとするため介護施設の利用も若干少なかったりした。地域の特徴を生かしながら健康増進計画を進めていけたらより効果的だなと思った。

天草市健康ポイント事業についても初めて知った。健康づくりの推進のため、ウォーキング大会の参加者にポイントを与えるという内容だったが、集団での参加には追加でポイントを与えたり、参加回数が多いほどポイントが倍増する制度にしたりして、より多くの人が参加し、また楽しみながら継続できるようにするといった。

□ 地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

地域の抱える健康問題を日々の診療から捉え、地域特性を生かしつつ健康増進計画をすすめることができる人が求められると思う。牛深市民病院では曜日ごとに違う先生が来ていたが、それでは患者さんは少し不安を感じてしまうと思う。地域の患者さんのことをよく知っていて、一人ひとりに寄り添えるような医師になりたいと思った。



天草市立本渡看護専門学校 1年 田中 裕之

私は今回の地域医療実習に参加し、医学生の方や地域の関係者との交流を通して、天草という地域にずっと住んでいたが、地域によって特徴があることを知ることができました。

天草は高齢化率が高く、平成 29 年 3 月末で、37.4%と高く、少子化の影響もあり、若い世代が少ない現状があると改めて感じました。

天草は、いずれ日本がむかえる時代の一つなのかもしれません。この問題を解決するためには若い世代が都市部にいかないような対策をとっていく必要があると思いました。現状では、Dr.や医療従事者が少なく、交通の便が悪いため、少しでも改善できるように行政だけではなく、天草全体で取り組むことが大切だと思います。

私は今回の実習で 2 日目のユニットケアに行き、患者 1 人 1 人に合わせたケアをされていたため、とても共感しました。

私自身天草に残って医療に携わりたいという思いがでてきて、将来的には、知識、技術を高めて天草の地域医療に貢献したいと思いました。

今回とてもいい経験が出来てよかったです。本当にありがとうございました。



Group 7

グループメンバー

井村 昭彦	熊本大学医学部医学科生	5年生
丸目 高大	熊本大学医学部医学科生	3年生
榎田 悠美	自治医科大学医学部医学科生	4年生
寺田 尚平	自治医科大学医学部医学科生	1年生
吉田 栞	天草市立本渡看護専門学校	1年生

1日目 フィールドワーク I

天草消防本部

2日目 フィールドワーク II

天草市病院事業部 立河浦病院 ケーナガーデン コレジオ館 崎津天主堂 崎津集落



1st day

グループワーク

河浦・崎津エリアは少子高齢化が進んでいる。医療施設に関しては地域平均に近い数はある。しかし、医師数を面積当たりで計算すると少ないということが事前の調べで分かった。医師の偏在があるのではないかな。その偏在の理由と対策についてフィールドワークを通して考えていきたい。



2nd day

フィールドワーク II

9:00	
9:30	9:30-10:30 河浦病院（病院事業部）にて説明
10:00	
10:30	10:35-11:10 コレジオ館見学
11:00	
11:30	11:20-12:00 ケーナガーデン（老健）見学
12:00	12:05-12:50 愛夢里にて昼食
12:30	
13:00	13:00-14:00 崎津天主堂、崎津集落見学
13:30	
14:00	
14:30	

3rd day 発表

初日フィールドワークⅠでは天草市保健所に訪れた。保健所から見た天草という地域は、高齢者が多く免疫力が低下した人が多いこと、昔炭鉱があり衛生環境が悪かったことから結核を患う人が多い状況である。結核の罹患率は、全国平均の14.4%のほぼ2倍となる28.3%に上る。

2日目のフィールドワークⅡでは河浦町に訪れた。河浦町の人口は5000人ほどで、65歳以上が45%を占める。また、単独世帯の割合が高い。

河浦病院では、病院の機能的に本来は最低でも6人の医師が必要だが、現状では4人しかおらず、その他の看護師や介護助手の人員も確保できていない。入院患者には社会的入院をしている高齢者も多い。何か不調があれば病院に頼るという意識の住民が多く、在宅医療や訪問看護はあまり活発ではない。そのため、医師の負担がより大きくなっている。

介護老人保健施設であるケーナガーデンは、入居者の9割が認知症を患っており、平均年齢も90歳と高く、平均介護度も3.3とやや高めである。地域への認知症に対する教育も行っており、BPSD（例えば徘徊など）が減ってきている。しかし、住環境や立地条件の悪さ、何より独居率が高いため、入居から自宅へ帰ることができるのは全体の5%ほどしかない。

これらのことから、独居の高齢者が多く、移動手段・アクセスが悪いため、検診が受けにくくなり結核の患者が多くなっているのではないかと考えられた。その解決策としては、行政とも協力して在宅医療の強化を図ること、介護職を派遣できるような団体を作ることや、若者を呼び込めるような第3次産業を盛り上げて雇用を増やしていくこと等が挙げられた。

天草市の医療問題とその解決策

7班

井村昭彦 榎田悠美 丸目高大 寺田尚平 吉田梨

天草市保健所

保健所の仕事
保健＝予防。対人保健と対物保健とに大別される。

・対人保健…感染、精神保健、
難病に対する保健など。

・対物保健…環境（水、大気、
食品、建物）に対する保健。



天草市保健所

天草の状況
①高齢者が多く一免疫力の低下
②昔炭鉱があった一衛生環境が悪かった



結核が多くなる要因

天草市保健所

結核罹患率と登録率（H27）

	患者数(人)	罹患率(%)	登録数(人)	登録率(%)
天草市	22	25.6	45	61.1
上天草市	9	33.0	16	54.4
帯広市	2	25.7	3	59.3
管内計	33	28.3	64	38.3
熊本県	262	15.8	643	34.6
全国	18280	14.4	44888	35.3

国民健康保険 天草市立河浦病院

病床数 99床（一般39床、療養60床）
診療科目 内科、外科、整形外科、小児科、消化器外科、循環器科、
リハビリテーション科
指定病院等 救急水産病院等
その他施設 運動機能訓練室等

【患者数】
1日平均入院患者数 77人（28年度）
1日平均外来患者数 125人（28年度）

【入院患者平均年齢】82.5歳

【職員】
常勤医師（院長含む） 4人（内科1人、外科3人）
看護士 5人（21名、コメディカル9名、看護助手22名、事務12名、その他13名）
※看護士等職員数のうち、○内はうち臨時職員及び委託職員数

救急200件/年
重篤1~2件/年（多発性外傷など処置が困難なもので、ドクターヘリで搬送）

【疾患】
入院患者：肺炎、術後、腰痛、その他（社会的入院：100歳以上）
外来患者：腰痛、肺炎、熱中症（夏）
【周辺医療機関】介護系→なくなる方向
特別養護老人ホーム→60床
老人介護保健施設
小規模多機能
病院指向の住民の方が多く、在宅医療はあまり活発に活動はしておらず、訪問看護も同様である。

H21 1921世帯
460世帯/独居
病院として必要とされる医師数
入院患者16人に医師1人
療養患者48人に医師1人

本来なら河浦病院には最低でも医師6人必要であり、現状としては4人であるため、医師不足は明らかである。
その他看護師、介護助手の人員も確保できていないのが現状

当直：8~10回/月（院長含め）

ケーナガーデン

・病床数…全50床（認知症専門→25床、一般→25床）
・入居者…平均年齢 90.33歳
平均介護度 3.3
・認知症の症状の方は50人中45人
・BPSDが少ない

ケーナガーデン

入所から自宅へ帰る事ができる方…全体の5%
→家の環境が劣悪 ex) 畳が腐れている
・立地条件が悪い ex) 救急車が来るまでに35分かかる

そして何より
・独居率が高い

ケーナガーデン

地域	高齢者独居率	地域	高齢者独居率
本渡	18.5%	新和	25.1%
牛深	29.5%	五和	26.3%
有明	25.2%	天草	31.2%
御所浦	26.6%	河浦	31.0%
倉岳	25.5%	天草市	23.9%
梧本	28.7%		

天草の健康問題

独居の高齢者の方が多い。

移動手段などアクセスが悪い。

検診が受けにくい。

結核の患者さんが多くなっていると考えられる。

解決策

☆在宅医療の強化。

☆介護・産業 を充実させる。

介護職を派遣できるような団体を作ることや、若者の受け皿になるような第三次産業を盛り上げていき、雇用の創出と介護問題の解決を図る。

ご清聴ありがとうございました！

Evaluation

スライド発表評価

1.資料（スライド）について

- 背景の施設のためスライドの文字が見づかった。
- 具体的なデータを示していたのは良かった。
- 背景に写真を用いる場合、文字が見づらくなってしまいますね。
- 見やすくまとめてあった
- 背景に透過性を高めた写真のスライドを使う等、工夫できていた。
- 情報が多いが見やすく、わかりやすい。
- 見やすい工夫がされていてよかった
- 動き、流れがあり工夫されていた。

- 文字数が多くて見にくいスライドがあった。画像を使用しているのは、良かったが背景にすると文字が見えにくいこともあるので次回に活かしてほしい。
- 工夫されてわかりやすかった。
- 背景があったのはよかったが、少しぼんやりしていたのが残念。
- 背景に病院（見学先）の写真を使うなど、工夫した良いスライドでした。
- まとまったスライドで見やすかったです。文字がもう少し大きいとよりよかったです。
- きれいにまとめられている。

2.発表について

- 分かりやすく、スムーズな発表であった。
- 聞き取りやすく、分かりやすかった。
- 単調だったので一工夫あると良かった。
- ボリュームが多かったですね。
- 詳しく調べていた分、話すポイント絞ると良い。聴衆の方を向いて、胸を張って話すと、より聞きやすい。
- もっと簡潔に伝えられたらと思う。
- 皆さんで発表されていてよかった
- 皆で程よく分担していた。説明もわかりやすかった。
- 考察もよかった！！
- 発表時間が長い。
- 声が大きくて良い。聞きやすいトーンで話ができている人がいて、よかった。スライドを見ながらではなく、前を向いて発表できるともっと良くなると思う。

3.内容について

- 天草の健康問題の考察から解決策（在宅医療の強化等）までしっかりと考えた内容だと感じた。
- プレゼンしないといけない内容なのか、どうかを考えることは大事だと思います。
- 一番発表したいことまで、ちょっと時間がかかりすぎましたね。
- データを用いてよくまとめてあった
- 産業について介入案が出たのは良かった
- 解決策をもう一歩踏み込んで具体的に考えられると、よりよいものになったのではないかと思います。
- データがあり分かりやすかった。解決策についてより踏み込むと良いと思います。
- 理解しやすい内容でした。
- 課題が整理されていた
- 実現は難しいと思いますがオリジナリティがあるのは良いと思います。
- 問題抽出や解決策がもう少しほしかった。
- ボリュームが多かったですね。
- 現状の理解はよくできていた。
- 1日目と2日目のフィールドワークをうまくリンクさせてまとめを行っていた。
- 問題点が整理され、背景まで良く調べられていた。
- 多くの施設を担当しており、内容が豊富。結核という特定の疾患をテーマにしてあり、話がスムーズに理解できた。
- それぞれの施設の状況を良くまとめていた。問題点を具体的なレベルで考えられ、しっかり調べていて素晴らしい

4.その他の点について

- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にします。
- 「天草市保健所」ではなく、正確には「（熊本県）天草保健所」です。
- 時間長い！結論がよく分からない。

（評価者16名、1人につき
100点にて評価）

※評価には以下の点を反映しています。

- ・資料（スライド）・発表（プレゼンテーション）
- ・内容（コンテンツ）・熱意やモチベーションなど。

総合評価
1276点

Report

学生レポート

熊本大学医学部医学科 5年 井村 昭彦

□ 当初の実習目標

私は5年生になってから、熊本県内の基幹病院へ病院見学に何箇所か行っていました。県医師奨学金貸与生が研修を受けることが出来る病院の中で、将来自分が研修を受ける可能性がある所は5年生のうちに1度は見ておきたいと思っているためです。そして今回は天草地域医療センターでの実習であったため、この施設を見ておきたいという思いから、まず、実習の内容を知る前から参加することを決めました。実習に参加するに際して、地域ゼミや事前課題などにより、天草の地域性、人口動/静態、医療施設や医療スタッフ数などを知ることができました。このことが、天草で勤務する上で大切になることはこの時点ではあまり意識していませんでした。とりあえず、この実習が始まる前の目標は、天草地域医療センターについて知る事、天草で仕事をする事になった場合、どのようなことに気をかける必要があるかを知ることができれば、という事でした。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

今回の実習では、今まで行ったことがある実習（ESE、玉名や水俣、森都心病院での実習、ポリクリなど）では行ったことがない、保健所や老健施設へ行きました。また、天草の歴史に関わるような、建造物を見学しました。天草では歴史に宗教や異文化交流が大きく関わっていることが、知識としては知っていましたが、このことを意識させられました。本土での生活しか無かった私にとって、宗

教＝仏教＝無宗教、であり、自分にとって意味のあるものではなく、冠婚葬祭にしか関わりのないものでしたが、宗教を軽く扱うことだけはあってはならないことを意識できました。

事前課題はしっかりこなして実習に臨んだつもりでしたが、保健所・行政の仕事などの枠組みを理解していなかったため、保健所や河浦病院で質問する際に、何がこの施設の守備範囲であるのか分からなくなってしまった事が残念でした。国試の公衆衛生等でも問われる内容も多いため、これからしっかり勉強しておきたいと思います。

発表の際に、パワーポイント作成への着手が遅れてしまい、作成を分断してしまったため、内容の一貫性が無く、また、他の班員が作った内容を詳しく確認していませんでした。そのため、まとめや考察が薄く、時間配分が非常にまずいものになってしまいました。パワーポイントの作成が終わっていないのに飲みすぎたことも問題でした。

□ この実習の全体的な感想

今後社会に出た後には、今回のように色々な学年、職種の方と協力して仕事をしていくことになるので、今回の実習は学校内で体験できないようなものであったため、勉強になりました。天草へのアクセスの悪さを知ることができたのも良かったです。研修先として、また、将来勤務する可能性も十分にあるので、天草について知ることができたのは非常に良かったと思います。

□ これらを基に、地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

地域医療を実践することについて、今まではあまり考えたことがありませんでしたが、このことを少し考える事ができました。地域の特徴を知り、人を知り、文化を知ることにより、ただ目の前の疾患を治すことにとどまらず、地域を診る事が出来るようになればと思います。



熊本大学医学部医学科 3年 丸目 高大

□ 実習目標

- 天草の文化、地域を理解する
- 天草の地域医療の問題点を理解
- コメディカルの方の仕事の理解

□ この実習でできたこと、できなかったこと

➤ できたこと

方向性を一貫してスライドをまとめること、自分なりの地域診断

➤ できなかったこと

見学した所の情報をもう少し整理したかった

□ この実習の全体的な感想

地域医療において重要なことは、医師だけではカバーできないことを多職種連携により解決していき全体で治療することであるとよく言われます。今回の実習は、この多職種連携について考えさせ

られた実習だったと感じます。

一日目の実習で保健所に立ち寄ったとき、保健所の方にとある仕事の内容を聞くと、「それは市役所の仕事です」と言われました。仕事が細分化されていることはいたって当たり前のことなのですが、私は他の職種の仕事の状況を理解しておく、なお、連携が取りやすいのではないかと思います。個人的な意見ですが、専門的な仕事それぞれの職で増えていくと自分以外の職の仕事内容、抱えている問題を自分が気づかないだけで、予想外に大変だということがおこると思います。理解があると、仕事の状況に対すると問題点が共有でき、違う視点から解決策が見つかるかもしれません。そうすれば全体的な医療の向上が見込めるのではないのでしょうか。

また多職種だけでなく地域という大きなくくりの中で連携しようとするならば、他の職を理解しようとするのと同じように地域を理解しようとする姿勢が必要だと思います。地域の状況に関してまだまだ何も調べないままであれば把握できないことがあります。今回の天草では患者さんとして長崎から渡ってこられた被爆者の方がいらっしゃるなど全く知りませんでした。そういう地域の状況はただ外から眺めているだけではわからず、実際に行ってみて、地域の住民の方の話を聞くことで初めて理解できることです。以上のことから地域に携わる医師は慢心せず、常に地域と接する姿勢を怠らないことが要求されると考えます。

□ 求められる医療人の理想像

「地域を理解しようとする姿勢を持ち続けることができる人」だと思います。



自治医科大学医学部 4年 榎田 悠美

□ 実習当初の目標

- 天草の地域性や医療、介護の状況を知る
- 天草の医療と介護の連帯を知る
- 天草の健康問題について知る

上記の 3 つの目標を立てて、今回の実習に参加しました。

□ この実習でできたこと、できなかったこと

事前課題で天草の基本統計を調べたり、グループワークでの情報の共有をしたりすることで、天草の地域性や医療、介護の状況は把握できた上で実習に臨むことができました。地域性については、天草の歴史を学ぶことのできるコレジオ館、崎津天主堂、崎津集落にも行かせていただいて、天草の歴史を学ぶことができました。また医療については、熊本県は一般病院数、一般診療所数共については全国平均を上回っていましたが、市によって、病院数や診療所数に偏在があることが分かりました。

2 つ目の目標について、天草の医療と介護の連帯を知るということで、私は河浦地区に行かせていただきましたが、老健であるケーナガーデンは専属の医師が存在し、また、近くに河浦病院があるので、老健と病院の連帯はしっかりと取れていると感じました。

3 つ目の目標である天草の健康問題については、天草では結核の患者数が多いことに注目して、考察しました。河浦病院では、独居の割合が河浦の総世帯数の約 24%と高く、独居の方が多くいらっしゃるため、交通手段がないことと相まって結核患者が多いと予想しました。結核患者が多いのは天草市全体であるため、このような地域が多いということが言えると思います。

できなかったことは、前述の改善策として、訪問診療の強化と、その訪問診療に携わってくださるスタッフの方が、若い人材が集まるような企業を立ち上げるということを考えていたのですが、実際に、在宅医療を希望される方が多いと言ってしまえば疑問が残りますし、実際は病院志向の方が多いということもあるので、改善策としては課題が残る結果となったと思っています。

□ この実習の全体的な感想

今回の実習は、病院や診療所での実習がなく、フィールドワークやグループごとの天草市内 7 地域での医療機関、福祉施設等の実習の調査実習が主でした。天草市の健康問題についての発表に向けて、四苦八苦しながらの実習でしたが、自分の考えや感情を自分の言葉で伝えることの難しさや、大切さを学ぶことができたので、とても有意義な実習になりました。

私は、今までは言葉にすることを怠っていたので、今後医師として働く上で大切なコミュニケーションについても学べたと思います。

□ これらをもとに、地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

地域において求められる医師像としては、まず地域のことを知り、それに合わせた診察を行い、外部講師の先生がおっしゃっていたように、患者を病名として診るのではなく、患者の背景、つまり家族や近所の方、いらっしゃるならホームヘルパーの方、訪問看護の方、ケアマネージャーの方などの患者に関わる全ての方を含めた医療を展開できる医師だと思います。



自治医科大学医学部 1年 寺田 尚平

私が今回の実習に臨むにあたって最も意識したことは、医療現場を単体で見のではなく、天草という地域ぐるみで天草の医療を捉えるということだった。地域医療について考えるとき、これまでの私はどうしても実際の医療行為や、患者さんの入院する病院だけで見ってしまうという視野の狭さがあった。しかし、実際の地域医療というのは病院だけで成り立っているわけではなかった。病気の予防から退院した後の生活にまで地域の様々な機関が関

わりあうことで一つの地域の医療は構成されている。このように医療現場に限られない地域医療の捉え方ができるようになることを目標としていた。

私がこの3日間で学んだことを一言で表すならば、地域医療は病院だけでなく行政や地域住民までも含むとても幅広いものであるということだ。一見地域医療とは関係の無いように見えてしまうことでも、全体を構成する非常に重要な歯車であり、欠かすことのできないものであると思うことが多々あった。その一つとして、保健所が行う保健予防があった。医療となると病気やけがをした後の治療について考えることが多いが、実態はそれだけではない。保健所は病気にならない健康づくりの普及啓発を行ったり、関係団体への支援をしたりするなど、病院だけではカバーできない分野で役割を持っていた。そして、特に私の印象に残ったことは地域住民の重要性だ。病院を出た高齢者の方がすぐには日常生活に復帰できないというときに老健施設に入ることがある。訪問させていた施設にも50の方が入所しており、その平均年齢は90.3歳と高齢化が近年で進んでいる。入所者方の中には程度はさまざまであるが認知症を患っている人が多い。そんな中、職員の方のお話の中に、最近では近所の住民の認知症に対する理解が施設の運営にとっても助かっているということがあった。住民が認知症に関して勉強をして地域ぐるみで正しい対応ができるようになったそう。これはどんな文献を調べても気づくことのできないことだと思う。長い間地域に根ざしてきたからこそ感じるこのことのできる変化であろう。このように地域の人が担う重要性にも気づかされた。

また、河浦病院では医療従事者の厳しい勤務の実態が分かった。医師や看護師の募集を行っても応募がなく、増え続ける高齢者の医療を支えることが困難になってきていることが院長をはじめ現場のスタッフの言葉から伝わってきた。医療に携わる人々の年齢層も同じく高齢化してきていることも大きな問題である。

もう少し調べたかったこととして、地域医療に携わる人々はどうのような医師を求めているのかということがある。そのようなニーズを直接聞いてみることで、これから地域医療の現場で働くことになる私たちが学生の間にどのようなことを学べべきか、できるようになるべきかが見つかり今後の指針となったのではないと思う。

最初に今回の実習のスケジュールを見たときに、これは本当に天草の地域医療を知ることにつながるのだろうかと思直疑問に思うことがあった。この3日間でキリシタン館や崎津集落の見学、ハイヤ踊りの体験など様々な体験をすることができた。それらは地域医療とは直接関係が無さそうだがそれ以上に大事な役割があると思った。統計的な数字からだけではなく、地域や文化、歴史から天草を知ることによって将来本当に地域に根ざした医療を行うことができるだろう。数字や病院だけを見て地域を知ることができると思っていた視野の狭い自分の考えが大きく変わった。

今回のような幅の広い範囲での実習は情報量もとても多く大変な面もあったが貴重な体験となった。天草のことやそこに住む人々の天草への思いを感じつつ地域医療について勉強ができたことは自分の財産となった。

これから地域で求められる医師となるために何が必要かを自分なりに考えてみたところ、まず求められるのは地域を含めて医療を知ることだと思った。どの病院に何人の医師がいてどれくらい不足しているのか。そういったデータだけでは知ることのできない地域の特性というものがあり、それがどれだけ重要なのかを忘れないでいたい。こればかりは実際にその地域に出向いて歴史や文化を体験する、住んでみるなどして体で感じることも無しには不可能だと思う。いつでもこのようにすることができるとは限らないが、知ろうとする気持ちだけはいつも心に留めておきたい。



天草市立本渡看護専門学校 1年 吉田 栞

現在の天草地域の総人口は117,484人、うち高齢者人口は43,843人(37.3%)、今回担当した河浦地区では、44.85%と天草市内の中でも高齢化率が非常に高い地域であった。

河浦地区で見学させていただいたケーナ・ガーデン(介護老人保健施設)は、平成13年に設立され、50床あるうち25床は一般病床、25床は認知症病床とされているが、現在の入居者には50人中45人が認知症の症状がある。開設当初は、認知症に対して職員の不慣れや地域住民の認知症に対する理解不足などで、施設外への徘徊や暴力などの周辺症状の

出現が多かったそうだが、現在は精神科の医師からの適切な処方、職員の慣れ、行政が地域住民に対して認知症についてのセミナーを行うことなどによって理解が深まり、BPSD が以前より軽減した傾向にあるという話が印象的であった。

各グループの発表を聴取して、各地域の特徴があり、その地域にあった医療を展開していることが必要であると感じた。今回の実習で、熊大・自治医科大学の学生と天草市の実状について客観的にみることができ、高齢化や高齢者の単独世帯の増加、アクセス不便さなど多くの問題をもう 1 度見つめなおすことができた。

問題点についての解決策は一概にいえるものではなく、難しいものであったが、グループで協力し合い将来医療人として働く学生同士での意見を交換し合えたことは、非常に有意義な体験ができたと思う。

今回の実習で学んだこと、考えさせられた課題はこれから自分なりに考え、地域医療に貢献できる看護師になりたいと感じた。

3 日間ありがとうございました。



Group 8

グループメンバー

中田 浩介	熊本大学医学部医学科生	5年生
白奥 光一	熊本大学医学部医学科生	2年生
天野 ゆり	熊本大学医学部医学科生	1年生
浦川 朋也	自治医科大学医学部医学科生	3年生
丸林 美和子	天草市立本渡看護専門学校	1年生

1日目 フィールドワーク I

社会福祉協議会本渡支所

2日目 フィールドワーク II

御所浦支所 天草市立御所浦診療所 御所浦苑 白亜紀資料館



1st day

グループワーク

天草は、御所浦も含めて全体的に高齢者の増加や生産人口減少が進んでいる。人口の減少を食い止めるためには、天草に残ってもらえるような政策や対応をすればよいのではないかな。

事前の調べでは、御所浦の医療供給は恵まれている。しかし、介護の資源に関しては足りていないのではないだろうか？



2nd day

フィールドワーク II

- 9 : 00
- 9 : 30
- 9 : 45-10 : 00 御所浦支所で説明
- 10 : 00
- 10 : 15-11 : 00 御所浦苑（特養）見学
- 10 : 30
- 11 : 00
- 11 : 10-11 : 45 白亜紀資料館見学
- 11 : 30
- 12 : 00
- 12 : 30
- 12 : 30-12 : 45 しおさい館にて休憩
- 13 : 00
- 13 : 00-13 : 15 御所浦診療所見学
- 13 : 30
- 13 : 30-14 : 00 御所浦北診療所見学
- 14 : 00
- 14 : 30

3rd day 発表

御所浦町は大小18の島からなる熊本県唯一の離島の町である。人口は3000人ほどで65歳以上の割合は46.9%、保育園は2か所、小・中学校は1か所、診療所は2か所ある。少子高齢化が進み、島内のアクセスの悪さの問題もあり、天草本島への若者の人口の流出が続いている。認知症の患者が天草内と比較しても割合が高く、また、水俣にも面しているため、水俣病の患者も多い。

これらのことから、御所浦で進行する高齢化と認知症患者に対するアプローチについて考えることとした。

現状のアプローチとしては、①見守り活動、②命のバトンの普及、③緊急通報システムの利用、④横のつながりの強化などが挙げられた。見守り活動については、横のつながりの強化も合わせ、近所の高齢者の見守りを行うだけでなく、家族のつながりも強めることにもつながっている。命のボタンには、住民の氏名や年齢、家族の連絡先、内服薬などといった、緊急時に必要な情報を記載している。昨年度は8回利用された。緊急通報システムは、専用の機械を貸し出しており、急病だけでなく災害などの際にいち早く通報を行うことができる。

解決のアプローチとして、「観光資源を利用して若者を呼び込み、高齢者と一緒に活動を行う」というものを提案する。例えば、御所浦は化石が有名なのだが、天草の小・中学生が課外授業で御所浦を訪れて、化石の発掘やクリーニングを行っている。化石のクリーニングは指先を動かす作業なので、認知症の予防にもなると考えられ、また、交流することで御所浦の良さを広めることができるのではないかとと思われる。

天草地区での実習を通して



8班：中田 浩介
白奥 光一
天野 ゆり
浦川 朋也
丸林 美和子

御所浦



島の地図



救急艇

天草市と御所浦の町の声

- ・少子高齢化
→ 高齢化率：天草 37.5%、御所浦 46.9%
- ・天草内でも本渡への人口の移動
- ・中心部に病院が集中
- ・御所浦では認知症患者が多い
- ・水俣病患者も多い
- ・介護施設での待機者の増加
- ・産婦人科・助産師の不足（出生数：3.49人/year）
- ・足腰が悪い、生活習慣病
- ・アクセスの悪さ（島の外周にしか道路がない）

御所浦で進行する
高齢化と認知症患者に対するアプローチ

社会福祉協議会本渡支所の見学を通して

- ・見守り活動
- ・命のボタン
- ・緊急通報システム
- ・横のつながり



命のボタン

解決案

認知症の予防



若い世代の呼び込み



島の産業の発展



謝辞

今回の実習でお世話になりました
先生方、役場の皆さん、スタッフの方々に、
この場をお借りしてお礼申し上げます。

Evaluation

スライド発表評価

1.資料（スライド）について

- 見やすくまとまっていた。分かりやすかった。
- 情報を出す時には列挙するのではなく、ある程度まとめて並べた方が良いと思います。
- 写真などがあるのは見やすくていい。
- 枚数が少なかった
- よくまとまっていました。
- 写真を多く入れていて、見やすかった。
- 時間内に終わるようポイントを抽出して説明できるともっと良いです。
- 図と字の使い方がよかったです。
- 全体的に見やすかったです。最後の提言など、伝えたいこと（メッセージ）を文字にしてのせた方が伝わるかも。

2.発表について

- 適度な発表であった。
- スライドに解決策をもっと具体的に提示できるといいなと思いました。
- 口頭だと頭に残りにくい。
- 聞き取りやすく、分かりやすかった。
- 発表が長かった。
- 皆さんで発表する＋1年生のフレッシュな感想というのはいいですね。
- 質疑の受け答えができていて良かった。
- 地域の実情を良く調べてあった。
- 情報量が適切で良かった。
- ほとんどの人は前を向いて、聞きやすいトーンで話せていてすばらしい。一部メモを見すぎずに話せる、もっとよかったと思います。
- 前を向いて話せるといいですね。話す内容もざっくりでいいので憶えておくとbetter
- やや準備不足であったような印象
- 少し原稿を見すぎ。顔が下を向いていた。

3.内容について

- 認知症の予防、若い世代の呼び込みに対する対策等、新たな案もあり、参考になった。
- 命のバトン
- 良い体験ができた様子が伝わった。
- 考えをよくまとめてあり、地域の特徴もよく捉えていた。
- 地域資源から、生産人口を増やす、認知度を予防するなどの解決策はおもしろいと思った。
- もういくつか解決策があってもよかったのかなと思います。
- 天草の小学校との提携はいい案かもしれないと思います。
- ユニークな提案だった。
- もう少しスムーズにいけば良かった！
- 解決策について、もっと踏み込んだ内容だとさらに良いです。
- インタビューを通して、問題点を自分達で抽出できている点が素晴らしい。解決案を自分たちの意見で考えられて良かった。
- 地域特有の問題に着目したところがよかったと思います。
- 地域の方から実際に話を聞けたのは良かった。
- 現状把握はできていた
- 解決策には、少し具体性に欠けていた。
- 認知症という疾患にしばった内容で良かった。疾患を絡めた解決策もユニークで良かった。

4.その他の点について

- 産業など、今ある資源を活用。
- 短時間での取りまとめ、お疲れさまでした。今後の参考にさせていただきます。
- 解決策は良いと思うが、さらにもう一步進んで具体的な案があると良かった。
- 対策に住民の特徴や分析があると良かったのではないかな。
- 1年生から感想を述べてもらうのはとてもよかった。全ての班で行っても良いのでは？

石 評価
1259 点

(評価者16名、1人につき100点にて評価)
※評価には以下の点を反映しています。

- ・ 資料 (スライド)
- ・ 発表 (プレゼンテーション)
- ・ 内容 (コンテンツ)
- ・ 熱意やモチベーションなど。

Report

学生レポート

熊本大学医学部医学科 5年 中田 浩介

私たちのグループは、社会福祉協議会本渡支社と御所浦で実習を行いました。

今回の実習では、地域住民の健康を守るために様々な政策が行われている事、僻地と呼ばれる地域の実状を学びました。地域の病院を訪ね、地域医療の現状を医療者の視点から学ぶ機会は、これまでも幾度か有りましたが、公的な機関からの視点で地域を眺めるのは初めての事でした。

また、公衆衛生などの講義で、各部署がどのような取り組みを行なっているか学ぶ機会は有りましたが、正直なところ、どのような事が行われているのか理解していませんでした。

しかしながら、今回、社会福祉協議会を訪ねて取り組みについてのお話を伺い、その役割が見えてきました。具体的な取り組みとしては、地域の見守り活動、命のバトンなどを実施されているとの事でした。社会福祉協議会では、医療機関が介入しにくい所への政策が行われており、地域住民を巻き込んだ、地域が一体となった政策が行われている事が印象的でした。

病院などの医療機関からの呼びかけでは難しい事を実践されており、そこへまだまだ医療者も入り込む余地があるのではと思いました。

また、御所浦へも伺ったのですが、私自身、僻地と呼ばれる地域へ行くのは初めての事で、先入観から働く事はまずないだろうというのが本音だったのですが、実際に行って町の様子を見たり、住民の皆さんとお話しているうちに、この地域で一度

働いてみるのもありだなという思いがわきました。

地域(僻地)医療の問題として医師不足というのはよく挙げられ、御所浦も例外ではありませんが、今回訪れて医療における問題として感じたのは救急時の搬送の問題でした。

御所浦には救急艇があるそうですが、近くの病院まで搬送するのに40分ほどかかるそうです。

また、集落がいくつかに点在しているために搬送の時間が更にかかるといった問題をはらんでおり、再還流療法やt-PAの適応など時間との勝負になる疾患への懸念を感じました。

そういった疾患の発症のリスクがある患者に関しては、発症前に予防的措置として中核病院へ搬送しておくといった話もお伺いし、地域医療に従事する医師だけでなく、都市部の医師もこのような地域医療の現状について理解し協力体制を作る必要性があると知りました。

今回の実習では、医療従事者同士の連携はもちろんのこと、役場の職員との連携も大事だと気付かされました。

そして、この協力体制を確固としたものにするためには、天草地域医療センターの原田和則院長が仰っていた、情報共有・コミュニケーション能力といったことが地域医療に従事する者に求められるのだと改めて実感しました。様々な事に気付かされる実りある実習となりました。

この実習でお世話になりました先生方、職員の皆様に、この場を借りまして御礼申し上げます。



熊本大学医学部医学科 2年 白奥 光一

□ 当初の実習目標

事前課題をもとに天草周辺地域の医療について学び、その他の地域と比較し、データ上の天草地域の医療について学ぶとともに、実際に現地におもむき、現地の医療の現状を学ぶ。また、自分の訪れた地域だけでなく、天草地域全体の医療の問題や他のグループの発表を聞き、自分の訪れた地域以外についても考える。

□ この実習で、できたこと、できなかったこと

➤ できたこと

事前学習だけでは分らない問題に気づくことができた。また、地域医療がどのようなものであるのかを肌で感じることができ、学ぶことができた。

➤ できなかったこと

自分で積極的に動いて活動をするのがあまりできなかった。また、グループ以外の人達や引率された先生方とあまり交流できなかった。

□ この実習の全体的な感想

今回の実習を通して、地域医療に関して改めて知ることができました。今までは地域医療と言えば、医師や看護師のことばかり考えていましたが、社会福祉協議会と御所浦を訪れ、医師が様々な施設と連携をとり、地域医療を支えていることを知ることができました。また、地域によっても差があ

り、病気に関してだけでなく、地域住民の方々の医療に対する関心なども異なることに気づくことができました。事前学習で天草の医療に関するデータからは分らなかった発見もあり、データ上から考えられると予想した問題と現地の方々から聞いた問題が異なることが多くありました。今回はフィールドワークという形で、地域医療に携わる人の働きを身近に感じる事ができました。

□ 地域において求められる医療人の理想像

地域の医療を支える上で、より快適にできるように様々な人達と協力して、現状や今後を改善できるように連携できる力が大事だと感じました。



熊本大学医学部医学科 1年 天野 ゆり

□ 当初の実習目標

フィールドワークやグループ学習を通して、天草市全体・御所浦地区の地域医療の現状を知る。

□ この実習で、出来たこと、出来なかったこと

御所浦北診療所での住民の方へのインタビューを積極的に行い、最終日のグループ発表ではまとめて自分の感想をしっかりと伝えることができた。一方で、フィールドワークを行う上で、疑問に思うことがまとまっておらず質問することができなかった。

□ この実習の全体的な感想

今回私が所属するグループは、フィールドワークで天草市の社会福祉協議会（社協）と御所浦の医療施設を訪問した。それまで私は社協のことを知らなかったのだが、地域医療に欠かせない存在であり住み慣れた地域で住民が安心して暮らせるように、高齢者の見守り活動や生活の支援等を行っていることを学んだ。御所浦地区は天草市全体と比較しても高齢化が深刻であり、急患の場合は急患艇で本渡の病院まで搬送するのに時間がかかる、常勤の医師がいない、交通アクセスが悪い、働き手が戻らないといった現状がみられた。

実際に御所浦地域の実情を自分で見聞きして、地域医療にはその地域の地形や住民構成、産業等の現状や課題を学びどう改善していくか考えることが重要だと感じる事ができた。

□ 地域において求められる医療人の理想像

2泊3日間の実習で学んだことをまとめると、地域医療は医師だけでまわせるものではなく、看護師・保健衛生士・社協・社会福祉施設職員などが相互に連携し、役割を分担し、情報を共有して行う医療であるということだ。その中で、医師は各々の専門性を理解した上で司令塔の役目を担い、奉仕の精神で患者と接するべきだと考える。私も将来的に地域医療に従事する身として、医学・医療知識だけでなくコミュニケーション能力や忍耐力を培っていきたい。



自治医科大学医学部 3年 浦川 朋也

□ 当初の実習目標

天草地域の医療の現状、特徴を、フィールドワークを通して学ぶ。

□ この実習で、できたこと、できなかったこと

事前学習や実習で、天草地域の医療を支える様々な職種の方々にお話を聞くことを通して、地域診断の方法を実際に体験しながら学ぶことができた。それと同時に、講師の先生方の公演で地域診断の意義を学ぶことができた。

□ この実習の全体的な感想

私は今まで地域医療の「地域」を日本全国共通の「地域」として捉えていた。しかし、実際は、地域によって産業、人口構成、行政のバックアップ体制、交通によって疾患の頻度や展開できる医療も異なるということを学ぶことができた。もちろん、私がフィールドワークを行なった御所浦地域では少子高齢化の影響を色濃く受けており、認知症、高血圧、腰痛などの疾患が多かった。しかし、一方で地理的關係から水俣病患者が多く、機能訓練のリハビリテーションが役所で行われていた。このように高齢化により増加する疾患の治療も大切だが、高齢化という交絡因子をのぞいた時に見えてくる地域の疾病発生の特徴を探ることも大切だと思った。

□ これらをもとに、地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

少子高齢化の進んだ天草市では地域全体をあげて、医療や介護問題に取り組んでいた。例えば、電力会社やガス会社が見守り事業に協力したり、高齢者もボランティアとして簡単な介護に参加していた。医療人は、限られた資源の中で健康な暮らしを守るために、様々な人に協力を求め、時に指導し、

地域の健康を守るリーダー的存在にならないと考える。



天草市立本渡看護専門学校 1年 丸林 美和子

今回、夏季地域医療実習へ参加させて頂きありがとうございました。

当日、会場に入ると紹介、グループに入り自己紹介、するとグループワークが始まり緊張の中、半日があっという間に過ぎました。フィールドワーク1では社会福祉協議会へ伺いました。天草にいながら社協の内容を学ぶことが出来ました。

3日目のグループ発表では講評にて1位グループ発表では解決策が具体的だったということでした。私達のグループの解決策は他に何があったらうかと考えました。

私達は2日目、御所浦地区へ行きました。御所浦地区は中学校を卒業すると島外の高校へ行くしかなく、15歳以上は必然的に減少となります。以前、橋が架かる計画であったが漁師さんの反対があり交通手段としては定期船や海上タクシーを利用するしかありません。しかし、その海上タクシーも40隻から現在20隻程に減っていると伺いました。海上タクシーを職業としている方も高齢化していき海上タクシーも減少していくと考えられます。そして、老人ホームでの話では職員も年齢が高齢化

しつつ島内に若い働き手がいらないということでした。高校進学のため、島を離れることは仕方のないことです。島内の人口は減少するばかりです。天草全体の生産年齢人口も減少していますが、橋が架かることで行き来しやすくなり働き手として御所浦島へ通うことも可能となります。海上タクシーを収入源とされている方は橋が架かることで収入が減ってしまうので橋を有料化し、海上タクシーを収入源としている方を優先的に雇用するというのは、どうだろうかと考えました。

御所浦は「恐竜の島」をアピールされていて白亜紀資料館があり、昼食には魚のあらだきをとても美味しく頂きました。観光客を呼び込むことも出来ると思います。まずは、老人ホームでの人材確保のためにはという視点で現実的には難しいが「橋を架けること」を一つの解決策と自分なりに考えました。

こんな風に天草の医療、介護のために考えることが出来たのも、今回の研修に参加することが出来たからです。そして天草の地域性もグループの発表で学ぶことができ、医師を目指される方や先生方との交流も貴重な経験でした。学校の勉強も頑張りたいと思いました。一緒に参加させて頂く機会を下さって本当にありがとうございました。



熊本大学医学部医学科 1年 松岡 直樹

□ 当初の実習目標

西医体と日程が被るため途中参加となり、フィールドワークには参加できないが、将来共に地域医療に従事する仲間と親睦を深めるとともに、実際に地域医療に従事されている医療関係者の方々と話を伺う。

□ この実習で出来たこと、出来なかったこと

前述の通りフィールドワークに参加できなかったため、天草が抱える地域医療の問題や現状について知ることはあまりできなかった。

同じ部屋の先輩方や自治医科大学の学生と親睦を深められた。また、夕食の時に外部講師の松村先生から地域医療や開業など、多岐に渡って話を伺うことができ、実際の現場の医師の意見を知ることができた。

□ この実習の全体的な感想

私は17日の夜から参加したので、あまり時間がなく、全ての参加者と面識を持つことは叶わなかったのが残念だった。また地域医療が実際に行われている現場に赴いて学習をすることもできなかったのも、グループ学習も一人だけ不参加で大事な学びの場を失ってしまった。

しかし、最終日に各グループの発表を聞くことで、完全とまでは行かないにしても、天草の各地域におけることを学び天草の医療現場の一部分を理解でき、地域医療で必要とされる医師の素養について新たな発見ができたと思う。この実習で少しでも得るのがあったのでよかった。地域の特徴を知るための方法や観点などについて学べたので今後の糧にしていきたい。今年は途中参加となり、いまいちこの夏季実習を楽しみきれなかったのも、来年こそは初日から是非初日から参加したいと思った。

□ これらをもとに、地域において求められる医療人としての理想像について考えたこと

実習参加以前は、地域に求められる医療人は「高いコミュニケーション能力を有し、地域住民の疾患を治療することができる確かな腕前を持ち、地域のことに精通していることが必要」だと思っていた。しかし今回の研修を通して、前述の能力はもちろんのこと、地域に精通することについて一言に地域と括るのではなく、天草の各地域にそれぞれの住民と医療の関係や住民性の違いがあったように、「地域をより細分化して理解すること」が大切だと感じた。



8/16 タ食会



熊本県へき地医療医師の会の会長である、球磨郡公立多良木病院の脇田先生に夕食会の乾杯の音頭をとっていただきました。

途中、熊本県へき地医療医師の会に所属している、天草市立新和病院の遠竹先生、佐藤先生、古川先生、國友先生に学生達への言葉をいただきました。

また、今回実習初参加となる熊本大学医学部1年生の4名と自治医科大学医学部1年生の3名に自己紹介をしていただきました。



8/17 懇親会



天草市の中村市長と天草都市医師会の坂井会長に来賓挨拶をしていた、その後天草地域医療センターの原田病院長に乾杯の音頭をとっていただきました。

また、本実習にご参加くださった外部講師の鶴田先生、横山先生、大林先生、松村先生、中邑先生からご挨拶がありました。

さらに、今回の実習が最後の参加となる熊本大学医学部5年の代表松尾君と、自治医科大学医学部5年の代表宮野君から今までの実習の感想や後輩たちへの思いが語られました。

最後に、天草都市医師会立病院の植村総院長に閉会のあいさつをしていただき、懇親会を終えました。



8/17 天草ハイヤ

懇親会の余興として、学生全員で天草ハイヤを踊りました。生演奏と、天草市役所のハイヤチームの皆さんによる盛り上げによって楽しい一時となりました。



各グループの発表の様子



各グループでフィールドワークで学んだことや、今後をより良くするために考えたことをスライドにまとめ、発表しました。

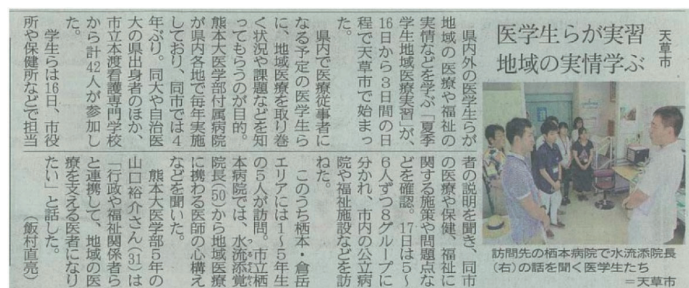
8/18 学生発表の講評

学生たちの発表の後、評価が最も高かったグループ3の学生に松井先生から賞品が渡され、その後、松井先生、天草市健康福祉政策課の赤崎課長、天草郡市医師会立病院の植村総院長よりご講評をいただきました。



新聞記事

平成29年8月18日の熊本日日新聞朝刊に実習の様子が掲載されました。

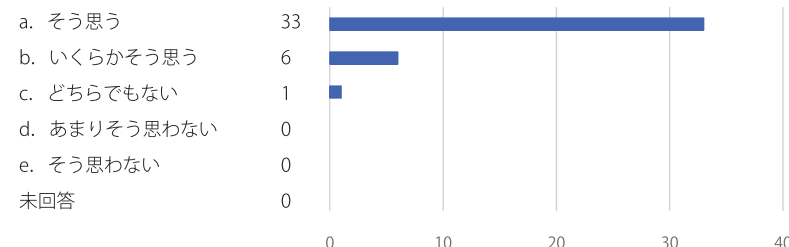


事後アンケートの結果

学生アンケート（回答数40）

- 40人中39人が参加してよかったと回答
- 良かった点としては、「統計データと実際の現況との違いまたは行政と現場の声にもギャップがあることを学んだ。」「より深く天草地域について知ることができた。」「臨床実習とは異なるため低学年も高学年も同様に取り組める実習でよかった。」などの回答があった。
- 改善点としては、ハードスケジュールであり、発表までの時間が足りない等の回答があった。

1. 全体を通しての総合評価になります。今回夏季実習に参加して良かったと思いますか？



2. 今回の夏季実習に参加して、これはよかった、学びになったと感じたことを記載してください。

- 実際に地域やへき地の現状を見られたのが良かったです。
- 実習を経験してこれまで抱いていたイメージと現況が思っていたほどでもなく、へき地でも働いてみたいという思いもわきました。
- 地域の文化学習
- 天草の地域の一つ一つに違った特徴があり、とても勉強になりました。
- 自分は途中参加のため不参加でしたが、フィールドワークと発表という一連の流れで局所的ではありますが、地域について詳しく学ぶことができるので大変学びになると思いました。
- 天草の医療でCTの膨大なデータをどこでも受け取れることは素晴らしいことだと思いました。DVD5枚分と聞いたときはそれを天草全体でネットを通じて情報を渡せるよう普及させたときのよう、他の地域でもできるのかも、とも考えました。
- 市役所も医師も考えることの根本は同じで、健康が大切であるということをはかりに市民に伝えるべきか考えていきたいと思います。
- 予習→フィールドワーク→まとめ→発表の一連の流れが良かった。
- 地域医療ではその地区の特色をうまく捉えることが大切だということが分かった。

- 病院と介護の連携が見られたところ
- 実情を見れたこと。
- 3日間の予定がスムーズに進められて良かったです。
- 天草市の各地域でグループごとに分担して地域診断をして、それを共有することで天草市についての知識、理解が深まり良かった。
- 天草に住んでいても天草の実情を実際に調べたり、地域住民の方との話や、地域の病院・施設に足を運んだりしたことで、その地域の特徴を見ることができた。
- これから更なる高齢化社会への対策を考える、いい機会になった。
- 今までの実習より地域について多くのことを知ることができた。特に統計的な面。
- 交流を深められた。
- フィールドワーク
- 自分たちで問題を考え、対策まで考えたこと。答えが無数にあり、どれも明確ではなかったが、普段そういう機会がないので、新鮮だった。
- 単に天草と言っても地域ごとに性格がかなり違って、そういう面は現地に行ってみないと分からないということ。
- フィールドワークで診療所の訪問、インタビューができたことです。
- 実際にどういう現状であるのか確認することができ、地域の声を聴くことで地域の問題を肌で感じることができた。
- 事前学習を行ったことで例年にないほど深く地域に密着した実習を行えたのではないかなと思う。
- 行政の方々や看護スタッフの方々や意見交換できたことも良い経験になった。
- データと現実の差異があることが印象深い。現地の人の声を聴くことが一番の情報源だと思う。
- 学校で行う実習では学べない、地域のことに目を向けることを中心とされていたので良かった。
- 広い天草という地域で、数グループに分けて発表して、より多くのことが分かった。
- また、普段自分達より地域医療について深く勉強している自治医生の学生の方と話してすげえなと思うと共に、自分たちも普段からもっと勉強しようと思うようになった。
- 本渡以外のところに行って現状を見たこと。
- 自分が住んでいる所ではないところに行ったので、天草の中でも少しずつ違いがあるのだと思った。
- 天草の医療について地域ごとに詳しく学ぶことができました。
- 病院だけでなく、施設にも行けてより知ることができたので良かったです。
- 実際に病院に行ったり、話を聞いてみたりしないと医師不足の現状をここまで実感することはなかったと思うので、現状を知ることができて良かったです。
- フィールドワークで多くの場所に伺ってお話を聞けたこと、様々な職業の方からのお話を聞けて良かったです。どの場所でも人員不足を実感できました。
- 天草の中でも各地区で特徴が異なり、医療の課題も異なることが分かった。
- 天草の自然や空気に触れることができ、また来たいと感じられたことが良かった。
- 今回が初めての参加なので、前年と比べてということはわからないのですが、今後より地域を感じられる実習が行われることを望みます。実際に医療機関を訪れることで、将来働くイメージも湧きまし、医師やスタッフの方々の心意気なども直に感じることができて本当に良かったと思います。
- 特に五和の紫明寮は経営システムや高齢者の方々への配慮から何から素晴らしい仕組みができているなと感じました。もっとお話を聞きたかったです。

- 実際に地域の方々にお話を聞けた。
- 様々な職種の方から聞き取りができたことで、福祉・医療の連携などの問題について、職種によってずいぶん意見が違ふと感じたことは今後働いていく上で参考になると思いました。
- 自分達で地域の健康問題について考えた上で病院以外の施設に行く機会は、今までの実習ではなかったことなので新鮮で良かった。
- 事前学習によりこれから行く地域の問題を考えることができ、それらを聞けたので良かった。
- 事前学習があったので、フィールドワークでより深く地域を知ることができた。
- 行政の方とお話ができたことは良かった。行政の方は地域についてよく知ってらっしゃるので理解を深めるには最適だと思った。
- 天草、特に新和エリアに実際に伺い、お話を聞かせてもらったりすることで、問題点や課題などが浮かび上がり、みんなで話し合うことで理解を深めることができた。
- 最後の発表まで、解決策に対する答えは見つからなかったが、他の班の話を聞くことで、同じように悩んだ経緯もうかがえて勉強になった。
- 行政だけでなく、現場の声を聴くことができ、この2つの間にギャップがあることを知ることができた。両方の意見を聞くことができたのはとても良かった。
- 包括的緩和ケアについて詳しく知れたこと。
- 初参加だったが、3日間充分に学び、楽しむことができた。
- 学校の授業で教わった地域医療の理論と実際の地域での実情やニーズとの違いについて気づき、考えることができた。
- そもそも天草についてよく知らなかったので、当地の歴史や文化にも触れることができ大変良かった。
- ハイヤ体験は特に楽しく、天草に来たという時間を強く得ることができた。
- 普段大学の実習ではほとんど考える機会のない、医療と福祉の連携をはじめとする地域包括ケアシステムについて考えることができたのがとても良かったと思います。また、観光の時間も多く、地域の魅力を知ることができたのも良かったです。
- 自分がいった地域の実情を肌で感じられたこと。実際に病院に行き医師不足は深刻だということが分かった。地域医療の医師が本当に必要だと分かった。
- 色々な人の話を聞けたこと

3. 今回の夏季実習で、ここは良くなかった、改善すべきだと感じたことを記載してください。

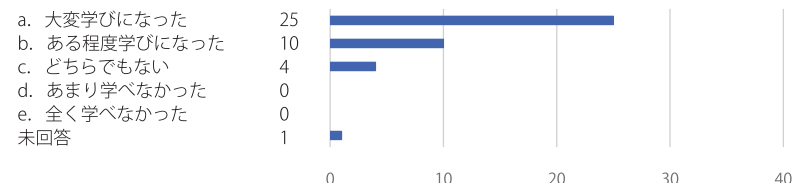
- スケジュールがタイトすぎる点を改善していただきたいです。移動時間が長いということもありますが、各施設の見学時間が短かったように感じました。(御所浦)
- また、スライド作成の時間を確保していただきたかったです。
- スライド制作の時間が短い
- タイムスケジュールに余裕がなく、十分に聞けなかった部分があった。
- 地域枠以外の学生や、メディカル系の学生で将来地域医療に従事したいと思っている人などでの参加を促したりするとより良い経験になると感じました。
- 事前課題のデータをまとめきれなかったです。

- PowerPoint作成の時間を十分確保してほしい。
- とても充実していました。
- ハードスケジュールの日(特に2日目)があった事
- PowerPointを作ったり練習をする時間がなかった。
- 詰め込みすぎ。
- スライドの作成時間がないのは毎度のことだが、今回は課題が多めなのにさらに時間がなかった。
- スケジュールがハードだった。発表の準備が特に厳しかった。
- スライド作り、実習のまとめの時間がなかった。
- タイムスケジュールがつつめ、とても疲労がたまりました。
- 最終日のスライド作りの時間や打ち合わせができる時間がもっとほしかったです。
- フィールドワークで見学する時間が短かった。
- 課題が内容的に深くなったのに対してグループでPowerPointをまとめるなど、まとめのディスカッションする時間が少なかった。
- 病院の滞在時間が短いこと。
- 低学年は今回のような実習で、高学年はやはり病院実習を行うのが良いと思う。
- スライドを作る時間を設けて欲しかった。
- 部屋がもう少し広いと良かった。
- グループ内ではコミュニケーションがとれたけど、他のグループの人とはなかなか取れませんでした。
- 2日目のフィールドワークでの病院滞在時間がもう少し長かったらよかったなと思いました。
- 1つ1つの場所での滞在時間を増やしていただきたいです。
- 1つ1つの実習先でもう少し時間がほしかったです。
- スケジュールに余裕がなかったです。
- 発表スライドをつくる時間が夜中しかないのは日程として不備です。班によっては2日目の夜お風呂も入れず、作成するという状況でした。結局夜に天草を感じることができず失敗だったと思います。
- タイムスケジュールで、各医療機関・行政機関を目まぐるしく移動することになってしまったのが少し心残りです。
- プライバシーの面もあると思うのですが医師やスタッフの方だけでなく、患者さんからの率直な意見もお伺いできたら良かったなと思いました。
- スケジュールがきつかったです。
- 発表の内容を深夜まで時間を使って作っている班もあったので、来年は改善されたいと思う。
- あと、栖本・倉岳まで行くのなら、有明もぜひフィールドワークの候補に入れていただきたかった。
- もっと余裕を持った日程を組んだ方が良いと思います。
- 内容が難しいのにスライドを作る時間が短すぎる。
- 少しスケジュールがきつかったのではないかと感じる場面があった。
- 2日目のスケジュールがハードで質問したかったことを全てお聞きできなかったのももう少し時間があると良かった。
- 事前課題は大変勉強になったと思いますが、個人的に少し難しい課題だったと思います。

- スライドを作る時間が確保されておらず、大変だった。
- 実習に日程がお盆明けすぐだと、実家が遠い人は大変なので、少しずらした方が良いと思う。
- フィールドワークでした内容を整理して熟成させる時間があれば良かった。(2～3時間)
- せっかく勉強したのにお酒が入った状態で、夜眠い時にスライドを作ってもまとまらないし、身にならないと思う。(発表時間も守られない状況だった。)

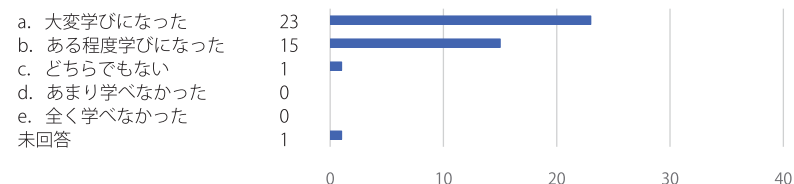
4. 各セッションについて

1) 地域診断グループワークショップについて



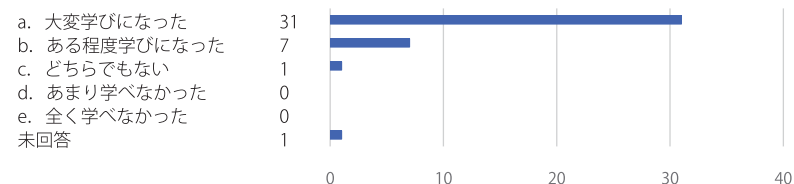
その他意見：データも検討する事だけでなく、様々なデータが公表されていると体感できたこと自体が大変な学びになった。

2) 外部講師セッションについて



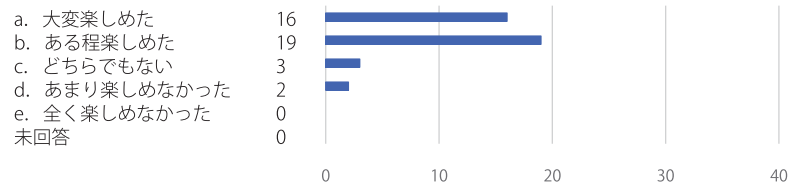
その他意見：お話は分かりやすく、『建前』だけでなく『本音』も考えるように促されていて、家庭医に興味を持っていることもありとても参考になった。

3) フィールドワークについて



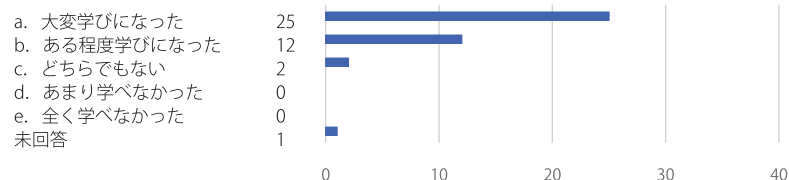
その他意見：現場（特に医療関係ではなく福祉と行政）でお話を伺う機会は貴重なので深く学ぼうと心掛けた。

4) レクリエーション（ハイヤ踊り）について



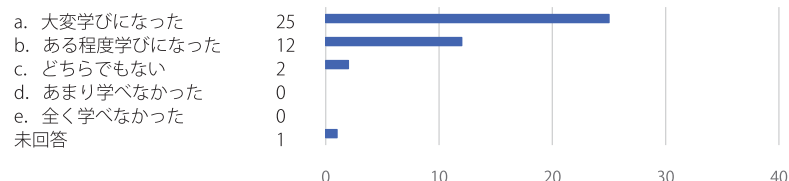
その他意見：天草に来たという実感が得られ、非常にエンジョイできた。次回以降も実習先の文化に触れられる機会をぜひ設けて欲しい。

5) 外部講師セッションについて



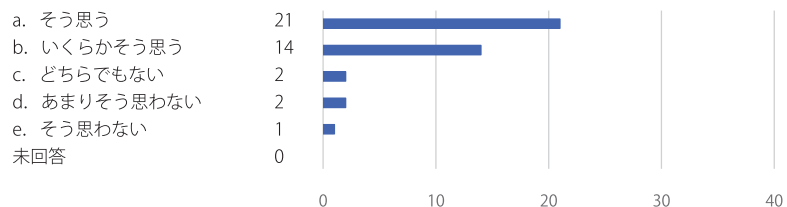
その他意見：考えや意見を整理することができたと同時に決してそれらは結論ではなく難しい課題だと再認識した。

6) 最終日の全体発表について



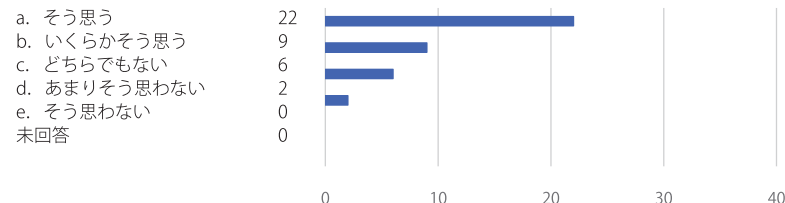
その他意見：地域ごとに共通の課題を抱えていたり、グループによって着眼点が様々であることが分かったり、深く考える機会となった。

5. 夏季実習の内容に積極的に参加できましたか？



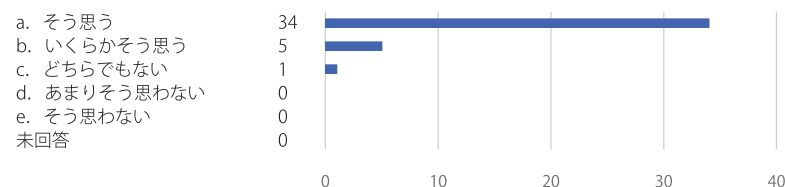
その他意見：初参加だったこともあるが、上級生に頼り切ってしまった。しかし、全員で協力して課題に取り組めたと思う。

6. 内容は、あなたの期待していたものでしたか？



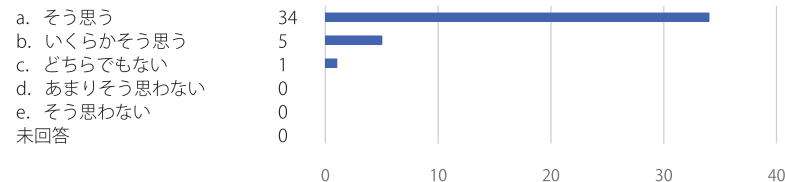
その他意見：初参加だったので、過去の催しは知らないが、事前に期待していたような催しだった。

7. 夏季実習における講師・司会・ファシリテーターの仕事は良かったですか？



その他意見：先生方、県や天草市、各施設職員の方々、特にフィールドワークでは香田先生、小山先生、保健所の稲田先生、支所の浦田さんには大変お世話になりました。

8. 今回の実習を通して、「地域を知る」ことができましたか？



その他意見：短い間だったが、何が求められ、何ができるか、正解は出ずとも真剣に考えることができた。

9. 最後に、その他コメントや全般的な感想などありましたら記載してください。

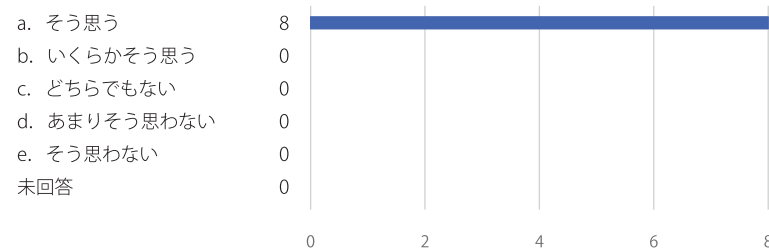
- 各班のリーダーと当日の予定などを個別に確認できていればもう少し動きやすかったかと思います。
- また、担当者の方との打ち合わせも事前にあると良かったのではないかと思います。
- 本当にありがとうございました。
- 途中からの参加で多少のアウェイ感があったが、懇親会やディスカッション等を通して同じような志を持つ人の自分と異なった意見が聞けて大変勉強になった。
- 参加させていただいて本当に良かったです。貴重な経験をありがとうございました。
- ありがとうございました。

- もう少しゆったりとした日程を組んでほしい。
- 今までの中で一番勉強になった気がする。
- 熊大、自治医大以外に天草の看護生など他大の学生を数人共に実習に参加させるのは良かったと思う。
- 3日間楽しく天草のことを勉強することができました。ありがとうございました。
- 5年生の先輩たちが頑張っていたので、来年から自分も先輩らしく頑張りたい。
- 医学部の中での看護学生で不安でしたが、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- とにかく全体発表に振り回されました。内容としては1日でどうにかなるものでもないし、かといってヘビーな日程で、懇親会もセーブしないといけないという、本末転倒です。マイナスイメージを持って帰ることになります。
- 地域医療改善のためのアイデアはぼんぼんと出てきますが、実際できるかどうかを考えるとだいぶ難しい問題だなと思いました。
- このような素晴らしい実習をご企画いただきありがとうございました。
- また、学生である今はゆっくり考える時間を持てますが、医師になってからは忙しくてできないのではないかという話はグループからも出ました。もっと医学生を使った対策などを考えてほしいし、自分達も協力していきたいと思います！！
- 素晴らしい実習の機会を設けてくださり、ありがとうございました。
- 素晴らしい実習を用意していただき、本当にありがとうございました。
- 内容が濃く、様々な人から話を聞く機会を設けるためには仕方ないと思うが、1つ1つの施設でもっとゆっくり質問などをしたかった。
- お世話になりました。ありがとうございました。
- 学生が学ぶこと、楽しむことを重視してくださっているのを感じる内容でした。
- 天草の医療について知ることはもちろんのこと、天草という場所の魅力を知ることができました。
- 楽しかったです。
- 非常に充実した3日間でした。日ごろあまり接する機会のない、低学年や他大学の学生を交流できたのも良かったです。
- 今までの実習は地域で働く医師の仕事を見学させていただくことが多かったのですが、臨床講義を受けていない低学年にとってはなかなか難しい内容ではないかと感じていました。今回の実習内容は、高学年も低学年も同じレベルでディスカッションできたことがとても良かったと思います。

外部講師・スタッフのアンケート（回答数8）

- 8人中8人が参加してよかった
- 良かった点としては、「地域の医療現場に触れることができた。」「地域におけるフィールドワークが多くあった。」「将来の地域医療従事に関してより身近に感じられる人が多かった。」などの回答があった。
- 改善点としては、事前連絡時期の改善や、実習のタイムテーブルの改善などの回答があった。

1. 全体を通しての総合評価になります。今回夏季実習に参加して良かったと思いますか？



2. 今回の夏季実習に参加して、これはよかった、学生の学びになっていると感じたことを記載してください。

- フィールドワークがいっぱい。
- 地域診断、フィールドワークを通して個人のnarrativeな問題と疫学的な広い問題に気付いていた。
- 病院・診療所以外にも協力いただき、医療職以外の方からの意見を伺えたこと。
- また、実習地域についての事前課題でどのような地域なのかを予め調べるようになっていた点。
- 地域資源、コミュニティに着目する機会になっているところが良かったと思います。
- すべて
- 実際に地域の医療現場に触れるのは非常に良いと思った。
- 地域医療を身近に感じられるようになった人が多かった。
- 医師、看護師以外の専門職の役割に気づいた人も多かった。

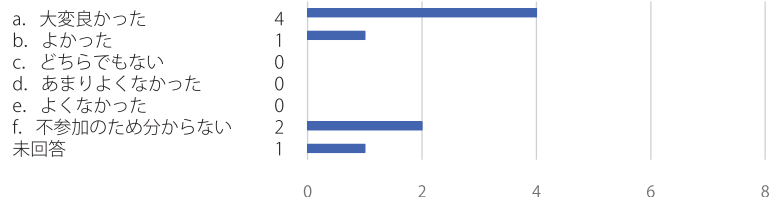
3. 今回の夏季実習で、ここは良くなかった、改善すべきだと感じたことを記載してください。

- 回る施設が多くて1つ1つの時間が短かった。
- 3日目はもう少しワークの時間を入れた方が眠くならないと思う。
- 発表に間に休憩をはさんだ方が良いと思う。

- グループワークで白衣を用意した方が良いと思います。
- 事前課題が学生さんにはやや難しかったのではないかと感じました。
- 教員、指導医の日程調整
- また、フィールドワーク施設についても知らない（ex:包括etc.）学生さんが多く、どのような仕事をするところか、どのような職種の方々がいるのかなど、分かりやすい説明資料の配布やこれを事前課題にするなど工夫が必要かと思います。
- もう少し病院を見学したかった！自治の医師が働いている姿を見たかった！などの意見が出ました。
- 学生の発表をまとめる時間が必要だと思った。
- タイムスケジュール通りにいかないことも問題。
- 場所によっては20～30分しか滞在時間がなく、十分な意見交換ができなかった。
- 低学年と高学年で予備知識の差が大きく、見学場所によっては質問したりすることも難しく感じている学生もいた。
- 3日目の発表と質疑応答の時間を十分確保してほしい。

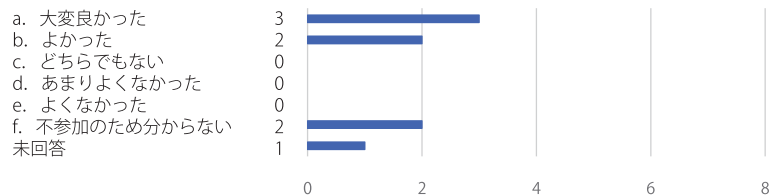
4. 各セッションについて

1) 地域診断グループワークセッションについて



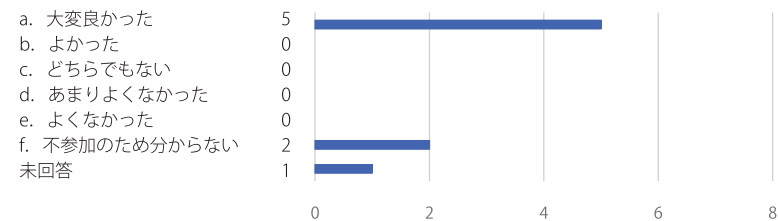
その他意見：お互いに教えあえることは良かったのですが、事前課題への学生同士の取り組みの違いがあったように感じました。

2) 外部講師セッション①について

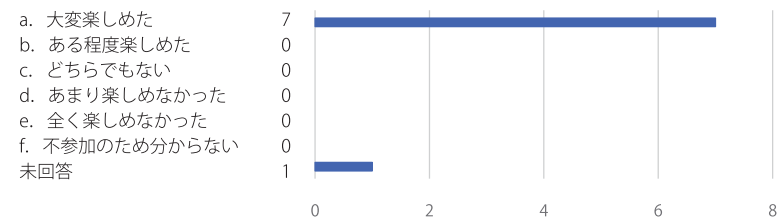


その他意見：とても勉強になりましたが、1～5年生の学生さんにとっては1度にたくさんの知識が入り、どこまで伝わったのか、やや心配です。出来ることならもっとゆっくり聞きたかったです。

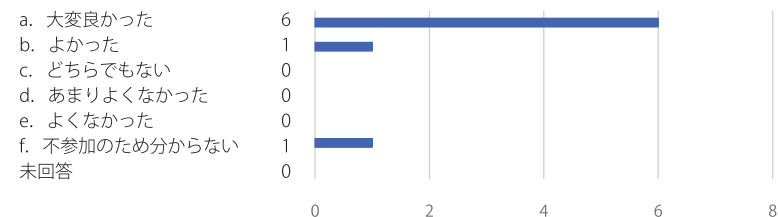
3) フィールドワーク1・2について



4) レクリエーション（ハイヤ踊り）懇親会について

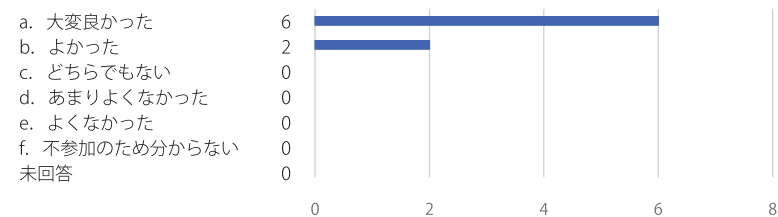


5) 外部講師セッション②について

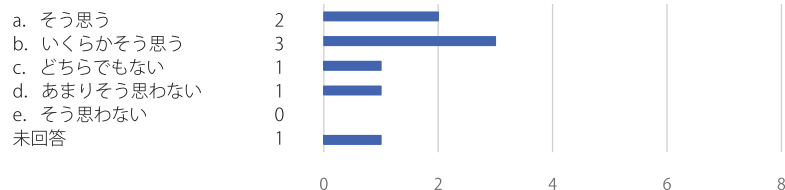


その他意見：先輩からの熱いメッセージ良かったです。

6) 最終日の全体発表について

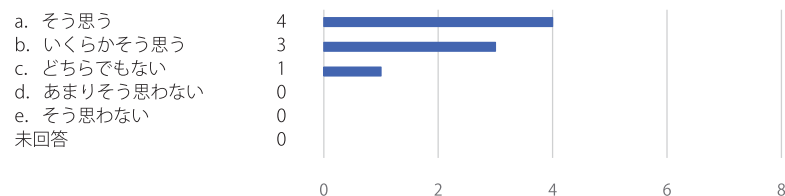


5. 今回、担当されたセッションに関して、スムーズに実施することができたでしょうか？



その他意見：準備時間が短く、メインのDrに負担が多くかかったのではないかと心配です。

6. 今回の夏季実習に関して、実習運営・事務局・司会などの仕事はよかったでしょうか？



その他意見：願わくはいろんな連絡がもう少し早ければと。

7. 最後に、その他コメント、全般的な感想がありましたら記載してください。

- メールでのやりとりで交通手段が2転3転してしまい手間をとらせてしまった。
- 夏季実習お疲れ様でした。
- 来年もよろしくお願いします！
- 本当に準備、実行お疲れ様でした。
- ありがとうございます。
- 個人的には大変満足しております。
- ありがとうございます。
- 自分自身についても、さらに地域医療について勉強できた。
- 学生についてもファシリテーターとしての立場で介入する難しさを経験できたのは良かったと思います。
- 今後も実習があるのであれば、また積極的に参加したいと思います。
- 医学生も看護学生もこの3日間で大きく成長したと感じた。
- 各自が地域医療に対する理解を深めたことを実感できた。
- 3日目の振り返りの時に初めて看護学生が笑顔になっていたのは印象的だった。

外部講師・教員から一言

外部講師

長洲クリニック 院長 松村 伸 先生

今回3回目の参加をさせていただきました。自分の得意分野のレクチャーであればすぐに提供できるのですが(患者中心の医療や各論的な診察や疾患について)、高柳先生がCOPCを含めたレクチャーをご希望されていたため、2週間弱なるべく学生さんにわかりやすく、参加できるようなグループワークを作ってみました。

自分が学生の時に予習をしたことがないので、そのような学生さんを対象としたワークとしましたが、予想以上にきちんと予習をしている学生さんが多かったので、レクチャーの時間を少なくしてワークの時間をもっと多くとってもよかったかなと思います。学生さんにとって簡単すぎて退屈だといけなないので、後半に研修医向けのレクチャーもあわせて行いましたが、こちらは難しすぎたようで、省略した方が良かった気がしました。本当は奥が深い家庭医療学について少しでも体験してもらえればと思って後半の部分についてお話ししました。

自分が学生の時にもっとパワーポイントの作成方法や資料の調べ方なども教えてもらいたいと思っていたので、フリーな時間をもう少し作ってもらって直接私たちが学生さんに教えてあげられれば研究発表や学会発表にも興味を持ってもらえるのではないかと思います、あまり教えてあげられなくて少し残念でした。またお誘いいただければうれしいです。

三重県立一志病院 鶴田 真三 先生

今年も実習に外部講師として参加させていただき、ありがとうございました。熊大や天草地域医療センターの先生方や各機関のスタッフの方々のご尽力のおかげで、最高に素晴らしい実習になったと思いました。今年は例年以上に、地域医療とは何か、なぜ地域医療を学ぶことが重要なのか、を体感できる実習だったと思います。診察室や手術室だけでは分からないものを感じることができましたし、優秀な学生さんたちにはその重要性を感じている方も多くいたと思います。

自分は地域密着型の総合診療医なので特に地域医療の重要性を普段から感じていますが、ぜひもっと多くの熊本の学生さんにも地域医療の重要性、楽しさを実感し、どの診療科に進んでも、地域に目を向ける意識と楽しみを持った医師になっていただきたいと思います。

自分も微力ではありますが、また熊本の地域医療や学生教育のためにご協力できればと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

三重大学大学院医学系研究科家庭医療分野 助教 北村 大 先生

毎年外部講師として参加させていただき、私自身も各地域を知るよい機会をいただいています。今年は事前に、インターネット等を通じて情報検索し、地域の現状・問題点の把握をするという課題がありました。グループでのディスカッションでは、よく調べられた内容を元に様々な意見が出ていました。翌日のフィールドワークの視点においても、活かされたのではないかと思います。

学年が上がるにつれて病院実習が増えていきます。どこにいても目の前の患者さんの抱える疾患について学習が主になると思います。ふとしたときに、実習・研修先の病院の地域について思いを馳せ、今回のようなリサーチをして、実際に地域を探索してみる、地域の実の声を聞いてみると、患者さんの背景に潜む地域の課題がみえてくるかもしれません。現地の医療関係者の話を聞く機会は、卒業してもなかなかあるものではありません。ぜひこのような機会を実際の勉強の場で活かしてもらえたらと思います。

京都協立病院 京都家庭医療学センター 横山 加奈子 先生

将来地域医療に従事することとなる可能性の高い学生を集めた実習でした。参加学生も1～5年生と知識のばらつきも大きい状態で、求められる発表内容もかなり高度な内容であり、参加学生は大変だったと思いますが、自主的に学ぶための仕組みもあり、充実した実習内容だったのではないかと思います。私自身も家庭医専攻医として地域診断というものに関心を持ついい機会となりました。（事前課題については、講師側も調べてくることを要求されており、天草地方のことを改めて知る良い機会となりました。）

また、今回の実習は特に行政側からの応援も大きかったとのことで、天草市長、天草医師会会長の懇親会への参加をはじめ、複数名の天草市職員の実習への同行や、実習計画立案の段階から行政側の積極的な実習先の提案などもあったと聞いており、僻地といわれる地域での医療体制問題への問題意識の大きさと、医療職確保に向けた意気込みを感じました。

講師陣についても、熊本大学所属の医師のみでなく、熊本縁の外部講師が各地から集まり、夜には講師のみで懇親会を行ったこともあり、コネクションを築き、各地で活躍される方々からの良い刺激を得ることができ、学生さんのみならず私にとっても実り多き実習でした。

この度は、講師としてご依頼お招きいただき、誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

頤田病院 松本 朋樹 先生

～地域の虫眼鏡～

「ああ、やっぱり地域には医師を志した時の、根っこの思いが沢山有るんだな。」最終日の皆さんの発表を聞いて、私が抱いた感想でした。医師として働く時、我々はしばしば自らの専門科、医局、職種というしがらみや仕組みに囲まれ、目の前の患者さんに「益のある」事が出来ているのか分からなくなる時があります。

今回、皆さんの発表の中で何度も、「人との繋がり」「支え合い」「周りの人々」という言葉を聞きました。我々医師は、患者を診る時それぞれの「虫眼鏡」を持ってその人を診ます。臓器別の専門性に特化した日本の医療では、細胞レベル、臓器レベルで話をしがちです。もう少し広い視野で、「その人の周囲の人」や、「住む地域」、ひいては「住んでいる国」を考える。これも立派な「医師」の仕事だと私は思います。今回の実習を通して、その虫眼鏡の存在に気づき、面白いと思った方は是非とも家庭医の世界にいらして下さい。

教員

地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任准教授 田宮 貞宏 先生

今回の夏季地域医療特別実習は地元の看護学生の参加があり、地域をフィールドとした専門職間連携教育への発展を期待させるものでした。具体的な課題の抽出、解決策の検討の過程でソーシャルキャピタルに触れながら、異なる視点を持った人々の考えを知ることとはとても有意義だったのではないのでしょうか。今後、さらに様々な医療職を目指す学生の参加などを働きかけるのも良いかもしれません。学生のうちに地域住民のみなさんのネットワークや行政の介入と関わる機会は教育資源としてますます重要なものとなると思います。これも地域医療機関、行政機関の皆様にご理解いただけてこそ可能となります。

ご協力いただきました皆様、大変ありがとうございました。

地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 小山 耕太 先生

今回、夏季地域医療特別実習に参加し2日目の新和地区でのフィールドワークを行いました。2025年に向けた機能別病床数の調整（図1）を前に、各地域における現状と、実際行われる調整にギャップがある事を実際に現地視察することで肌で感じることができました。そして、地域に長く貢献できる医師を如何に育成するか、参考になる情報を得ることができました。更に、地域医療実践教育玉名拠点が設置された当初からの「地域に貢献できる医師は、地域で育てる」というコンセプトが、如何に長期的な地域における医療の問題の解決に重要な意味を持つかを再確認することができ、その意味で今回の実習は、県修学資金貸与学生にとって、大変有意義であったと思います。

最後に、熊本における地域医療改革は既に始まっており、ある一定の成果もあがりつつあります。ゆっくりだけど、確実に前進です。

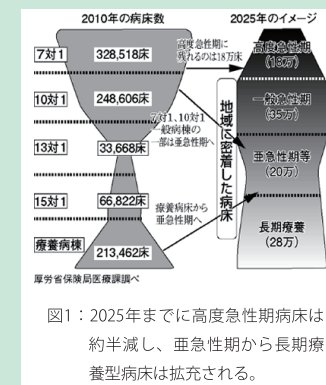


図1：2025年までに高度急性期病床は約半減し、亜急性期から長期療養型病床は拡充される。

地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 佐土原 道人 先生

この度、初めて夏季実習に参加させていただきました。天草という地域をフィールドとして、事前学習、問題点の抽出、実際の現場でのフィールドワークと良く練られた構成となっております。私自身は、学生の時に観光では天草には何度も行ったことがありますが、このような医療・福祉・行政、また、住民や生活の側面を実際にみる機会をえて、さらに天草を知るきっかけとなりました。

私は、栖本・倉岳地区にフィールドワークに行きましたが、地域の歴史・文化、祭りや慣習などソーシャルキャピタルの重要性和助け合い、支え合いの大切さと、それらを支える行政、特に財政の面での大変さが分かりました。これらは、最終日の発表には出席できませんでしたが、学生たちも同じように感じたものと思います。

最後に、実習にご協力いただき、ハイヤ祭り体験まで準備してくださいました、天草市および各所の関係者の方々に感謝申し上げます。

地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 高柳 宏史 先生

例年の夏季実習は医療機関で実施していました。しかし、医療を取り巻く環境は内外で変化し、従来の病気と対峙するだけでは解決しない問題が医療現場で頻繁に遭遇するようになっています。修学資金貸与学生である彼らが将来従事する地域ではより一層その傾向は強まり、医療だけでなく保健・介護・福祉分野との連携がなければ解決できない問題を取り扱うことになると思います。そういった思いから今年度は天草地域を共通項に医療以外の視点で地域と触れられるようにデザインしました。

地域の経済活動、教育的な背景、文化的背景、交通や輸送などインフラを含めて地域を知ることや、そんな地域の保健・介護・福祉分野で専門的に従事している人と話をすることについて、医学生や看護学生がどのように受け止められるのか不安もありました。また実習を終えて多くの課題や改善点があるのを痛感していました。しかし、彼らの実習後のレポートを読み、そんな実習であっても彼らはとても多くを学んでもらえたようで、とてもうれしく思います。

今回、新しい取り組みを計画立案した私と、参加者の学習を支えていただいた地域医療支援センターの皆様、外部講師の皆様、天草市関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。参加者の皆さんもお疲れ様でした。

地域医療・総合診療実践学寄附講座 特任助教 前田 幸佑 先生

2017年度の夏季実習は、これまでとは違い「地域を知る」というスタンスで執り行われました。私は過去に計4年間、天草地方での勤務経験があったため、ある程度の状況は知っていましたが、今回の実習に参加し、さらに天草をより深く知ることが出来ました。その中でも一番感動したことは、患者さんのことを心から考え、限られた資源の中でもまだまだ工夫できることが沢山あると、情熱を燃やして働いている職員の方々の姿を見ることが出来たことです。

おそらく地域を支えている一番のものは、そういった情熱なのではないかと改めて感じさせられました。

私は、ここまで計画された実習を過去に経験したことがありませんでした。ピアガーデンの屋上で、参加者全員で踊った牛深ハイヤも忘れられないものとなりました。

実習を計画して頂いた天草市役所の皆様、天草地域医療センターの皆様、その他ご協力頂いた医療機関・施設の皆様には心から感謝申し上げます。お陰様で、過去最高といっても過言ではない実習となりました。

最後に、天草って本当に素晴らしいところだなと改めて実感致しました。さらに大好きになりました。ありがとうございました。

地域医療・総合診療実践学寄附講座 医員 香田 将英 先生

今年度の夏季実習は、例年にも増してフィールドワークが充実し、「参加した、楽しかった」で終わらずに、「参画した、考えた」実習になったのではないのでしょうか。その場で簡単に解決できない課題も見えてきたと思います。私自身も、引率の立場として、とても学びの多い実習となりました。皆さんが事前ワークで調べたように、高齢者数増加には地域差があり、今後問題になるのは首都圏を始めとする都市部であり（東京都、大阪府、神奈川県、埼玉県、愛知県、千葉県、北海道、兵庫県、福岡県で、2025年までの全国65歳以上人口増加数の約60%を占めます）、天草医療圏の高齢者数は今後ほぼ不変で、65歳以上は2020年から、75歳以上は2030年を境に高齢者人口減少が始まります。10年後、20年後も変化する地域の実情に合わせた解決策を実行する将来の皆さんが、いま自分にどういった能力・要素が求められているか、実習後も継続して考え続けてくだされば、これほど心強いものはありません。

最後になりましたが、実習開催に際し、多大なご協力をいただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

熊本大学医学部附属病院 地域医療支援センター 特任助教 後藤 理英子 先生

夏季実習の参加も3回目となり、毎年私自身も様々な学びを得ています。

今回はグループ毎に担当教員が分かれ、より学生と密にコミュニケーションが取れました。フィールドワークでは天草消防本部や牛深地域を訪問し、天草全体の知識を持ちつつ、より深く牛深地域を知ることができました。学生も互いの発表を聞くことで、天草内でも地域毎に異なる地域医療の奥深さに気づけたのではないのでしょうか。私自身の課題として、学生にもっと発言の機会を増やしてあげられればよかったと感じていますが、たくさんの情報をお土産に、よく考えをまとめ、素晴らしい発表でした。

グループをまとめてくれた5年生、本当にお疲れ様でした。この経験は宝になるでしょうし、後輩たちも先輩の姿を見て後に続いてくれるものと楽しみにしています。

このように素晴らしい実習を体験でき、ご協力いただいた天草地域各機関の皆様にご改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さいごに

熊本大学医学部附属病院地域医療・総合診療実践学寄附講座が実施した夏季地域医療特別実習は、そもそも、2009年に同講座の前身の（旧）地域医療システム学寄附講座の設置と同年から始まった熊本大学医学部医学科における熊本県医師修学資金貸与制度と共に始まり、8年近くが経過しました。当初は、熊本大学の医師修学資金貸与学生、自治医科大学医学部生の熊本県出身者、有志の熊本大学医学部生の参加で、小ぢんまりとした実習であった様です。しかしながら、参加した医学生に地域医療の現状、課題、魅力を喚起させる一定の役割を果たしてきたと思われます。その後、熊本大学の医師修学資金貸与学生は増加し、2015年度からは卒業生も出始め、現在は在校生だけで50名近くとなりました。近年は、カリキュラムの関係や、多彩な学生の価値観の多様性等から、この実習に不参加の学生も毎年少なからずおり、更には入学後1回も参加していない学生も存在し、熊本大学の医師修学資金貸与制度やこの夏季地域医療特別実習の意義も問われる状況となっています。

その様な状況もあり、2017年度の夏季地域医療特別実習は、実習の在り方を改めて見直し、天草市関係者の多大なるご支援、地域医療支援センターの事務方のご尽力、地域医療・総合診療実践学寄附講座のスタッフの努力、天草看護学校有志の方々のご参加、そして外部講師の先生方のご協力、これらのお力が結集して、今までの中でも最も充実した実習になったと思っております。改めて、この場をお借りして、ご理解・協力頂いた方々には、心より感謝を申し上げます。参加した医学生のみならず、天草の地域医療関係者双方に、今後の地域医療の在り方に関して、少なからず好ましい学びが有ったなら幸いです。

一方で、今回の実習の準備段階や実施の中で、地域医療支援センターとしても、地域医療の改善を目指す為に、今後の地域医療の現場での医学教育や人材育成の在り方、そして、熊本県の医師修学資金貸与制度の在り方、そして、夏季地域医療特別実習の在り方、等に関しても、改めて考えさせられた事が多かったことも事実です。この報告書をお読みになられた方々はどの様にお感じなられたでしょうか？ご意見等ございましたら、是非お聞かせ願えればとも思っております。

今後、熊本大学医学部医学科の卒前教育の中で、臨床実習において「地域医療実習」が必修化されることとなり、また、新しい専門医制度も始まる予定ですし、更には今後、地域医療構想の推進も迫ると言った様に、地域医療を取り巻く状況は、年々変わってきております。我々も地域医療の現場の方々と様々な関わりを持ちながら、この夏季地域医療特別実習を今後どの様に行っていくかを考え、実施していきたいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

熊本大学医学部附属病院地域医療支援センター 谷口純一



平成29年度 夏季地域医療特別実習報告書

写真・制作・デザイン：中川実咲

熊本大学医学部附属病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座
地域医療支援センター

〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘1-1-1

TEL: 096-373-5627 FAX: 096-373-5796

E-mail: chiiki-iryo@kumamoto-u.ac.jp

寄附講座HPURL: <http://www.chiiki-iryo-kumamoto.org/dcfgm/>

